

# 履修ガイド

Guide for Course Registration

## 2024

駒沢女子大学

## 人間総合学群

Komazawa Women's University  
College of Human Studies





---

**\*この「履修ガイド」は卒業まで使用しますので、大切に扱ってください。**

---



# 目次

## 建学の精神・ポリシー

建学の精神と教育の目的	1
ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）	2
カリキュラム・ポリシー （教育課程編成・実施の方針）	10
アドミッション・ポリシー （入学者受け入れ方針）	13
アセスメント・ポリシー （学修成果の評価に関する方針）	15

## 大学4年間の流れ

1. 大学4年間の履修内容と流れ	21
2. 単位制	22
3. 学期制	22
4. 授業科目の分類	22
5. 卒業要件	23
6. 授業	23
7. 出欠席と出席の重要性	23
8. 授業の欠席	24
9. 休講	25
10. 補講	25
11. 学生による授業評価	25
12. 授業科目履修上の注意	26
13. 成績評価	27
14. 試験 定期試験実施内容と流れ	29 37
15. 再履修	38
16. 科目等履修生	38

## 履修の流れ

1. 卒業所要単位	41
2. 卒業論文・卒業研究（観光文化学類）の履修について	44
3. 卒業研究（住空間デザイン学類）の履修について	47
4. 学外実習について	47

5. 正課学外活動を含む科目の履修について	50
6. 留学について <ul style="list-style-type: none"><li>海外留学制度（6か月留学）について （人間文化学類英語コミュニケーション専攻のみ）</li><li>海外留学制度（観光実務実習）について （観光文化学類のみ）</li><li>個人留学の単位認定</li></ul>	50 51 51
7. 資格について <ul style="list-style-type: none"><li>教育職員養成課程の履修</li><li>博物館学芸員養成課程の履修</li><li>建築士受験資格取得のための履修</li><li>公認心理師受験資格取得のための履修</li><li>認定心理士について</li><li>旅行業務取扱管理者について</li><li>社会福祉主事任用資格について</li></ul>	52 52 54 55 55 56 56
8. 授業科目履修の手続き 履修登録の流れについて	58 59
9. 科目一覧 <ul style="list-style-type: none"><li>①科目一覧表の見方</li><li>②科目一覧表 目次</li></ul>	61 63
10. シラバスについて <ul style="list-style-type: none"><li>①科目分類</li><li>②学修指針 カリキュラムツリー カリキュラムマップ</li></ul>	88 89 90 91

## 学則

学則	115
----	-----





**建学の精神  
・  
ポリシー**





## 建学の精神と教育の目的

駒沢女子大学は、道元禅師の禅の教えを基盤とした「正念」と「行学一如」を建学の精神とし、「国際化・情報化の進展、女性の社会参加の拡大など、急速な社会構造の変化にのぞみ、十分に自己を実現し、新しい文化の創造的担い手となる人間性豊かな現代女性を養成すること」(学則第1条)を教育の目的としています。

「正念」というのは道元禅師の只管打坐の教えを教育の根本として示したもので、坐禅によって正しく物事を見つめ、とらえていくことです。私たちは「私」という心の窓から見える限定的な世界を見つめています。自分に関心のない事柄については、たとえ目の前にあっても気づかないことがあるように、いわば自分中心的な心の鏡を持っているといえるのです。坐禅はそのような偏り・こだわりのある心を一旦御破算にして、正しくものごとを見つめ、そして本当の自己(本来の面目)を再発見していくのです。

道元禅師に「本来の面目」というタイトルの和歌があります。すなわち「春は花 夏ほととぎす 秋は月 冬雪さえて すぐしかりけり」という歌です。この歌は川端康成がノーベル文学賞受賞の際、ストックホルムで行った「美しい日本の私」という講演で引用され、よく知られるようになりました。内容は四季折々の日本の自然を歌い上げていますが、実はこれは単なる風景描写ではありません。この歌は「本来の面目」、つまり本当の自己からありのままにみつめた心象風景といえるのであり、そこに大切な意味があることを川端も示唆しています。

次に「行学一如」というのは、実践すること(行)と学ぶこと(学)とを一体化させていくこと(一如)です。つまり「正念」によって確立された自己において、大学で学んだ多くの知識や技術を日常の実生活や社会に活かしていくことです。大学での学びは単に知的欲求を満たすだけのためにはありません。自己満足的に知識・教養を高めるのではなく、広く社会に反映させていくことが大切なのです。

また日々の実践を通して真の学びがあるともいえます。たとえば文学や哲学で「愛」や「友情」について深く考察するのも大切な勉強です。しかし一方において愛を抽象的に理解してみても実際には全然参考にならなかったり、現実と相反することもあるはずで、かけがえのない人と出逢い、時には共に喜び、時には悲しみ、苦悶する中で初めて学んだことをより深く受け止めることができるのではないのでしょうか。「行学一如」はそれぞれの学びにさらなる深まりがあることを示しているのです。

また道元禅師は『典座教訓』で禅寺の台所で炊事を司る<sup>てんぞ</sup>典座を取り上げ、炊事にも修行の大切な意味を見出しています。そして坐禅とともに日々の一つひとつの行いもないがしろにせず、精一杯努め、活かすことを強調しています。

このように本学では心を整え、自己を確立していく「正念」と実践的な学びを説く「行学一如」を教育の根本としています。

人間総合学群では、「人間諸科学の知と手法を基礎として、幅の広い教養及び実践的な技能を教授し、自分の力で考え判断できる能力を具えた、人間性豊かな女性を養成すること」(学則第4条)を教育の目的としています。皆さんも本学の教育の原点にこの建学の精神と教育の目的があることを確認していただきたいと思います。

# —ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）—

---

## 1. 駒沢女子大学のディプロマ・ポリシー

駒沢女子大学は、教育基本法及び学校教育法に基づき、道元禅師の禅を建学の精神とする伝統をふまえ、国際化・情報化の進展、女性の社会参加の拡大など、急速な社会構造の変化にのぞみ、十分に自己を実現し、新しい文化の創造的担い手となる人間性豊かな現代女性を養成することを目的としています（学則第1条）。

駒沢女子大学は、教育の理念（知性と理性を備えた心豊かな女性の育成）に基づき、以下のような資質・能力の養成を教育目標として掲げています（学則第1条の3）。

1. 自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成
2. 自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成
3. 社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成
4. 文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成

駒沢女子大学は、教育の目的、目標に則して編成された4年間の課程を学修し、卒業に要する所定の単位を修得することを学位授与の要件とします。

## 2. 学群・学類のディプロマ・ポリシー

### 人間総合学群

駒沢女子大学人間総合学群は、人間諸科学の知と手法を基礎として、幅の広い教養及び実践的な技能を教授し、自分の力で考え判断できる能力を具えた、人間性豊かな女性を養成することを目的としています（学則第4条の3の(1)）。

人間総合学群はその目的を達成するために、人間文化学類、観光文化学類、心理学類、住空間デザイン学類を置いています（学則第4条の2）。

駒沢女子大学人間総合学群は、教育の目的に則して編成された4年間の課程を学修し、卒業に要する所定の単位を修得することを学位授与の要件とします。

人間総合学群学修到達度確認表

教育目標	学修指針	レベル4（秀）	レベル3（優）	レベル2（良）	レベル1（可）
自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成 DP 1	教養力	広く社会・自然・人間について多角的な知見を有し、論点を整理しながら、解決へ向けて確実に探求し続けることができる。	広く社会・自然・人間について、多くの情報を適切に取捨選択しながら整理し、問題意識を深めていくことができる。	身の回りの事象について、複数の資料に目を通し、問題点を整理することができる。	身の回りのさまざまな事象について、関心を持つことができる。
	人間性	社会的ルールを遵守しつつ、仏教をはじめとして、人間存在に関する深い洞察を学び、人格的向上を目指すことができる。	多くの社会的価値観に触れ、柔軟なもの見方を身につけたうえで、社会のルールの基となる人間性に気付くことができる。	自身の健康に気を配り、社会のマナーやルールを守り、自分の周囲の人々の行動にも配慮することができる。	自身の健康に気を配り、社会のマナーや集団でのルールを守ることができる。
自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成 DP 2	コミュニケーション力	自らの考えを論理的に口頭で説明したり、高度な内容を、読者の反応を予想しつつ的確で効果的な表現を用いつつ文章化したりすることができる。	自らの考えを論理的に口頭で説明したり、読者の反応を予想しつつ、的確な表現を選びながら文章にまとめたりすることができる。	自らの考えをわかりやすく口頭で説明したり、簡潔な表現で文章にまとめたりすることができる。	自らの考えを口頭で説明したり、メモにまとめたりすることができる。
	社会性	現代社会の仕組みを深く理解し、自立した社会人としての責任感を身につけ、ボランティア活動など、社会をよりよくするための活動に参加することができる。	現代社会の仕組みを理解したうえで、よりよい社会を目指して一市民として社会活動に参加しようとするすることができる。	政治や経済など、現代社会の仕組みを理解し自分なりに問題点を見出すことができる。	現代社会の仕組みに関してある程度説明することができる。
社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成 DP 3	専門力	専門分野に関する深い知識を有し、当面する諸問題に適切に応用しつつ、新たな知見を求めて自らすすんで学習活動を維持することができる。	専門分野に関する深い知識を有し、当面する諸問題に適切に応用しつつ、自分なりの発見を目指そうとすることができる。	専門分野に関する知識を備え、各種の知識を自らが当面する問題に応用することができる。	専門分野に関する概念や専門用語が理解できる。
	判断力	授業や書物等から得た知識について、実証的に、論理的に批判し、その批判から新しい独自の考えを育てていくことができる。	授業や書物等から得た知識について、その反証となる事例を挙げつつ、論理的に批判することができる。	授業や書物等から得た知識について、論理的に矛盾点を見出し批判することができる。	授業や書物等から得た知識について批判的に対処することができる。
文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成 DP 4	技術力	各専門分野に必要となる高度な技術力を修得し、それに見合う各種資格等を取得し、さらに自らの技術を磨きつづけようとするすることができる。	専門分野の技能に習熟したうえで、各種資格を取得したり、各種検定等に合格したりすることができる。	専門分野で必要とされる基本技術を応用し物事に対応することができる。	専門分野で必要とされる基本技術を身につけることができる。
	実践力	自らすすんで眼前の問題と向かい合い、自分なりの方法論を駆使して、計画性をもって解決にまで導くことができる。	自らすすんで眼前の問題と向かい合い、解決法を考え、解決に向けて実行すべき手順を把握することができる。	自らすすんで眼前の問題と向かい合い、解決を求めて模索することができる。	眼前にある課題に対して、その問題点を把握することができる。

## 2-1 人間文化学類ディプロマ・ポリシー

人間文化学類は、文化や社会に対する理解と、実践的なコミュニケーション能力の双方を身につけることで、グローバルな時代の変化に対応でき、現代社会に参加し貢献していく資質を有する人材の育成を目的としています(学則第4条の3の(2))。

その目的を達成するために、人間文化学類は、コミュニケーション能力、社会的責務を果たすための判断力・実践力、社会で通用する専門力、社会で活躍するための技術力、といった生きるための基盤となる力を、教育課程全体を通して育成するとともに、日本文化専攻、人間関係専攻、英語コミュニケーション専攻の3専攻を置き、各専攻の専門教育科目を通じて以下の資質・能力を養成することを教育目標としています。

### 【日本文化専攻】

1. 日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成
2. 社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成
3. 日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成
4. 日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成

日本文化専攻学修到達度確認表

教育目標	学修指針	レベル4 (秀)	レベル3 (優)	レベル2 (良)	レベル1 (可)
日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成 DP 1	教養力	日本の文化・歴史・文学・言語について、複数の情報を適切に整理し問題解決に向けて多角的に知見を広げようとする事ができる。	日本の文化・歴史・文学・言語について、複数の情報を取捨選択しながら整理し、問題意識を深めていくことができる。	日本文化の事象について、複数の情報に目を通し、問題点を見出すことができる。	日本文化のさまざまな事象について、関心をもつことができる。
	人間性	日本社会の秩序や慣習を踏まえた人間存在に関する深い洞察力を持ち、人格の向上を目指すことができる。	さまざまな日本の価値観を理解し、柔軟なものの方見方を身につけ、日本社会の秩序や慣習を踏まえた人間性に気付くことができる。	日本の文化に裏付けられた価値観に触れ、自分の周囲の人々の行動にも配慮することができる。	日本の文化に裏付けられた秩序やさまざまな価値観に関心を持つことができる。
社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成 DP 2	コミュニケーション力	さまざまな知識に基づいた自らの考えを異なる意見の存在を意識しつつ、論理的に口頭で説明したり、適切に文章化することができる。	自らの考えを論理的に口頭で説明したり、的確な表現を選びながら文章にまとめたりすることができる。	自らの考えを効果的に口頭で説明したり、簡潔な表現で文章にまとめたりすることができる。	自らが理解したことを正確に説明したり、相手の話を的確に聞き取ったりすることができる。
	社会性	現代の日本社会の仕組みを深く理解し、自立した社会人にふさわしい責任感を持って共同作業に従事することができる。	現代の日本社会の仕組みを理解し、他者とスムーズに共同作業をすることができる。	現代の日本社会の仕組みを理解し、自分なりに問題点を見出すことができる。	社会の仕組みに関心を持ち他者と関わろうとすることができる。
日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成 DP 3	専門力	日本文化に関する深い専門知識を持ち、さまざまな問題に適切に応用しつつ、新たな知見を求めて自らすすんで学習活動を維持することができる。	日本文化の専門知識を深く理解し、さまざまな問題に適切に応用しつつ、自らの考えを持つことができる。	日本文化の専門知識を持ち、自らが関心を持つ問題に応用することができる。	日本文化に関する基本概念や専門用語を理解し、説明することができる。
	判断力	授業や書物等から得た日本文化の知識について、実証的に批判し、独自の論理的な考えを育てていくことができる。	授業や書物等から得た日本文化の知識について、その根拠となる資料を挙げつつ、論理的に批判しつつ考察を深めることができる。	授業や書物等から得た日本文化の知識について、論理的に問題点を見出し考察することができる。	授業や書物等から得た日本文化の知識について、問題点を見出すことができる。
日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成 DP 4	技術力	日本文化の諸分野について、独自の分析方法を確立し、情報等に関する優れた技術を用いて適切に課題解決をすることができる。	日本文化の諸分野について、さまざまな分析方法や、情報などに関する諸技術を用いて、的確に解決することができる。	日本文化の諸分野について、身につけた分析方法や、情報などのさまざまな技術を活用することができる。	日本文化の諸分野について、分析する方法や、情報に関する技術を身につけようと努力することができる。
	実践力	日本文化の問題に対して、積極的に向かい合い、独自の方法論を駆使して、計画的に解決まで努力し続けることができる。	日本文化の問題に対して、自ら進んで問題点を解決できるように計画を立てて実行することができる。	日本文化の問題に対して、自らすすんで向かい合い、その解決を模索することができる。	日本文化の問題に対して、その問題点に取り組もうとすることができる。

## 【人間関係専攻】

1. 人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成
2. 他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成
3. 人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成
4. 社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題の解決に向けて自ら行動する実践力の養成

人間関係専攻学修到達度確認表

教育目標	学修指針	レベル4 (秀)	レベル3 (優)	レベル2 (良)	レベル1 (可)
人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成 DP 1	教養力	人間関係に関する十分な基礎的な教養を有し、さらにそれを自分で高めていくことができる。	人間関係に関する基礎的な知識を有し、それを高める方法を知っている。	自分自身の人間関係に関する基礎的な知識で、足りない部分を認識できる。	人間関係について、自分の知っていることを述べることができる。
	人間性	自立した人間としての思考力を有し、自分自身を理解し自己の価値観・世界観を確立している。	自立した思考の必要性を理解し、自分自身の価値観を構築しようと努力している。	自分自身について客観的に見つめることができるようになる。	自分らしさとは何かを考えるようになる。
他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成 DP 2	コミュニケーション力	他人に共感し理解できる力を有する。また多様な価値観に応じて柔軟に自分自身を主張・発信することができる。	他者の存在を公平に認識し、それに対して理解し共感しながら自分の意見を発信できる。	他者の存在を公平に認識し、それに対して理解し共感することができる。	他者の存在を認めることができ、それぞれの価値観があることを理解している。
	社会性	積極的に多様な集団や社会とかかわることができ、自己の役割を考え貢献できるよう努力し達成する力がある。	グループワークなど集団作業において目標を自覚し、自分の役割を考え達成できるよう努力できる。	チームワークを理解し、その一員として積極的にかかわろうとする意欲があり、実行できる。	集団活動のメンバーとして何が求められているか、必要な要素を知ることができる。
人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成 DP 3	専門力	専攻するテーマを中心に、人間関係に関する専門的な知識を有し、それを高める方法を知っている。	専攻するテーマについて、多角的に情報を整理したうえで根拠を示しつつ考察することができる。	専攻するテーマについて、多角的に情報を整理することができる。	専攻するテーマについて、情報を集めることができる。
	判断力	人間や社会に関して直面する諸問題について課題を発見し、自分なりの解決策を見つけることができる。	人間や社会に存在する多様な問題について自己の視点から分析し、自分の言葉で論じることができる。	人間や社会におけるさまざまな問題を自己の関心に即して具体的に挙げることができる。	人間や社会に関するさまざまな問題があることを理解する力がある。
社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成 DP 4	技術力	社会と文化に関して学んだ知識・技術を自分の生活に取り込む適応力があり、さらにそれを高めることができる。	社会と文化に関して学んだ知識や技術を自己の生活に生かそうと努力できる。	社会と文化に関する知識や技術と、自分の生活との関連性を認識できる。	社会と文化に関する知識や技術を自分のものにしていく。
	実践力	生活するなかで起きる多様な問題に積極的に取り組む行動力と、解決できる実行力を有する。	生活するなかで起きる多様な問題に自分なりに取り組む行動力と解決できる実行力がある。	生活するなかで起きる多様な問題に自分なりに取り組む行動力がある。	生活するなかで起きる多様な問題に自分なりに取り組もうと努力する。

【英語コミュニケーション専攻】

1. 世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成
2. 社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成
3. 世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成
4. 世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成

英語コミュニケーション専攻学修到達度確認表

教育目標	学修指針	レベル4（秀）	レベル3（優）	レベル2（良）	レベル1（可）
世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成 DP 1	教養力	英語および英語圏の社会と文化に関する知識を体系化し、高度な文化的交流を実践することができる。	英語および英語圏の社会と文化に関する幅広い知識があり、一般的な文化的交流を実践することができる。	英語および英語圏の社会と文化に関する基礎的な知識があり、文化的交流の意義を理解して、自発的に参加することができる。	英語および英語圏の社会と文化に関する基礎的な知識があり、文化的交流の重要性を理解することができる。
	人間性	世界の言語（英語）・社会・文化に人間存在の普遍性を見出し、世界市民として行動することができる。	世界の言語（英語）・社会・文化に人間存在の普遍性を見出し、世界市民としての自覚を持つことができる。	世界の言語（英語）・社会・文化に人間存在の普遍性を見出し、世界市民としての規範を遵守することができる。	世界の言語（英語）・社会・文化に人間存在の普遍性を見出し、世界市民としての規範を理解することができる。
社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成 DP 2	コミュニケーション力	幅広い話題について相手の意図を理解し、自分の考えを英語や日本語で正確に表現しながら議論することができる。	一般的な話題について相手の意図を理解し、自分の考えを英語や日本語で主張しながら議論することができる。	自分の専門分野の話題について相手の意図を理解し、自分の考えを英語や日本語で述べながら議論することができる。	自分に関わりのある話題について相手の意図を理解し、自分の考えを英語や日本語で述べながら意見交換することができる。
	社会性	自らの社会的な使命と責任を自覚し、主体的に社会的な活動を全うすることができる。	自らの社会的な使命と責任を自覚し、主体的に社会的な活動に取り組むことができる。	自らの社会的な使命と責任を理解し、社会的な活動において、役割を全うすることができる。	自らの社会的な使命と責任を理解し、社会的な活動において、役割を担うことができる。
世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成 DP 3	専門力	専門領域の先行研究と関連分野の情報を収集し、知識を体系化して活用することができる。	専門領域の先行研究と関連分野の情報を収集し、知識を整理して活用することができる。	専門領域の先行研究を中心に、様々な情報を収集し、整理することができる。	専門領域の先行研究を中心に、様々な方法を活用して情報を収集することができる。
	判断力	研究領域の先行研究を批判的に分析し、独自の主張を論理的に展開することができる。	研究領域の先行研究を批判的に分析し、反証をあげながら評価することができる。	研究領域の先行研究を分析し、論理的な矛盾点を見出し指摘することができる。	研究領域の先行研究を分析し、主張の正当性を冷静に評価することができる。
世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成 DP 4	技術力	研究を日本語や英語を使って論理的で説得力のあるレポートやプレゼンテーションにまとめ、質疑応答ができる。	研究を日本語や英語を使って論理的で説得力のあるレポートやプレゼンテーションにまとめ、発表することができる。	研究や調査を統一的手法で日本語や英語を使ってレポートやプレゼンテーションにまとめ、発表することができる。	研究に関する情報を収集し、日本語や英語を使って統一的手法でレポートやプレゼンテーションにまとめることができる。
	実践力	問題を自ら発見し、主体的・計画的な取り組みを通して、解決策を導くことができる。	問題を自ら発見し、主体的・計画的な取り組みを通して、解決策を考えることができる。	所与の問題に主体的に取り組み、様々な解決策を検討し、提示することができる。	所与の問題に取り組み、様々な解決策を網羅的に検討することができる。

## 2-2 観光文化学類ディプロマ・ポリシー

観光文化学類は、国際人としての教養、観光の専門家となるための知識と技能を習得し、国際的な交流及び協力に貢献できる人材の育成を目的としています（学則第4条の3の(3)）。

その目的を達成するために、観光文化学類は、専門教育科目を通して以下の資質・能力を養成することを教育目標としています。

1. 観光・文化に関する学際的な教養と、多様な文化や価値観を受容することができる豊かな人間性の養成
2. 社会人にふさわしいコミュニケーション力と、目標達成に向けて他者と良好な関係を築きながら活動できる社会性の養成
3. 地域や社会の抱える課題に貢献できる専門性と、観光・文化に関する様々な問題に対する判断力の養成
4. 多様な文化の発展に寄与できる創造性に富む技術力と、着想を計画的に実行できる実践力の養成

観光文化学類学修到達度確認表

教育目標	学修指針	レベル4 (秀)	レベル3 (優)	レベル2 (良)	レベル1 (可)
観光・文化に関する学際的な教養と、多様な文化や価値観を受容することができる豊かな人間性の養成 DP 1	教養力	観光・文化に関する知識を他の分野の知識と関連付け、さまざまな状況で活用することができる。	観光・文化に関する知識を他の分野の知識と関連付けて、特定の状況で活用することができる。	観光・文化に関する知識と他の分野の知識を関連付けることができる。	観光・文化に関する知識を自らの経験と関連付けることができる。
	人間性	文化的背景の異なる人たちの視点を理解し、相手を尊重することができる。	文化的背景の異なる人たちと積極的に交流し、相手を受け入れることができる。	文化的背景の異なる人たちとの交流に参加し、異なる価値観に気づくことができる。	文化的背景の異なる人たちに対して関心を持つことができる。
社会人にふさわしいコミュニケーション力と、目標達成に向けて他者と良好な関係を築きながら活動できる社会性の養成 DP 2	コミュニケーション力	相手の立場に配慮した言葉や態度で、自信をもって意見を述べ、質疑応答ができる。	相手の立場を理解し、自分の意見を述べ、質疑応答ができる。	相手に質問し、相手からの質問に答えることができる。	相手の意見を聞き、自分の考えを伝えることができる。
	社会性	グループ全体に目を配り、消極的なメンバーの参加を促しながら、活動を円滑に進めることができる。	グループのメンバーの発言を促し、出された意見や論点を整理し、活動に貢献することができる。	グループにおける自分の役割を見出し、活動に参加することができる。	自らの社会的な使命グループでの活動に参加することができる。
地域や社会の抱える課題に貢献できる専門性と、観光・文化に関する様々な問題に対する判断力の養成 DP 3	専門力	分析に基づき、地域や社会の課題解決に向けた現実的な提案を行うことができる。	地域や社会の課題解決のため、収集した情報を評価し、的確に分析することができる。	地域や社会の課題解決のために必要な情報を様々な方法で収集することができる。	地域や社会の課題に関心を持ち、情報を収集することができる。
	判断力	観光・文化に関する問題について、データや資料を批判的に分析しながら、独自の考えを論理的に展開することができる。	観光・文化に関する問題について、データや資料を分析し、反証を挙げながら、考えをまとめることができる。	観光・文化に関する問題について、データや資料の矛盾点を見出し指摘することができる。	観光・文化に関する問題について、データや資料に基づいて考えることができる。
多様な文化の発展に寄与できる創造性に富む技術力と、着想を計画的に実行できる実践力の養成 DP 4	技術力	自ら問いを立て、テーマを設定して、レポートを作成し、説得力のあるプレゼンテーションをすることができる。	提示されたテーマや問いに新たな視点を加えながら、レポートを作成し、プレゼンテーションをすることができる。	提示されたテーマや問いについてのレポートを作成し、プレゼンテーションをすることができる。	提示されたテーマや問いについて、何を調査すべきか理解できる。
	実践力	学外での学びや取得資格を職業・業界分析や自らの進路決定に活かすことができる。	さまざまな学外での実践的な学びに積極的に参加するとともに、複数の資格取得に取り組むことができる。	学外での実践的な学びに参加するとともに、資格取得に取り組むことができる。	学外での実践的な学びや資格取得に関心を持つことができる。

## 2-3 心理学類ディプロマ・ポリシー

心理学類は、心理学の専門的知識及び技能を学修し、現代社会の多様化する心の問題に主体的に取り組み、社会に貢献できる人材の育成を目的としています（学則第4条の3の(4)の2）。

その目的を達成するために、心理学類は、専門教育科目を通じて以下の資質・能力を養成することを教育目標としています。

1. 人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成
2. 人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成
3. 人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成
4. 心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成

心理学類学修到達度確認表

教育目標	学修指針	レベル4 (秀)	レベル3 (優)	レベル2 (良)	レベル1 (可)
人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成 DP 1	教養力	自己や他者、他者との関係性、社会との関係性から、社会的問題や精神病理について、考えられる。	自己や他者、他者との関係性、さらには社会との関係性について問題意識を深められる。	自己や他者、そして他者との関係性についての心理学的問題を整理できる。	自己や他者、そして他者との関係性に関する心理について、関心をもつことができる。
	人間性	自己、他者、社会について心理学を基礎に深く考察し、積極的に自己実現を実践できる。	自己、他者、社会について心理学を基礎に考察し、積極的な自己実現を目指して努力できる。	自己、他者、社会について、心理学を基礎に考察し、自己の生き方を考える姿勢を身につけている。	自己、他者、社会について、心理学を基礎に考察することに、興味・関心をもつことができる。
人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成 DP 2	コミュニケーション力	自己実現のためのコミュニケーション力と社会性を獲得し、自己一致した達成感をもつことができる。	対人場面や集団内での役割や行動の理解ができ、かつ自己を保ちながら前向きな集団行動ができる。	自己理解ができ他者への肯定的な関心で、交流や会話での脈を汲み共感できる。	人や他者への関心を持ち、人と関わる基本的な心理を持ち、あいさつ、要求、説明などができる。
	社会性	現代社会の仕組みを把握し、自立した社会人にふさわしい責任感を持って共同作業に従事することができる。	現代社会の仕組みを説明することができ、他者とスムーズに共同作業をすることができる。	現代社会の仕組みを一通り説明することができる。	現代社会の仕組みに関して、ある程度説明することができる。
人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成 DP 3	専門力	先行研究や収集した情報を批判的に吟味し、そこから独自の問題提起とその解決法を示すことができる。	与えられた専門的テーマについて、情報を適切に分析した上で、根拠を示しつつ考察することができる。	日常の体験を心理学の専門用語を用いて説明することができる。	心理学的事象について関心を持ち、自分なりの考えを述べるができる。
	判断力	先行研究について論理的に批判し、その批判から新しい独自の考えを育てていくことができる。	先行研究について、その反証となる事例を挙げつつ、論理的に批判することができる。	先行研究について、論理的に矛盾点を見出し批判することができる。	先行研究について批判的に対することができる。
心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成 DP 4	技術力	専攻する研究対象について、適切な分析方法を用いて説得力のある結論を発表することができる。	専攻する研究対象について、適切な分析方法を用いて結果をまとめることができる。	専攻する研究対象について、一つの分析方法を用いて結果をまとめることができる。	専攻する研究対象について、一つの分析方法を持つことができる。
	実践力	心理学的な理論と知見を用いて、現代における文化的・社会的な現象について考察することができる。	心理学の理論や知見と、日常的な出来事との関連性を意識することができる。	心理学の理論や知見を導いているロジックを正確に理解することができる。	心理学という学問領域の基礎的な知見に興味をもつことができる。



## 2-4 住空間デザイン学類ディプロマ・ポリシー

住空間デザイン学類は、生活空間の演出を学修することにより、人が暮らしやすい社会の実現に貢献できる人材の育成を目的としています（学則第4条の3の(5)）。

その目的を達成するために、住空間デザイン学類は、専門教育科目を通じて以下の資質・能力を養成することを教育目標としています。

1. 建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成
2. 住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成
3. 住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成
4. 住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成

住空間デザイン学類学修到達度確認表

教育目標	学修指針	レベル4 (秀)	レベル3 (優)	レベル2 (良)	レベル1 (可)
建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成 DP 1	教養力	くらしの環境に関する多角的な知識を有し、より良いくらしの環境の創造を目指すことができる。	くらしの環境に関する基礎的な知識を有し、自らの問題として考えることができる。	くらしの環境に関する基礎的な知識を有し、問題点を指摘することができる。	くらしの環境について、自分の知っていることを述べるができる。
	人間性	くらしの環境のあり方を踏まえて広く人間存在について考察し、より良い住空間の実現を実践することができる。	くらしの環境のあり方について問題点を指摘し、より良い住空間を実現するために努力することができる。	くらしの環境のあり方について自分なりのポリシーを持ち、自己を表現することができる。	くらしの環境のあり方に沿ったルールやマナーを尊重することができる。
住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成 DP 2	コミュニケーション力	相手の立場を理解し、論理的で説得力のある口頭発表ができ、明晰な文章を書くことができる。	相手の立場を理解し、形式に沿った口頭発表ができ、わかりやすい文章を書くことができる。	相手の意図を理解し、自らの考えをわかりやすく説明することができる。	相手の意図を理解し、自らの考えを述べることができる。
	社会性	住まいとくらしの問題を把握し、自立した社会人にふさわしい責任感を持って共同作業に従事することができる。	住まいとくらしの問題について説明することができ、他者とスムーズに共同作業をすることができる。	住まいとくらしの問題について一通り説明することができ、共同作業に加わることができる。	住まいとくらしの問題について説明することができ、他者と関わろうとすることができる。
住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成 DP 3	専門力	住まいとくらしに関するテーマについて論理的に批判し、その批判から新しい独自の考えを育てていくことができる。	住まいとくらしに関するテーマについて、多角的に情報を整理した上で根拠を示しつつ考察することができる。	住まいとくらしに関するテーマについて、多角的に情報を整理し、処理することができる。	住まいとくらしに関するテーマについて、情報を集め、処理することができる。
	判断力	住まいとくらしに関する事例について論理的に批判し、その批判から新しい独自の考えを育てていくことができる。	住まいとくらしに関する事例について、その反証となる事例を挙げつつ、論理的に批判することができる。	住まいとくらしに関する事例について、論理的に問題点を見出し考察することができる。	住まいとくらしに関する事例について問題点を見出すことができる。
住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成 DP 4	技術力	住空間デザインに関する多様な技術力を有し、幅広い視点から問題に向き合い、実践することができる。	住空間デザインに関する多様な技術力を有し、課題に応じて実践することができる。	住空間デザインに関する基礎的な技術力を有し、自分なりに応用しながら実践することができる。	住空間デザインに関する基礎的な技術力を有し、実践することができる。
	実践力	自らすすんで問題を見つけ、解決に向けた計画手順を立て、実践することができる。	自らすすんで問題を見つけ、解決に向けた計画手順を立てることができる。	与えられた問題に対して、解決に向けた計画手順を立て、実践することができる。	与えられた問題に対して、解決に向けた計画手順を立てることができる。

# カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

## 1. 駒沢女子大学のカリキュラム・ポリシー

駒沢女子大学は、系統的な学修が行えるように配慮し、ディプロマ・ポリシーとして掲げる4つの教育目標のうち、(1) 自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成、(2) 自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成を達成するために、「教養教育科目（人間総合学群・人間健康学部・看護学部）」(3) 社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成、(4) 文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成を達成するために、「専門教育科目（人間総合学群・人間健康学部）」「専門基礎科目・専門科目（看護学部）」の枠を設定しています（人間総合学群カリキュラムツリー、人間健康学部・看護学部カリキュラムツリー）。

駒沢女子大学では、これらの教育目標が十全に達成されることを目的として、全学的にテラーメイド教育を実践し、以下のような教育方法を取り入れています。

1. 担任制度・アドバイザー制度
2. 少人数授業
3. 学修ポートフォリオ
4. 駒沢女子大学教科書シリーズ（授業内容に即した教科書の作成）
5. 授業録画
6. 再試験制度
7. 学修支援センターの設置
8. 組織的、効果的な教育が実行できる機関の設置

また、教育目標の達成度を確認するための評価基準（学修到達度確認表）、各科目がどのような力を育成することを主な目的としているかを示す学修指針（カリキュラムマップ）を用意しています。

## 2. 学群・学類のカリキュラム・ポリシー

### 人間総合学群

駒沢女子大学人間総合学群は、「教養教育科目」と「専門教育科目」の枠を設け、全学ディプロマ・ポリシーで掲げている4つの教育目標を達成するために必要なカリキュラムと教育方法を用意しています（人間総合学群カリキュラムツリー、各カリキュラムマップ）。

### 人間文化学類

人間文化学類は、ディプロマ・ポリシーで掲げた教育目標を達成するために、次のようなカリキュラム編成と授業を行います（人間総合学群カリキュラムツリー、人間文化学類各専攻カリキュラムマップ）。

#### （教育内容）

1. 自ら考え発信する実践力を身につけることを目標にカリキュラムを作成しています。
2. 1年次に、各専攻への進路選択に資するための基礎的な科目を設けています。
3. 2年次から4年次までの3年間を通じて、各専攻の専門力を育成する選択科目を設けています。

#### （教育方法）

1. 2年進級時に、日本文化専攻・人間関係専攻・英語コミュニケーション専攻に分かれ、専門教育を深めていきます。
2. 主体性を育むためにアクティブラーニングを取り入れた授業を行います。
3. 専門科目間の連携を重視した体系的な教育方法を取り入れています。

## (評価方法)

1. 外部機関等が主催する資格検定試験を用いて学修効果を高めます。
2. 2年終了時に、基礎レベルが修得できているかについて各種「学修到達度確認表」を用いて評価します。
3. 4年終了時に、卒業にふさわしい学修成果を得られたかについて各種「学修到達度確認表」を用いて評価します。

**観光文化学類**

観光文化学類は、ディプロマ・ポリシーで掲げた教育目標を達成するために、次のようなカリキュラム編成と授業を行います（人間総合学群カリキュラムツリー、観光文化学類カリキュラムマップ）。

## (教育内容)

1. 自ら考え、発信し、行動する力の育成を目標にカリキュラムを作成しています。
2. 1年次には基礎力と教養を育成するための科目に加えて、国家試験対策科目を設けています。
3. 2年次から4年次までの3年間を通して、専門力を育成する必修科目・選択科目を設けています。

## (教育方法)

1. 主体性を育成するために講義科目にアクティブラーニングを取り入れています。
2. 実践力を育成するために多様なインターンシップ科目、国内および海外旅行研修を設けています。
3. 専門科目間の連携を重視した体系的な教育方法を取り入れています。

## (評価方法)

1. 外部機関等が主催するさまざまな資格試験・検定試験を用いて、学力レベルを客観的に把握し、学習モチベーションを高めます。
2. 2年終了時に、基礎レベルが修得できているかについて各種「学修到達度確認表」を用いて評価します。
3. 4年終了時に、卒業にふさわしい学習成果を得られたかについて各種「学修到達度確認表」を用いて評価します。

**心理学類**

心理学類は、ディプロマ・ポリシーで掲げた教育目標を達成するために、次のようなカリキュラム編成と授業を行います（人間総合学群カリキュラムツリー、心理学類カリキュラムマップ）。

## (教育内容)

1. 自ら考え発信する実践力を身につけることを目標にカリキュラムを作成しています。
2. 1年次には基礎力と教養を育成するための科目に加えて、専門教育科目の一部を置いています。
3. 2年次から4年次までの3年間を通して、専門力を育成する必修科目・選択科目を設けています。

## (教育方法)

1. 主体性・創造性・思考力を育むためにアクティブラーニングを取り入れた授業を行ないます。
2. 豊富な実験・実習科目によって講義で学んだ知識を確認し、また、技術を修得します。
3. 専門科目間の連携を重視した体系的な教育方法を取り入れています。

(評価方法)

1. 外部機関等が主催する資格検定試験を用いて学修効果を高めます。
2. 2年終了時に、基礎レベルが修得できているかについて各種「学修到達度確認表」を用いて評価します。
3. 4年終了時に、卒業にふさわしい学修成果を得られたかについて各種「学修到達度確認表」を用いて評価します。

**住空間デザイン学類**

住空間デザイン学類は、ディプロマ・ポリシーで掲げた教育目標を達成するために、次のようなカリキュラム編成と授業を行います（人間総合学群カリキュラムツリー、住空間デザイン学類カリキュラムマップ）。

(教育内容)

1. 自ら考え発信する実践力を身につけることを目標にカリキュラムを作成しています。
2. 1年次から2年次までの2年間を通じて、学類の教育目標のうち主に1と2を達成するための基礎力を育成する必修科目を設けています。
3. 3年次から4年次までの2年間を通じて、学類の教育目標のうち主に3と4を達成するための専門力を育成する選択科目を設けています。

(教育方法)

1. 3年次に、インテリアデザインコース、建築デザインコースに分かれて専門教育を深めていきます。
2. 主体性を育むためにアクティブラーニングを取り入れた授業を行います。
3. 専門科目間の連携を重視した体系的な教育方法を取り入れています。

(評価方法)

1. 外部機関等が主催する資格検定試験やデザインコンペティション等を用いて学修効果を高めます。
2. 2年終了時に、基礎レベルが修得できているかについて各種「学修到達度確認表」を用いて評価します。
3. 4年終了時に、卒業にふさわしい学修成果を得られたかについて各種「学修到達度確認表」を用いて評価します。

# アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）

## 1. 駒沢女子大学のアドミッション・ポリシー

駒沢女子大学は、建学の精神、教育の理念を理解し、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成および実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）が定める教育を受けるために求められる基礎的な知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性を身につけている人を求めます。そのために多様な受験生に対応する入学者選抜を用意し、多面的かつ総合的な選抜を適正に実施します。

## 2. 学群・学類のアドミッション・ポリシー

### 人間総合学群

人間総合学群では、次のような学生を求めます。

1. 高等学校等の教育課程を通じて、本学群での教育を修めるために必要となる基礎的な知識・技能等を身につけている人
2. 高等学校等の教育課程を通じて、各学類・専攻が教育目的として掲げる幅広い教養と専門的な知識・技能等を修得するための学習習慣を身につけている人
3. 大学での学びに必要な基礎的な日本語力とコミュニケーション力を身につけている人
4. 多様な人々と協働して主体的に学ぼうとする姿勢と社会に貢献したいという意欲をもつ人

### 人間文化学類

人間文化学類では、次のような学生を求めます。

1. 人間の文化、歴史、社会に関する基礎的な知識（たとえば高等学校等までの国語、外国語、地理歴史、公民などの学習内容）を身につけている人
2. 自らが関心をもつ分野（日本文化、人間関係、英語コミュニケーション）に関する知識・技能等を修得しようという意欲をもち、学習する習慣を身につけている人
3. 自らが関心をもつ分野を学ぶ上で必要となる基礎的な日本語力とコミュニケーション力を身につけている人
4. 多様な他者と共生する社会の中で主体的に学び続け、人間文化に関する学修を生かして社会に貢献しようという意欲をもつ人

### 観光文化学類

観光文化学類では、次のような学生を求めます。

1. 高等学校等の国語・外国語・地理歴史・公民などの教科に関心があり、日本と世界の文化・歴史・社会に関する基礎的な知識を身につけている人
2. 観光・文化に関心があり、幅広い知識・教養・実践力を身につける意欲をもつ人
3. 大学での学びに必要な基礎的な日本語力とコミュニケーション力を身につけている人
4. 多様な価値観を受け入れ、他者と協働して社会に貢献する意欲をもつ人

---

## 心理学類

心理学類では、次のような学生を求めます。

1. 人の心理に興味があり、社会と人間について基本的な知識（高等学校等の国語、外国語（英語）、公民（現代社会）、保健体育、芸術（美術・音楽）などの教科に関連する知識）を身につけている人
2. 心理学の専門的知識と方法論を学ぼうとする意欲をもつ人
3. 大学での学びに必要な基礎的な日本語力とコミュニケーション力を身につけている人
4. 他者と交流し、多くの人とともに協働的に活動する姿勢を備えている人

## 住空間デザイン学類

住空間デザイン学類では、次のような学生を求めます。

1. 建築、インテリアのデザインやものづくりなどに関心があり、高等学校等の国語・情報などの教科を学習する意欲がある人
2. 幅広い興味を持って物事に取り組み、目標に向かって努力する姿勢を備えている人
3. 大学での学びに必要な基礎的な日本語力とコミュニケーション力を身につけている人
4. 住まいや暮らしなどを通して社会人として活躍したいという意識・意欲をもつ人

# アセスメント・ポリシー（学修成果の評価に関する方針）

駒沢女子大学は、ディプロマ・ポリシー（DP）、カリキュラム・ポリシー（CP）、アドミッション・ポリシー（AP）等の妥当性の検証を目的として、また、①学生の学修の質を高めるため、②教員の教育改善を促すため、③社会に対する説明責任を果たすために、学修成果の評価・検証を恒常的に行います。結果については、適宜概要を公表するとともに、学生にフィードバックします。

使用する評価指標は、1. 大学、2. 教育課程（学位）、3. 授業科目の各レベル、及び、A. 入学前・入学直後（アドミッション・ポリシーに比して弱点が無いかどうか）、B. 在学中（カリキュラム・ポリシーに沿った学修内容であるか否か）、C. 卒業時・卒業後（ディプロマ・ポリシーを満たす人材であるか否か）、の9枠に分けて管理しています（下表参照）。

学修成果の評価・検証を行うための指標一覧表

	A 入学前・入学直後 (アドミッション・ポリシー)	B 在学中 (カリキュラム・ポリシー)	C 卒業時・卒業後 (ディプロマ・ポリシー)
1. 機関（大学）レベル (全学 3P)	・入学者選抜結果 ・基礎学力テスト	・休学率 ・退学率等 ・スチューデントプロフィール ・学修到達度確認調査	・卒業（学位授与）率 ・就職率、進学率 ・卒業年次アンケート ・卒業後追跡アンケート
2. 学位（教育課程）レベル (学群・学類・専攻 3P) (学部・学科 3P)	・入学者選抜結果 ・調査書等の記載内容 ・学生調査票	・GPA ・休学復学状況 ・退学状況等 ・単位修得状況 ・基礎学力テスト ・スチューデントプロフィール ・学修到達度確認調査 ・外部機関試験	・GPA ・学位授与数 ・国家試験合格状況 ・免許資格等取得状況 ・卒業認定評価 ・卒業年次アンケート
3. 授業科目レベル (講義・実技・演習)	・英語クラス分けテスト	・成績評価 ・出欠状況 ・授業評価アンケート ・学生自己評価 ・学修ポートフォリオ	

(学群・学部により、実施しないものを含む)

※3Pとは、ディプロマ・ポリシー（DP）、カリキュラム・ポリシー（CP）、アドミッション・ポリシー（AP）の3つのポリシーのことを指します。

## 1. 機関（大学）レベルのアセスメント・ポリシー

駒沢女子大学は、機関（大学）レベルにおいて、以下の評価指標を用い学修成果等の評価・検証を行います。

### 【入学前・入学直後】

- (1) 入学者選抜結果：各種入学者選抜により、APに比して弱点が無いかどうかを判定します。
- (2) 基礎学力テスト：入学後の学修のために必要な基礎学力の評価と弱点補強指導を全学規模で行います。

### 【在学中】

- (1) 休学率：全学の休学状況、休学内容の検証と分析を年2回行い、休学率を公表します。
- (2) 退学率等：全学の退学、除籍、停学等の状況と内容を定期的に把握し、退学率等を公表します。
- (3) 学修到達度確認調査：全学DPに掲げる能力（教養力・人間性・コミュニケーション力・社会性・専門力・判断力・技術力・実践力）の到達目標を測るために、学生は、学修到達度確認表等を用い自己評価を行い、また、担当教員は学生の自己評価結果を確認します。

### 【卒業時・卒業後】

- (1) 卒業（学位授与）率：卒業（学位授与）状況に関する評価と検証を実施し公表します。
- (2) 就職率・進学率：就職・進学状況全般に関する検証と分析を実施し公表します。
- (3) 卒業年次アンケート：卒業生全員にアンケート調査を実施し、結果を検証、分析します。
- (4) 卒業後追跡アンケート：就職先の企業等に対する雇用者アンケートを適宜実施します。

## 2. 教育課程（学位）レベルのアセスメント・ポリシー

駒沢女子大学は、教育課程（学位）レベルにおいて、以下の評価指標を用い学修成果等の評価・検証を行います。

### 【入学前・入学直後】

- (1) 入学者選抜結果：一般選抜・大学入学共通テスト利用選抜・学校推薦型選抜（人間総合学群・人間健康学部・看護学部）、総合型選抜（人間総合学群・人間健康学部）等により、学群・各学部の AP に比して弱点がないかどうかを判定します。
- (2) 調査書等の記載内容：人間総合学群・人間健康学部・看護学部、各 AP のなかで、数値化の難しい事項を判定する際に参照することがあります。
- (3) 学生調査票：人間総合学群・人間健康学部・看護学部学生の入学当初の学修環境を知るための参考資料とします。

### 【在学中】

- (1) GPA：GPA を用い、学修到達度確認表に基づいた成績情報の掌握と分析を行い、学群・学類・専攻、各学部・各学科の CP（教育内容・教育方法・評価方法）、及び、カリキュラムマップの適切性を評価・検証します。
- (2) 休学復学状況：学群・学類・専攻、学部・学科単位で、休学復学状況、休学内容の検証と分析を年 2 回行います。
- (3) 退学状況等：学群・学類・専攻、学部・学科単位で、退学、除籍、停学等の状況と内容の検証、分析を行います。
- (4) 単位修得状況：スチューデントプロフィール等を用い、学群・学類・専攻、学部・学科単位で、各学生の単位修得状況を学期修了毎に把握します。
- (5) 基礎学力テスト：2 年次以降の学生に対して、学修のために必要な基礎学力の評価を、学群・学類・専攻、学部・学科単位で行います。
- (6) 学修到達度確認調査：学群・学類・専攻、学部・学科 DP に掲げる能力の到達目標を測るために、学生は、学修到達度確認表等を用い自己評価を行い、また、担任・アドバイザーは学生の自己評価結果を確認します。
- (7) 外部機関試験：外部機関が主催する実力認定試験等を用い、知識の修得度を測ります。

### 【卒業時・卒業後】

- (1) GPA：GPA を使用して、卒業判定、本山賞、卒業生代表謝辞候補者の判定を行います。
- (2) 学位授与数：学群・学類・専攻、学部・学科単位で、学位授与数を把握し、公表します。
- (3) 国家試験合格状況：人間健康学部（健康栄養学科）、看護学部（看護学科）は、国家試験合格状況を把握し、公表します。
- (4) 免許・資格等取得状況：学群・学類・専攻、学部・学科単位で、各種免許、資格、検定等の取得状況を把握し、検証と分析を行います。
- (5) 卒業認定評価：学群・学類・専攻、学部・学科（学位単位）の CP で定められた評価方法、及び学修到達度確認表を使い、DP に掲げる能力が達成されているか否かを判定します。
- (6) 卒業年次アンケート：卒業生全員にアンケートを行い、学群・学類・専攻、学部・学科単位の検証を行ったうえで、分析結果を在学生に公表、反映します。



### 3. 授業科目レベルのアセスメント・ポリシー

駒沢女子大学は、授業科目レベルにおいて、以下の評価指標を用い学修成果等の評価・検証を行います。

#### 【入学前・入学時】

- (1) 英語クラス分けテスト：必修英語については、事前に英語クラス分けテストを実施し、学力レベルに応じた授業を行います。

#### 【在学中】

- (1) 成績評価：教員は、シラバスの記載内容に基づき、また GPA バランスを考慮しながら成績評価を行います。
- (2) 出欠状況：授業単位で出欠席状況を管理します。全 15 回の出席が単位修得条件となっている授業科目もあります。
- (3) 授業評価アンケート：学生による授業評価アンケートを、原則として全科目で実施し、教育改善に役立てます。結果は、定められた方法で公表します。
- (4) 学生自己評価：各授業が選んだ DP で規定される身につけるべき能力（学修指針）、及びシラバスに記載された到達目標について、学生自身がどの程度達成したかを自己評価し、その結果を授業改善に役立てます。
- (5) 学修ポートフォリオ：学生は学修ポートフォリオを使い学修履歴を適宜確認します。

駒沢女子大学 アセスメント・ポリシー マップ

	A 入学前・入学直後（アドミッション・ポリシーを満たしているか否か）	B 在学中（カリキュラム・ポリシーに沿った学修内容であるか否か）	C 卒業時・卒業後（ディプロマ・ポリシーを満たす人材であるか否か）
1 機関（大学） レベル	<p>(1) 入学者選抜結果：各種入学者選抜により、AP に比して弱点が無いかどうかを判定します。</p> <p>(2) 基礎学力テスト：入学後の学修のために必要な基礎学力の評価と弱点補強指導を全学規模で行います。</p>	<p>(1) 休学率：全学の休学状況、休学内容の検証と分析を年2回行い、休学率を公表します。</p> <p>(2) 退学率等：全学の退学、除籍、停学等の状況と内容を定期的に把握し、退学率等を公表します。</p> <p>(3) 学修到達度確認調査：全学 DP に掲げる能力（教養力・人間性・コミュニケーション力・社会性・専門力・判断力・技術力・実践力）の到達目標を測るために、学生は1年に一度、学修到達度確認表を用い自己評価を行い、また、担当教員は学生の自己評価結果を確認します。</p>	<p>(1) 卒業（学位授与）率：卒業（学位授与）状況に関する評価と検証を実施し公表します。</p> <p>(2) 就職率・進学率：就職・進学状況全般に関する検証と分析を実施し公表します。</p> <p>(3) 卒業年次アンケート：卒業生全員にアンケート調査を実施し、結果を検証、分析します。</p> <p>(4) 卒業後追跡アンケート：就職先の企業等に対する雇用者アンケートを適宜実施します。</p>
2 学位（教育課程） レベル	<p>(1) 入学者選抜結果：一般選抜・大学入学共通テスト利用選抜・学校推薦型選抜（人間総合学群・人間健康学部・看護学部）、総合型選抜（人間総合学群・人間健康学部）により、学群・各学部の AP に比して弱点が無いかどうかを判定します。</p> <p>(2) 調査書等の記載内容：人間総合学群・人間健康学部・看護学部、各 AP のなかで、数値化の難しい事項を判定する際に参照することがあります。</p> <p>(3) 学生調査票：人間総合学群・人間健康学部・看護学部学生の入学当初の学習環境を知るための参考資料とします。</p>	<p>(1) GPA：GPA を用い、学修到達度確認表に基づいた成績情報の把握と分析を行い、学群・学類・専攻、各学部・各学科の CP（教育内容・教育方法・評価方法）、及び、カリキュラムマップの適切性を評価・検証します。</p> <p>(2) 休学復学状況：学群・学類・専攻、学部・学科単位で、休学復学状況、休学内容の検証と分析を年2回行います。</p> <p>(3) 退学状況等：学群・学類・専攻、学部・学科単位で、退学、除籍、停学等の状況と内容の検証、分析を行います。</p> <p>(4) 単位修得状況：スチューデントプロフィール等を用い、学群・学類・専攻、学部・学科単位で、各学生の単位修得状況を学期修了毎に把握します。</p> <p>(5) 基礎学力テスト：2年次以降の学生に対して、学修のために必要な基礎学力の評価を、学群・学類・専攻、学部・学科単位で行います。</p> <p>(6) 学修到達度確認調査：学群・学類・専攻、学部・学科 DP に掲げる能力の到達目標を測るために、学生は1年に一度、学修到達度確認表を用い自己評価を行い、また、担任・アドバイザーは学生の自己評価結果を確認します。</p> <p>(7) 外部機関試験：外部機関が主催する実力認定試験等を用い、知識の修得度を測ります。</p>	<p>(1) GPA：GPA を使用して、卒業判定、本山賞、卒業生代表謝辞候補者の判定を行います。</p> <p>(2) 学位授与数：学群・学類・専攻、学部・学科単位で、学位授与数を把握し、公表します。</p> <p>(3) 国家試験合格状況：人間健康学部（健康栄養学科）、看護学部（看護学科）は、国家試験合格状況を把握し、公表します。</p> <p>(4) 免許・資格等取得状況：学群・学類・専攻、学部・学科単位で、各種免許、資格、検定等の取得状況を把握し、検証と分析を行います。</p> <p>(5) 卒業認定評価：学群・学類・専攻、学部・学科（学位単位）の CP で定められた評価方法、及び学修到達度確認表を使い、DP に掲げる能力が達成されているか否かを判定します。</p> <p>(6) 卒業年次アンケート：卒業生全員にアンケートを行い、学群・学類・専攻、学部・学科単位の検証を行ったうえで、分析結果を在学生に公表、反映します。</p>
3 授業科目 レベル	<p>(1) 英語クラス分けテスト：必修英語については、事前に英語クラス分けテストを実施し、学力レベルに応じた授業を行います。</p>	<p>(1) 成績評価：教員は、シラバスの記載内容に基づき、また GPA バランスを考慮しながら成績評価を行います。</p> <p>(2) 出欠状況：授業単位で出席状況を管理します。全15回の出席が単位修得条件となっている授業科目もあります。</p> <p>(3) 授業評価アンケート：学生による授業評価アンケートを、原則として全科目で実施し、教育改善に役立ちます。結果は、定められた方法で公表します。</p> <p>(4) 学生自己評価：各授業が選んだ DP で規定される身につけるべき能力（学修指針）、及びシラバスに記載された到達目標について、学生自身がどの程度達成したかを自己評価し、その結果を授業改善に役立ちます。</p> <p>(5) 学修ポートフォリオ：学生は学修ポートフォリオを使い学修履歴を適宜確認します。</p>	



# 大学4年間の 流れ



## 1. 大学4年間の履修内容の流れ

### 1-1. (人間文化学類)

- 1年次 【教養教育科目】を中心に履修。(後期に2年次からの学類・専攻を確定)
- 2年次 自専攻の【専門教育科目】を中心に履修。その他【教養教育科目】の未修得科目を履修。
- 3年次 専門ゼミ履修開始。他の履修科目は2年次に準じる。
- 4年次 専門ゼミを履修、卒業論文(選択制)。他の履修科目は2年次に準じる。

### 1-2. (観光文化学類)

- 1年次 【教養教育科目】を中心に履修。一部1年次に履修すべき【専門教育科目】があるので注意すること。(後期に2年次からの学類・専攻を確定)
- 2年次 自学類の【専門教育科目】を中心に履修。その他【教養教育科目】の未修得科目を履修。
- 3年次 専門ゼミ履修開始。他の履修科目は2年次に準じる。
- 4年次 3年次で選んだ専門ゼミと同一の専門ゼミを履修、卒業研究(選択制)。他の履修科目は2年次に準じる。

### 1-3. (心理学類)

- 1年次 【教養教育科目】を中心に履修。(後期に2年次からの学類・専攻を確定)
- 2年次 自学類の【専門教育科目】を中心に履修。その他【教養教育科目】の未修得科目を履修。  
前期 アドバイザーゼミ ガイダンス・希望調査・決定  
後期 アドバイザーゼミ(卒業所要単位に含まれない)参加を通して、専門ゼミの準備
- 3年次 専門ゼミ履修開始。他の履修科目は2年次に準じる。
- 4年次 引き続き同一の専門ゼミを履修、卒業論文(選択制)。他の履修科目は2年次に準じる。

### 1-4. (住空間デザイン学類)

- 1年次 【教養教育科目】を中心に履修。一部1年次に履修すべき【専門教育科目】があるので注意すること。(後期に2年次からの学類・専攻を確定)
- 2年次 自学類の【専門教育科目】を中心に履修。その他【教養教育科目】の未修得科目を履修。  
コース・専門ゼミガイダンス(12月)  
コース・専門ゼミ希望調査(12月)  
コース・専門ゼミ決定および発表(3月)
- 3年次 専門ゼミの履修開始。他の履修科目は2年次に準じる。
- 4年次 専門ゼミを履修。卒業研究(選択制)。他の履修科目は2年次に準じる。

## 2. 単位制

- (1) 授業科目の履修は単位制をとっています。単位制とは、授業科目を履修し、所定の試験またはレポートなどによる成績評価の結果、合格することにより、各授業科目で定められている単位を修得していく制度です。
- (2) 単位の計算基準は次に示す表のとおりです。

区 分	授 業 時 間	自 習 時 間	単 位 数
講 義	2時間×15週	4時間×15週	2単位
演習・実習・実技	2時間×15週	1時間×15週	1単位

## 3. 学期制

本学の授業は、前期・後期の2期に分けて実施されます。

## 4. 授業科目の分類

授業科目は、以下に分類されます。

### (1) 卒業要件による分類

- 必修科目 卒業するために、必ずその単位を修得しなければならない科目
- 選択必修科目 卒業するために、定められた科目群の中から、指定された単位を修得しなければならない科目
- 選択科目 各自が自由に選んで選択・履修でき、卒業に必要な単位として算定される科目

### (2) 科目群による分類

- 教養教育科目 広い教養や基礎的な学力・技術を学ぶ学群共通の科目  
初年次教育科目、建学の精神を学ぶ科目、入門科目、教養知科目、実践知科目、技法知科目、特設科目などがあります。
- 専門教育科目 各学類の専門知識・技術を学ぶ科目  
コース制を採用する学類では、各コース別専門科目に分かれます。講義、実習、卒業論文・卒業研究、演習・ゼミなどの形態があります。

### (3) 資格による分類

本学で取得できる資格または受験資格には、以下のものがあります。

資格に関連する科目には、卒業所要単位に含まれないものがあるので注意してください。

資 格 の 種 類	対 象
教育職員免許状 (学校図書館司書教諭資格)	人間文化学類 日本文化専攻 人間文化学類 英語コミュニケーション専攻
博物館学芸員	全学類
建築士 受験資格	住空間デザイン学類
公認心理師 受験資格(大学院修了までが基本コース)	心理学類

#### (4) 開講時期による分類

授業の開講時期には次の種類があります。  
実施時期、期間を理解して受講してください。

通年科目	年間を通して履修する科目（成績評価は年に1回）
半期科目	前期または後期の半年間履修する科目（成績評価は各学期末）
集中講義科目	ある時期集中して講義が行われる科目（夏期・冬期休業期間など） ※実施時期により、その学期の卒業予定者は履修できない場合があります。

#### (5) 特設科目

留学生および帰国生徒を対象とした科目です。

## 5. 卒業要件

以下の3つの要件を満たしていることが必要です。

- (1) 卒業に必要な修得単位を修得していること（学則第32条、第33条）。
- (2) 4年以上在学すること（学則第33条）。ただし、修業最低年数は4年間とし、8年を超えて在学することはできない（学則第17条、第18条）。
- (3) 所定の学費を完納していること（学則第44条）。

## 6. 授 業

本学では、1時限の授業時間が90分となっています。

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50

授業を受けるときは以下のことに注意してください。

- ・遅刻、欠席をしない。
- ・授業中の私語は慎む。
- ・黙って席をはなれない。
- ・携帯電話などの電源は原則 OFF にする。

## 7. 出欠席と出席の重要性

単位を修得するためには1授業科目につき、定められた時数の出席が必要になります。なお、実習や忌引、学校感染症で授業を欠席した場合は、公欠扱いとなります。

授業は、教員と学生が直接人間的なふれあいを通して学問する場であり、学生生活の基本となるものです。よって、出席状況は成績評価の重要な要素になります。

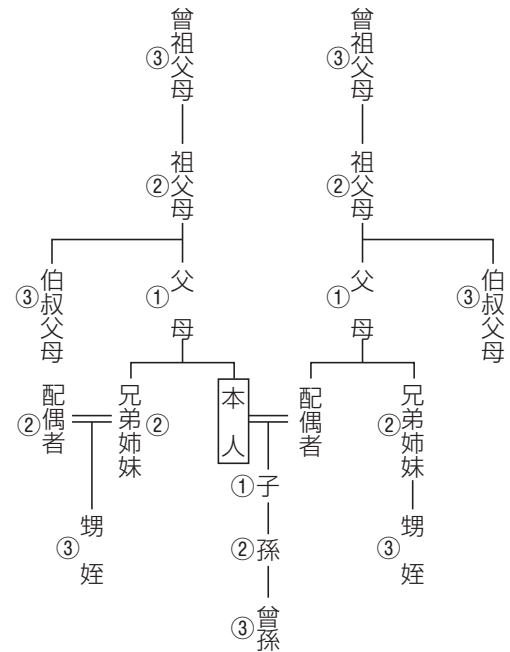
なお、出席状況によっては、定期試験の受験資格がなくなる場合や、定期試験などを受験しても単位を修得できない場合があります。

## 8. 授業の欠席

### (1) 忌引（公欠扱いとなります）

近親者の死去により欠席した場合は、欠席後1週間以内に「欠席申告届」に会葬礼状などの書類を添付して教務課に提出してください。

忌引の範囲は次のとおりです。	
①父・母	7日
②祖父母・兄弟姉妹	4日
③おじ・おば、甥・姪など三親等以内の親族	2日
※休日、祝祭日、大学の休業日を含む連続した日数。	



### (2) 教育実習および介護等体験、博物館実習（館園実習）など（公欠扱いとなります）

### (3) 学校感染症（公欠扱いとなります）

学校保健安全法施行規則に定める感染症にかかった場合は、学内での感染拡大を防ぐために出席停止となります。出席停止期間の授業欠席は公欠の対象となりますので、治癒後、登校可能日から原則1週間以内に、必要事項が記入された「学校感染症登校許可書」を教務課へ提出してください。「学校感染症登校許可書」は KOMAJO ポータルよりダウンロードまたは、「学生生活ガイド」の巻末より A4 サイズにコピーして使用してください。「学校感染症登校許可書」の内容に不備があると受理できない場合があります。公欠申請手続きの詳細は、KOMAJO ポータルの掲示を確認してください。

学校感染症の種類（学校保健安全法施行規則第18条より抜粋）

第一種 エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘瘡、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 SARS コロナウイルスによるものに限る）、中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る）、特定鳥インフルエンザ（感染症の予防および感染症患者に対する医療に関する法律に規定する特定鳥インフルエンザ）および新型インフルエンザ等感染症



第二種 インフルエンザ（特定鳥インフルエンザおよび新型インフルエンザ等感染症を除く）、百日咳、麻疹（はしか）、流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）、風疹（3日ばしか）、水痘（水ぼうそう）、咽頭結膜熱（プール熱）、結核、髄膜炎菌性髄膜炎、新型コロナウイルス感染症（病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルスであるものに限る）

第三種 コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、溶連菌感染症、伝染性単核球症（ウイルス性肝炎）、マイコプラズマ感染症、流行性嘔吐下痢症（感染性胃腸炎）など

#### (4) 就職活動（原則公欠扱いではありません）

就職活動のために欠席する（した）場合は、原則公欠扱いにはなりません。出欠の扱いについては授業担当教員へ相談してください。

#### (5) その他やむを得ない事情で欠席する（した）場合は、学生支援課へ相談してください。

## 9. 休 講

担当教員がやむを得ず授業を休む場合は、KOMAJO ポータルおよび電子掲示板により連絡します。

休講の知らせがなく、30分経過しても教員が来ない場合は、教務課に連絡して指示を受けてください。

## 10. 補 講

補講は、休講などにより授業の十分な進捗が得られない場合に行われるもので、正規の授業です。通常は、補講期間（KOMAJO ポータルのスケジュール参照）に実施しますが、それ以外にも行われる場合があるので、つねに掲示を確認してください。

## 11. 学生による授業評価

本学では、よりよい授業の実施のため、学生による授業評価を実施しています。

評価は科目ごとのアンケート形式で、期間を定めてKOMAJO ポータルを通じて実施しています。自由記述欄には授業の良かった点や意見、要望などについて記述してください。

アンケートは無記名方式で行うので、個人が特定されることや、成績などの評価に反映されることは一切ありません。あなたの感じたことを率直に教えてください。

## 12. 授業科目履修上の注意

### 履修単位数上限設定

1 学年において履修できる単位数は 46 単位以下とします（履修登録できる単位数であり、不可となった単位数もこれに含まれます）。

### 配当年次

本学の授業科目は、それぞれ学年配当によって履修すべき学年が記されています。これは学修を最も効果的に行えるように配慮されているためです。したがって、指定された学年までにそれらの授業科目を履修することが望ましいです。また、下級学年において上級学年の配当科目の履修は認められません。

### 段階の科目（前提科目）

段階の科目とは、前提となる科目の単位取得がその科目の履修の条件となる科目です。たとえば、Ⅰを修得できなければⅡを履修できず、Ⅱを修得できなければⅢを履修できず、Ⅲを修得できなければⅣを履修することのできない科目のことをいいます（一部、前提となる科目を履修中であっても次の段階の科目を履修できる科目もあります）。

ただし、段階の科目でありながら特例として、英語 A Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、英語 B Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳは、前期にⅠまたはⅢを修得できなくても、後期にⅡまたはⅣを履修することができます。特設科目の日本語 A Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、日本語 B Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、日本事情Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳも同様です。

### 他学類開講科目

他学類の専門教育科目については、他学類・他専攻の学生が履修できない科目があるので注意してください。あくまでも、自学類専門教育科目を優先して科目を選択し、残された時限で、関連する他学類の科目を選ぶことが望ましいです。

### 履修制限

科目によっては、設備や教育効果などを考慮し、1 クラスあたりの履修人数が制限されているものがあるので、シラバスなどで確認してください。また、履修人数が極端に多くなった講義などにおいても履修制限を行う場合があります。履修したい科目の開講初回の授業は、必ず出席してください。

### 卒業所要単位に含まれない科目

教育職員養成課程（人間文化学類日本文化専攻、人間文化学類英語コミュニケーション専攻）、学校図書館司書教諭課程（人間文化学類日本文化専攻、人間文化学類英語コミュニケーション専攻）、博物館学芸員養成課程（全学類対象）の科目の中には、卒業所要単位 124 単位に含まれないものがあります。

## 13. 成績評価

### (1) 成績評価基準

履修した授業科目の成績評価は、試験（筆記試験、論文レポート、口述試験、実技試験など）により行います。

成績評価（点数）については次の表によります。

評価（点数）	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下
成績評価	秀	優	良	可	不可
単位認定	合格				不合格

### (2) 成績評価の通知

成績評価は成績通知書の郵送により通知します。また同時に、KOMAJO ポータルの情報も更新します。なお、成績証明書には、「不可」（59点以下）の科目は記載されません。

### (3) 成績評価に関する質問および異議申し立て

成績評価に関する質問や異議申し立てを行いたい場合は、教務課にある「成績評価に関する質問票」に必要事項を記入し、以下の期間内に教務課に提出してください。これにより、科目担当教員に評価の内容について、確認することができます。ただし、以下の期間を超えた「成績評価に関する質問票」の提出は認められません。

前期開講科目の評価に関する「成績評価に関する質問票」

受付：再試験該当科目 KOMAJO ポータル公開日から前期の学期末まで  
後期開講科目の評価に関する「成績評価に関する質問票」

受付：再試験該当科目 KOMAJO ポータル公開日から後期の学期末まで  
4年生は、卒業再試験申し込み期間

### (4) 単位修得のための必須条件

単位を修得するためには、以下の2つの条件を満たすことが必要です。

1. 出席が授業回数の2/3以上であること。
2. 履修した授業科目の成績評価が可（60点）以上であること。

### (5) GPA 制度について

#### 1. GPA (Grade Point Average) とは

GPA は、個々の学生の学修到達度をはかる指標となる数値で、5段階成績評価による科目の成績を数値化したうえで、履修した科目1単位あたりの平均点を求めたものです（注）。

本学では、このGPAにより、学生自身が現在の学修達成度を的確に把握すること、科目の履修にあたって主体的に目標を設定すること、学期の終わりにその到達度をチェックすることを目的に導入しています。

区 分	成績評価	点 数	Grade Point	評 価 内 容
合 格	秀	100 ～ 90 点	4	特に優れている
	優	89 ～ 80 点	3	優れている
	良	79 ～ 70 点	2	妥当と認める
	可	69 ～ 60 点	1	合格点と認める最低限度
不 合 格 (再履修)	不 可	59 ～ 0 点	0	合格と認められない
	定期試験欠席		0	
	出席不足		0	

(注) GPA の計算式

$$\text{GPA} = \frac{(4 \times \text{秀の修得単位数} + 3 \times \text{優の修得単位数} + 2 \times \text{良の修得単位数} + 1 \times \text{可の修得単位数})}{\text{総履修登録単位数 (不可の単位数を含む)}}$$

GPA の値	評価	内容
4.0 ～ 3.0	秀評価～優評価を平均的に修得	非常に優秀
2.9 ～ 2.0	優評価～良評価を平均的に修得	問題はない
1.9 ～ 1.0	良評価～可評価を平均的に修得	問題のある科目が多い
0.9 ～	不合格の割合が多い	改善のための努力が必要

## 2. GPA 対象科目

GPA の対象科目は、卒業所要単位となる全科目です (ただし、認定科目の一部を除きます)。

## 3. 成績通知書および成績証明書への GPA 記載

成績通知書および成績証明書に記載される GPA は以下のとおりです。

- ①成績通知書……学期 GPA、通算 GPA、その他 (GPA 履歴) を記載
- ②成績証明書……希望者のみ、通算 GPA を記載 (GPA の算出には不合格科目を含めるが、不合格科目名称は成績証明書に記載されない)

学期 GPA とは、当該学期に評価された科目の GPA を指します。

通算 GPA とは、過去に評価された科目を含め、それまでに評価された科目の GPA を指します。

## 4. GPA の利用

以下のような場合に、GPA の値を利用することがあります。

- ①学生に対する個別の学習指導
- ②卒業時の成績優秀者表彰
- ③奨学金や授業料免除の選定
- ④大学院入試の選抜基準
- ⑤2年進級時の学類・専攻確定 (変更希望者多数で選抜が必要になった場合のみ利用)
- ⑥一部の実習などの履修要件

## 14. 試 験

試験の種類は、定期試験、臨時試験、追試験、再試験、卒業再試験に分けられます。

定期試験	学期末の定期試験期間中に行われる試験
臨時試験	学期途中でを行う試験
追試験	傷病、その他やむを得ない理由で定期試験を受験できなかった者に対して行う試験
再試験	再試験対象科目において、不合格となった者や追試験に該当しない定期試験欠席者のうち、再試験を受験する資格があると担当教員が認めた者を対象に行う試験
卒業再試験	その学期の卒業予定者において、卒業要件に対しての不足単位数が3科目6単位以内であり、一定の条件を満たした場合に受験が可能となる試験

### (1) 受験資格

試験を受験するためには、以下の2つの条件を満たしていることが必要です。

- ①履修登録期間に、履修科目の登録をしていること。
- ②授業回数の2/3以上出席していること。

### (2) 定期試験

学期末に、定期試験として筆記試験、レポート提出、課題提出などを行います。

#### 1. 定期試験期間

「定期試験実施内容と流れ」を参照してください。

#### 2. 定期試験時間割

- ①試験時間割、試験教室などは、指定した期日に KOMAJO ポータルおよび掲示で発表します。
- ②掲示の内容は変更する場合がありますので、試験実施当日まで掲示をよく確認してください。
- ③定期試験の時間割は平常の授業時間と教室が異なるので注意してください。
- ④試験時間は原則として60分です。

定期試験試験時間			
1時限目	9:00～10:00	4時限目	13:20～14:20
2時限目	10:20～11:20	5時限目	14:40～15:40
3時限目	11:40～12:40	6時限目	16:00～17:00

※定期試験・再試験・追試験実施期間は、時間に余裕をもって登校してください。

#### 3. 定期試験受験についての諸注意

- ①履修登録した科目に限り、受験することができます。
- ②試験開始時間の5分前に着席し、試験監督の指示に従ってください。
- ③試験は指定された場所で受験してください。
- ④3人掛用机は、両端（真中の列は着席不可）に着席し、2人掛用机は左側のみに着席してください。  
10-11 教室、2-309 教室での試験はピンク色の印が付いている座席にのみ着席し、遅刻者が着席しやすいよう通路側を空けて内側より着席してください。  
座席に指定がある場合は教室入口に掲示してある指定のとおりに着席してください。

- ⑤受験の際は、学生証を写真の面を上にして机の上に提示してください。学生証を忘れた学生は、教務課で「受験票発行願」の手続き（当日のみ有効、費用 1,000 円）を行い受験票の交付を受けてください。
- ⑥所持品の管理は各自で行い、特に答案用紙提出時に注意してください。
- ⑦携帯電話の電源を切り、バッグにしまってください。試験中に呼び出しがあった場合、不正行為とみなす場合があります。時計機能付の携帯電話などの時計としての使用も認めません。  
腕時計型端末は電源を切りバッグにしまってください。
- ⑧遅刻は試験開始時間より 20 分までとし、試験開始 20 分を経過した後は入室できません。また、遅刻にともなう試験時間の延長はしません。
- ⑨試験開始後 30 分を過ぎるまでは退室できません。退室する場合は静かに身支度し答案を必ず提出してください。また一度退室した学生の再入室および提出した答案の再請求は認められません。
- ⑩試験中は指定されている持込資料以外はバッグにしまってください。必要な鉛筆（シャープペンシル）・消しゴム・定規はふで箱から取り出し、ふで箱はバッグにしまってください。指定されている資料以外を机に出している場合（携帯電話を含む）は、不正行為とみなされます。
- ⑪質問などのある者は、静かに手を挙げて試験監督に知らせてください。
- ⑫学生は監督者の指示に従い、一切の私語は禁止します。教室において監督者の指示に従わない者には、直ちに退室を命じ、相応の処罰をすることがあります。
- ⑬不正行為と疑われるような行為は慎んでください。それと疑われる行為と見咎められた場合は、不正行為を行ったものと見なし、試験を無効にします。
- ⑭試験中に万一不正行為があった場合は、本学学則第 40 条の規定により処罰します。

#### 4. レポート提出・課題提出

定期試験としてレポートや課題を課すことがあります。提出日・提出場所は定期試験時間割で確認してください。科目により、定期試験期間以外の期間（講義内）でレポートや課題を提出することもあります。

##### 【定期試験期間中のレポート提出について】

- ①原則として本人提出とします。
- ②表紙をつけ、表紙にはレポートの題、科目名、担当教員氏名、学群、学類（専攻）、学年、学籍番号、氏名を記載して提出期限を厳守してください。
- ③定期試験時間内のレポート提出については、試験の時間割発表で指定する教室で行い、試験開始後 30 分以内とします。正当な理由がある場合を除いて、指定された教室および時間以外に提出することはできません。
- ④試験開始後 30 分を過ぎた場合は、試験当日に限り教務課に提出することができます。ただしこの場合レポート提出遅刻者という扱いとなり、成績評価をしない場合もあります（科目担当教員の指示により、一切受理しない場合もあります）。試験当日を過ぎた場合は、正当な理由がある場合を除いて、教務課では受理しません。
- ⑤他の科目の筆記試験とレポート提出の時間が重なる場合は、上記に該当せず、筆記試験を優先的に受験し、直後の休み時間に教務課へ提出してください。ただし、その時間を過ぎると、④と同様、レポート提出遅刻者という扱いをし、成績評価をしない場合もあります。

**【教務課でのレポート提出について】**

- ①表紙をつけ、表紙にはレポートの題、科目名、担当教員氏名、学群、学類（専攻）、学年、学籍番号、氏名を記載して提出期限を厳守してください。
- ②教務課にある「レポート提出票」に必要事項を記入し添えてください。
- ③本人による提出でない場合、および、郵送による提出は原則受理しません。
- ④特に記載方法を指定する場合には掲示により連絡しますので指示に従ってください。
- ⑤一度提出されたレポートはいかなる理由があっても返却しません。

**【講義内でのレポート提出について】**

すべて科目担当教員の指示に従い提出してください。担当教員からの指示がない場合、教務課では受理できませんので、注意してください。

**5. 交通機関の遅延について**

バスの遅延による遅刻は、いかなる場合も追試験に該当しません。鉄道の遅延に遭った場合は、以下の要領で対応してください。

- ・試験教室への到着が筆記試験開始後20分（レポート提出は30分）以内の場合  
直接試験教室に向かい、そのまま受験またはレポートを提出してください。
- ・試験教室への到着が筆記試験開始後20分（レポート提出は30分）を超える場合  
駅などで発行する遅延証明書（必ず日付と遅延時間が明記されたもの）を、当該試験日当日中に教務課に提出してください。ただし、必ずしも追試験が認められるとは限りません。少々の鉄道の遅延による遅刻や、初めから遅刻入室が想定されるようなケースの場合は、追試験には該当しませんので、試験当日は不測の事態に備えいつもより早く登校してください。

**(3) 臨時試験**

学期途中で行う試験です。

**(4) 追試験**

傷病、その他やむを得ない理由（表1）で定期試験を受験できなかった者に対して行う試験です。

ただし、授業の出席状況や試験の欠席理由によっては、申し出たすべての科目の追試験が認められるとは限りません。試験の実施方法には、定期試験に準じて、筆記試験、レポート提出、課題提出などがあります。

**1. 追試験期間**

「定期試験実施内容と流れ」を参照してください。

**2. 追試験時間割**

試験時間割、試験教室などは教務課より直接連絡します。

追試験の試験時間は定期試験と同様、原則として60分です。

### 3. 追試験受験についての諸注意

- ①追試験受験希望者は定期試験欠席当日または翌日に大学短大事務部に電話で連絡し、欠席後原則3日以内に「欠席届」など必要書類を教務課に提出しなければなりません（表1参照）。  
※交通機関の遅延により定期試験を欠席した場合は、当該試験日当日中に大学短大事務部に申し出なければなりません。
- ②成績評価は、原則として89点以下とします。
- ③定期試験期間外に実施した試験に欠席したり、レポートや課題を提出しなかった場合は、追試験の対象となりません。
- ④追試験を受験する場合は教務課にある「追試験受験願」と「追・再試験受験票」に必要事項を記入し、願い出なければなりません。
- ⑤追試験当日は、必ず「追・再試験受験票」と学生証を持参してください（レポート・課題提出も同様）。
- ⑥追試験を欠席した場合、いかなる理由があってもその後の追試験は実施しません。
- ⑦その他は、定期試験に準じます。

(表1)

欠席理由	必要書類
傷病	「欠席届」および医師による診断書*（感染症の場合は「学校感染症登校許可書」） *該当する科目の試験日に受験できない状態であったことが明記されかつ厳封されているもの。 *感染症の場合は、出席停止となる期間を必ず明記してもらうこと。
忌引（法事は含まない）	「欠席届」および会葬礼状など *父母7日、祖父母・兄弟・姉妹4日、3親等以内の親族2日。休日、祝祭日、大学の休業日を含む連続した日数
教育実習、介護等の体験等	「欠席届」
交通機関の遅延*	「欠席届」および交通機関発行の遅延証明書* *日付と遅延時間が明記されたもの。 *バスの遅延による遅刻は、いかなる場合も追試験に該当しません。 *少々の鉄道の遅延による遅刻は原則として追試験には該当しません。
その他正当な理由と認められる場合	教務委員会で審議するので、事前に教務課に照会すること。

※診断書は、医師（病院）から学校指定の診断書様式を指定された場合は、KOMAJO ポータルからダウンロード、または「学生生活ガイド」の巻末より A4 サイズにコピーして使用してください。

※「学校感染症登校許可書」は、学校保健安全法施行規則に定める感染症に罹患した場合にのみ必要です。KOMAJO ポータルよりダウンロード、または「学生生活ガイド」の巻末より A4 サイズにコピーして使用してください。

※「診断書」や「学校感染症登校許可書」の内容に不備があると受理できない場合があります。

※交通機関の遅延は、状況により、必ずしも追試験が認められるとは限りません。



**【追試験受験までの流れ】**

- ①追試験受験希望者は、定期試験欠席当日または翌日に大学短大事務部に電話で連絡してください。  
▼
- ②教務課にて「欠席届」に必要事項をすべて記入し、必要書類とともに提出してください。  
▼
- ③追試験に該当するか否かについて、再試験該当科目公開日に教務課より連絡します。  
▼
- ④追試験当日までに「追試験受験願」と「追・再試験受験票」に必要事項を記入し、教務課に提出してください。  
▼
- ⑤教務課の承認印が押印された「追・再試験受験票」を受け取ってください。「追・再試験受験票」は追試験当日必要です。レポート提出、課題提出の場合は、レポート、課題に添付してください。

**(5) 再試験**

表 2 に掲げる科目で不合格となった者や追試験に該当しない（正当な理由がない）定期試験欠席者、遅刻して受験できなかった者のうち、再試験を受験する資格があると担当教員が認めた者を対象に行う試験です。これらの科目は、定期試験期間中に試験を実施する・しないに関わらず「再試験」を実施することがあります。

試験の実施方法には、定期試験に準じて、筆記試験、レポート提出、課題提出などがあります。

(表 2：再試験対象科目)

	科目名称
教養教育科目	仏教学 I・II、コンピュータ演習 I・II、英語 A I～IV・英語 B I～IV、進路設計、言語表現演習 I・II、日本語 A I～IV・日本語 B I～IV、日本事情 I～IV
専門教育科目	専門教育科目内の必修科目

**1. 再試験期間**

「定期試験実施内容と流れ」を参照してください。

**2. 再試験時間割**

再試験該当科目確認日に試験時間割、試験教室などを掲示で発表します。

掲示の内容は変更する場合がありますので、試験実施当日まで掲示をよく確認してください。

再試験の試験時間は定期試験と同様、原則として 60 分です。

**3. 再試験受験についての諸注意**

- ①成績評価は、原則として 60 点以下とします。
- ②定期試験期間外に実施した試験を欠席したり、レポートや課題を提出しなかった場合は、再試験の対象となりません。
- ③再試験を受験する場合は教務課にある「再試験受験願」と「追・再試験受験票」に必要事項を記入し、1 科目 1,000 円の再試験料を添えて願い出なければなりません。支払いは証明書発行機で行ってください。

- ④再試験を欠席した場合、いかなる理由があってもその後の追試験は実施しません。
- ⑤その他は、定期試験に準じます。

### 【再試験受験までの流れ】

- ①8月下旬および2月中旬に行われる再試験該当科目確認日で再試験に該当した者は、必要事項を記入した「再試験受験願」および「追・再試験受験票」と、証明書発行機で1科目1,000円を入金した「申込書」をあわせて教務課に提出してください。
- ▼
- ②教務課の承認印が押印された「追・再試験受験票」を受け取ってください。「追・再試験受験票」は再試験当日必要です。レポート提出、課題提出の場合は、レポート、課題に添付してください。

## (6) 卒業再試験

4年生は、卒業要件に対しての不足単位数が、3科目6単位以内であれば、4年次後期に登録した科目に限って、卒業再試験を受験できる場合があります。

※前期卒業予定者に対しても卒業再試験が実施されます。日程、手続きについては掲示により通知します。

### 1. 卒業再試験期間

「定期試験実施内容と流れ」を参照してください。

### 2. 成績通知書配付（4年生全員、卒業所要単位確認）および再試験該当科目確認

「定期試験実施内容と流れ」を参照してください。

卒業再試験申込方法については、【卒業再試験受験までの流れ】を参照してください。

### 3. 卒業再試験受験資格

卒業再試験を受験するためには、以下の6つの条件を満たすことが必要です。

- ①卒業要件に対しての不足単位数が3科目6単位以内であること。

ただし、一般の追・再試験に該当した科目、および、成績発表時に未確定の科目は不足単位に含みません。

例) 修得単位118単位 + 一般の追・再試験該当2科目4単位 = 122単位 であった場合、卒業必要単位(124単位)に対する不足単位は2単位となります。

よって、卒業再試験申込可能単位は1科目2単位となります。

この場合、追・再試験該当2科目4単位は不足単位に含みません。

いわゆる「保険をかけて」3科目受験することはできません。

●卒業要件の詳細は、次項「履修の流れ 1. 卒業所要単位」を参照してください。

- ②4年次後期に履修登録した科目であること。
- ③出席不良で不合格となった科目でないこと。
- ④再試験対象科目・各学類の専門ゼミ・卒業論文・卒業研究・実習・実技科目を除く科目であること。
- ⑤卒業再試験申込期間内に本人が申し出ること（代理人による手続きは一切認められない）。

⑥上記の条件を満たし、所定の申し込みを行い、卒業再試験を受験する資格があると学務部長が認めた者。

※卒業再試験は、原則として忌引（法事は含まない）以外の欠席は認められない。それ以外は、申し出を受けたのち、学務部長が判断する。

忌引の場合は、すみやかに教務課へ電話連絡し、教務課の指示を受けること。

忌引……父母7日、祖父母・兄弟・姉妹4日、三親等以内の親族2日

休日、祝祭日、大学の休業日を含む連続した日数

### 【卒業再試験受験までの流れ】

#### ①4年生成績通知書配付（4年生全員、卒業所要単位確認）

教務課にて（詳細は12月上旬に掲示）本人へ直接成績通知書を渡します（学生証を持参）。または、KOMAJOポータルの成績照会で確認してください。代理人による成績確認は認めません。



#### ②卒業再試験資格審査

卒業再試験に申し込みをする場合は、学務部長による資格審査を受けなければなりません。

成績通知書配付日の10時から11時、および13時から14時の時間帯以外は受け付けません。

卒業再試験資格審査受付場所：教務課

窓口では卒業要件を満たしているかどうかの判定は行いません。

卒業所要単位は「履修ガイド」で確認してください。



#### ③「卒業再試験受験願」提出

卒業再試験資格審査で卒業再試験を受験する資格があると学務部長が認めた者は、「卒業再試験受験願」を教務課へ提出し、確認印を受けてください。



#### ④卒業再試験日程通知

卒業再試験申し込みの際に申請した本人連絡先へ、決定した卒業再試験日程を事前に連絡します。必ず連絡が取れるようにしてください。留守や電波の届かない場合、連絡が遅れることがあるため、大学から連絡がない場合は、本人が教務課へ問い合わせてください。問い合わせがない場合は放棄したものとみなします。



#### ⑤卒業再試験手数料納付および「卒業再試験受験票」受領

必要事項を記入した「卒業再試験受験願」および「卒業再試験受験票」と、証明書発行機で1科目1,000円を入金した「申込書」をあわせて教務課に提出してください。

「卒業再試験受験票」は筆記試験・レポート提出の際に必要です。

卒業再試験としてレポート課題が課せられている場合は、担当教員の指示により課題（題目）を教務課より渡します。



#### ⑥卒業再試験実施

卒業再試験としてレポート課題が課せられている場合は、課題（題目）を渡す際に指定された提出期日を厳守してください。

---

▼

⑦卒業再試験結果発表（卒業生発表）

卒業再試験の結果は、卒業生発表日に掲示で確認してください。この発表で卒業生として掲示されている場合は卒業再試験に合格したことになります。最終の成績通知書は卒業生発表後、保証人宛（留学生は本人）に発送します。

(7) 不正行為

試験時に万一不正行為のあった場合は、本学学則第 40 条の規定により処分を行うとともに、教務上の措置をとります。

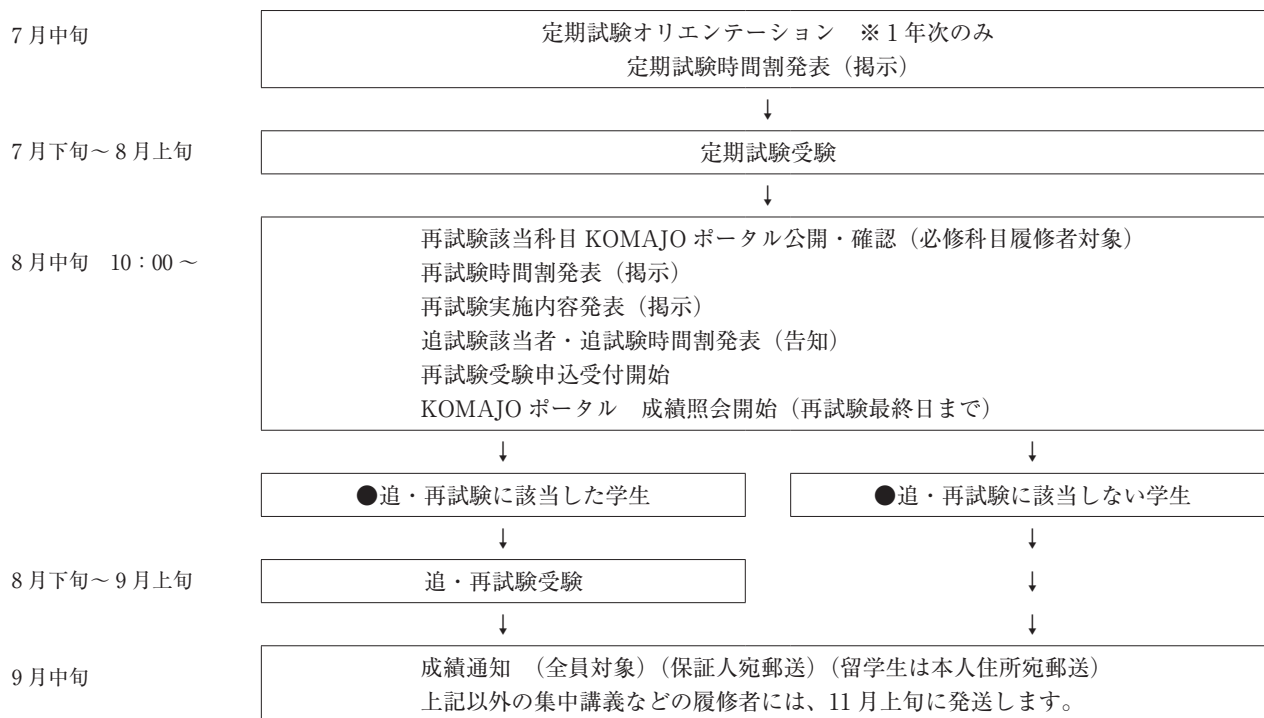
(8) 鉄道など運行停止時の定期試験取り扱いについて

交通機関のストライキ（事故・車両故障などは対象としない）、または気象庁より台風、大雨、洪水、暴風、暴風雪、大雪などの気象警報が発表された場合は、定期試験時間帯の変更または日程の変更を行うことがあります。変更内容は KOMAJO ポータルにて掲示しますので最終確定情報が掲示されるまでは都度、確認してください。

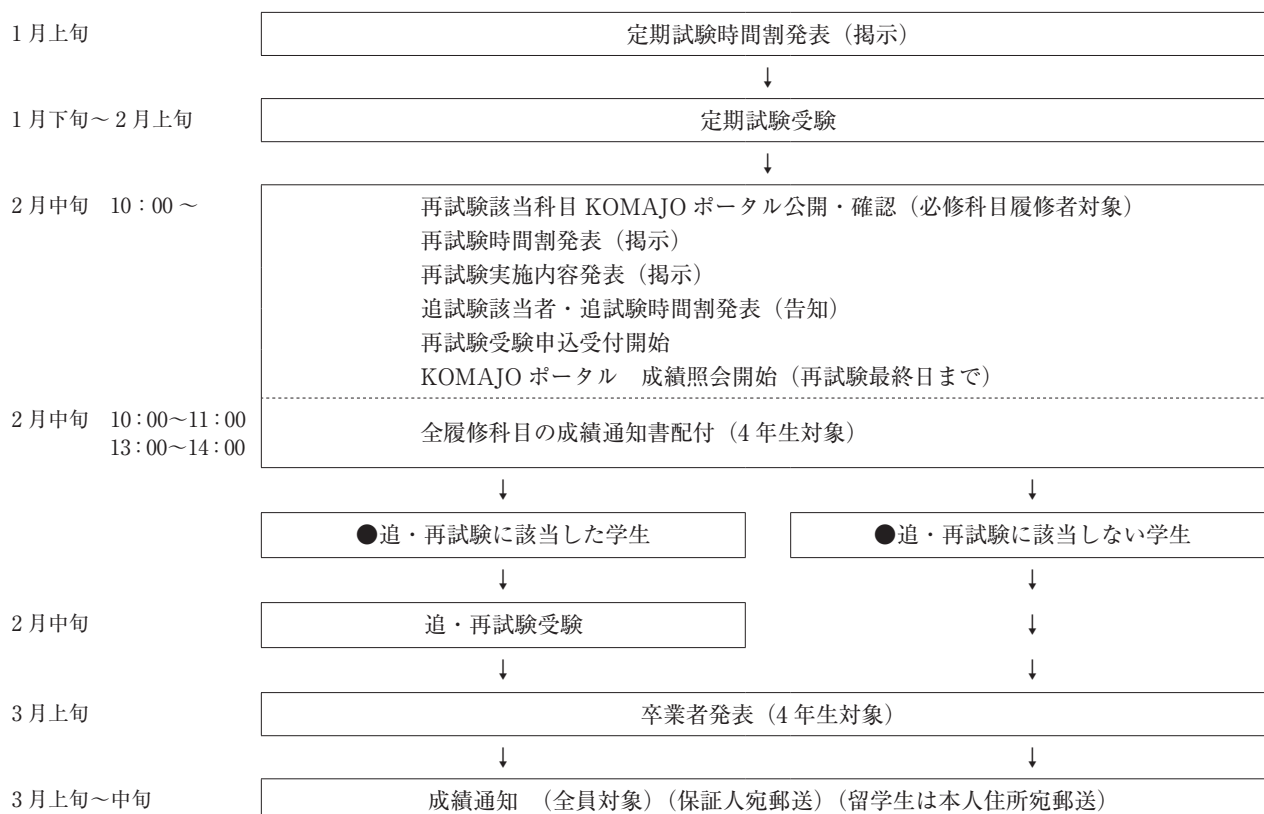
## 定期試験実施内容と流れ（人間総合学群）

※定期試験実施内容に追加・変更などが生じることがあります。  
 関連する掲示などに十分注意して間違いのないよう受験してください。

### 前期定期試験に関するスケジュール



### 後期定期試験に関するスケジュール



---

## 15. 再履修

- (1) 試験において不合格となった科目は再履修することができます。
- (2) 再履修科目の出席、試験などはすべて新規履修科目と同様です。
- (3) 再履修の必修科目と新規履修の科目が同時に開講される場合、必修科目を優先して履修してください。

## 16. 科目等履修生

本学の卒業生で、特定の科目につき履修を許可された場合、卒業後に科目を履修し単位を修得することができます。希望する場合は、教務課に申し出て、必要な手続きをとってください。ただし最終的な受け入れの可否については、教授会の議を経てから決定します。

- (1) 履修可能科目……ゼミおよび実習を除く科目。ただし資格取得についての科目はこの限りではない。
- (2) 入学時期……学期の始め
- (3) 在学期間……6か月または1年、更新可
- (4) 出願期間……前期：2月下旬、後期：6月下旬
- (5) 授業料……資格審査料 30,000円（本学卒業生は免除）  
登録料半期 10,000円、履修料 12,500円（1単位あたり）
- (6) 必要書類……科目履修願、写真（4×3cm）2枚、健康診断証明書



# 履修の流れ





## 1. 卒業所要単位

卒業要件を満たすためには、定められた期間内に以下の一覧表による単位を修得しなければなりません。

### 人間総合学群 人間文化学類 日本文化専攻 2024年度入学者（1～4年次）

	授業科目群	必修	選択必修	選択	合計
教養教育科目	初年次教育科目	2単位		26単位以上	124単位以上
	建学の精神を学ぶ科目	4単位			
	入門科目		4単位		
	教養知科目		12単位		
	実践知科目	2単位			
	技法知科目	12単位			
	特設科目				
専門教育科目	日本文化専攻専門教育科目	20単位	42単位		
他専攻・他学類・他大学科目					

選択必修として必要な単位数を超えて修得した単位は、選択科目の単位数に算入されます。

- 専門教育科目を 62 単位以上（必修、選択必修、選択をあわせて）修得しなければなりません。
- 留学生・帰国生徒は、特設科目の「日本語」8科目8単位、「日本事情」4科目8単位を修得しなければなりません。特設科目「日本語」8単位は英語8単位に、特設科目「日本事情」8単位は教養知科目8単位分にそれぞれ読み替えます。
- 専門教育科目の選択必修には、学類共通科目の単位数も含まれます。

### 人間総合学群 人間文化学類 人間関係専攻 2024年度入学者（1～4年次）

	授業科目群	必修	選択必修	選択	合計
教養教育科目	初年次教育科目	2単位		26単位以上	124単位以上
	建学の精神を学ぶ科目	4単位			
	入門科目		4単位		
	教養知科目		12単位		
	実践知科目	2単位			
	技法知科目	12単位			
	特設科目				
専門教育科目	人間関係専攻専門教育科目	18単位	44単位		
他専攻・他学類・他大学科目					

選択必修として必要な単位数を超えて修得した単位は、選択科目の単位数に算入されます。

- 専門教育科目を 62 単位以上（必修、選択必修、選択をあわせて）修得しなければなりません。
- 留学生・帰国生徒は、特設科目の「日本語」8科目8単位、「日本事情」4科目8単位を修得しなければなりません。特設科目「日本語」8単位は英語8単位に、特設科目「日本事情」8単位は教養知科目8単位分にそれぞれ読み替えます。
- 専門教育科目の選択必修には、学類共通科目の単位数も含まれます。

人間総合学群 人間文化学類 英語コミュニケーション専攻 2024年度入学者（1～4年次）

	授業科目群	必修	選択必修	選択	合計
教養教育科目	初年次教育科目	2単位		26単位以上	124単位以上
	建学の精神を学ぶ科目	4単位			
	入門科目		4単位		
	教養知科目		12単位		
	実践知科目	2単位			
	技法知科目	12単位			
	特設科目				
専門教育科目	英語コミュニケーション専攻 専門教育科目	12単位	50単位		
他専攻・他学類・他大学科目					

選択必修として必要な単位数を超えて修得した単位は、選択科目の単位数に算入されます。

- 専門教育科目を62単位以上（必修、選択必修、選択をあわせて）修得しなければなりません。
- 留学生・帰国生徒は、特設科目の「日本語」8科目8単位、「日本事情」4科目8単位を修得しなければなりません。特設科目「日本語」8単位は英語8単位に、特設科目「日本事情」8単位は教養知科目8単位分にそれぞれ読み替えます。
- 専門教育科目の選択必修には、学類共通科目の単位数も含まれます。

人間総合学群 観光文化学類 2024年度入学者（1～4年次）

	授業科目群	必修	選択必修	選択	合計
教養教育科目	初年次教育科目	2単位		26単位以上	124単位以上
	建学の精神を学ぶ科目	4単位			
	入門科目		4単位		
	教養知科目		12単位		
	実践知科目	2単位			
	技法知科目	12単位			
	特設科目				
専門教育科目	観光文化学類専門教育科目	7単位	55単位		
他専攻・他学類・他大学科目					

専門教育科目の選択必修科目中、基本科目から6単位以上、観光実務関連科目から2単位以上、観光資源・文化関連科目から4単位以上修得してください。

選択必修として必要な単位数を超えて修得した単位は、選択科目の単位数に算入されます。

- 専門教育科目を62単位以上（必修、選択必修、選択をあわせて）修得しなければなりません。
- 留学生・帰国生徒は、特設科目の「日本語」8科目8単位、「日本事情」4科目8単位を修得しなければなりません。特設科目「日本語」8単位は英語8単位に、特設科目「日本事情」8単位は教養知科目8単位分にそれぞれ読み替えます。

## 人間総合学群 心理学類 2024年度入学者（1～4年次）

授業科目群		必修	選択必修	選択	合計
教養教育科目	初年次教育科目	2単位		26単位以上	124単位以上
	建学の精神を学ぶ科目	4単位			
	入門科目		4単位		
	教養知科目		12単位		
	実践知科目	2単位			
	技法知科目	12単位			
	特設科目				
専門教育科目	心理学類専門教育科目	14単位	48単位		
他専攻・他学類・他大学科目					

選択必修として必要な単位数を超えて修得した単位は、選択科目の単位数に算入されます。

- 専門教育科目を62単位以上（必修、選択必修、選択をあわせて）修得しなければなりません。
- 留学生・帰国生徒は、特設科目の「日本語」8科目8単位、「日本事情」4科目8単位を修得しなければなりません。特設科目「日本語」8単位は英語8単位に、特設科目「日本事情」8単位は教養知科目8単位分にそれぞれ読み替えます。

## 人間総合学群 住空間デザイン学類 2024年度入学者（1～4年次）

授業科目群		必修	選択必修	選択	合計
教養教育科目	初年次教育科目	2単位		26単位以上	124単位以上
	建学の精神を学ぶ科目	4単位			
	入門科目		4単位		
	教養知科目		12単位		
	実践知科目	2単位			
	技法知科目	12単位			
	特設科目				
専門教育科目	住空間デザイン学類専門教育科目	12単位	50単位		
他専攻・他学類・他大学科目					

専門教育科目の選択必修科目中、コースの必要とする32単位以上修得してください。  
選択必修として必要な単位数を超えて修得した単位は、選択科目の単位数に算入されます。

- 専門教育科目を62単位以上（必修、選択必修、選択をあわせて）修得しなければなりません。
- 留学生・帰国生徒は、特設科目の「日本語」8科目8単位、「日本事情」4科目8単位を修得しなければなりません。特設科目「日本語」8単位は英語8単位に、特設科目「日本事情」8単位は教養知科目8単位分にそれぞれ読み替えます。

## 【卒業見込証明書の発行について】

以下の条件を満たす場合、4年次4月より発行可能です。

前期履修登録期間中に、後期科目を含めて履修登録を行わなければ、前期に卒業見込証明書の発行はできませんので、注意してください。

- ①在籍期間が、前期にあたっては3年、後期にあたっては3年半を満たすこと（休学期間を除く）。
- ②下表の各発行時期に、発行要件を満たしていること。
- ③授業料などの学納金を納めていること。

発行時期	発行要件
4月	3年次（留年生は前年度末）終了時に93単位以上修得済みであること。
前期履修確定後	前期履修登録期間中に、後期科目も含め卒業必要単位数を充足させる履修登録を行っていること。
前期成績評価公開後	4年次前期の成績が確定した時点で、4年次前期終了時に109単位以上修得済みであれば発行が可能。ただし、4年前期の必修科目を修得できず、留年が確定した場合は、卒業見込証明書の発行を停止。
後期履修確定後	卒業要件を満たした履修登録を完了している場合は、4年次前期成績確定後に109単位以上修得済みでなくても発行可。
後期卒業発表日	卒業判定の結果、卒業が確定していること。

※前期卒業予定者は、前期科目のみで卒業要件を満たした履修登録を完了している場合は、前期履修登録確定後に前期卒業日での卒業見込証明書を発行することができます。

## 2. 卒業論文・卒業研究（観光文化学類）の履修について

### (1) 履修にあたっての注意

#### 1. 履修条件

3年終了時までの修得単位数が93単位以上でなければ履修することができません（この場合卒業所要単位に含まれない教職科目、博物館学芸員科目などの単位は数に入りません）。

#### 2. 注意事項

各種届出も含めて提出期限に遅れた場合は、相応の理由がない限り受理されません。また、卒業再試験の対象科目になりません。そのため、履修しようとする学生はそれ以外の科目で専門教育科目の規定単位を満たしておくような配慮が必要です。

1学年において履修できる単位数（46単位以下）に含まれるので注意してください。

なお、単位不足で卒業できない場合は、単位修得も保留されます。

## (2) 手続きについて

## 1. 登録希望の願出・履修登録（4月）

希望者は4年次の前期履修登録期間中に指導教員（履修中の3・4年次演習・ゼミ担当者）に登録を願ひ出て、前期履修登録期間中に履修登録を行ってください。

## 2. 題目の報告・履修変更（9月）

後期履修登録期間中に指導教員に題目を報告してください。

履修を削除する場合は、後期履修登録期間中に指導教員にその旨を申し出て、指定期間内に教務課で手続きを行ってください。

後期履修登録期間以降の変更はできません。

## 3. 作成

次項「(3) 執筆要領」をよく読み、指導教員の指導のもと、執筆・作成してください。

遅くとも、12月中には完成させて指導教員へ提出し、提出票（次項「4. 提出票の確認と準備」参照）に指導終了認印をもらえるよう、スケジュールを考えてください。

## 4. 提出票の確認と準備（11月中旬～12月）

## ①提出票の受け取り

指導教員より、個人名入りの提出票を受け取ってください。

この提出票を受け取った者は履修登録が完了している証になるので、印字されている内容を確認してください。

## ②提出票への正式題目記入と承認印受領

12月中に正式な題目を決定し、提出票に記入後、指導教員から承認印をもらってください。

提出票は1月の提出時に添付する書類です。紛失しないよう注意してください。

## 5. 提出（1月）

提出にあたっては以下に従い、遺漏のないよう十分注意してください。

①提出日 1月上旬（KOMAJO ポータルのカレンダー参照）受付時間9：00～17：00

（指定された日時を厳守してください。それ以降の提出は一切認めません）

②提出場所 教務課窓口

③提出書類 次項「(3) 執筆要領」を参照のうえ、準備してください。

卒業論文・卒業研究（観光文化学類）（主査用・副査用 計2冊）

体裁は次項「(3) 執筆要領 5. 卒業論文・卒業研究（観光文化学類）の体裁」を参照してください。

提出票

12月に準備した提出票を一緒に提出してください。

教務課の受理印がある受領票を受け取ってください。

※提出票には本人印（拇印不可）および指導教員の承認印が必要です。

捺印・承認印のない書類は受理できないので注意してください。

## 6. 返却（3月）

提出された2冊のうち、1冊については卒業関係書類と一緒に学生本人へ返却します。

もう1冊については、指導教員が保管します。

### (3) 執筆要領

※記載方法、書式などについて詳細は指導教員の指示に従い執筆・作成してください。

#### 1. 原稿は、次の用紙を用います。

##### ①縦書の場合

400字詰B4原稿用紙を使用し、袋とじとします。

##### ②横書の場合

A4原稿用紙を使用します。

##### ③写真、図表の用紙は、A4あるいはB5白紙用紙を原則とします。

##### ④パソコン入力による原稿は、A4あるいはB5白紙用紙を原則とします。

なお、書式は指導教員の指示によります。

##### ⑤英文その他外国文字による原稿は、A4白紙用紙を使用し、英文換算ダブルスペース、30行を原則とします。

#### 2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクまたは黒ボールペンを使用します。

#### 3. 句読点、括弧、各種記号などは、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをします。

#### 4. 次の項目については、該当する研究分野の学会誌の執筆要項に準じます。

(詳細は指導教員の指示を受けてください)

##### ①本文または注などで文献を指示する場合

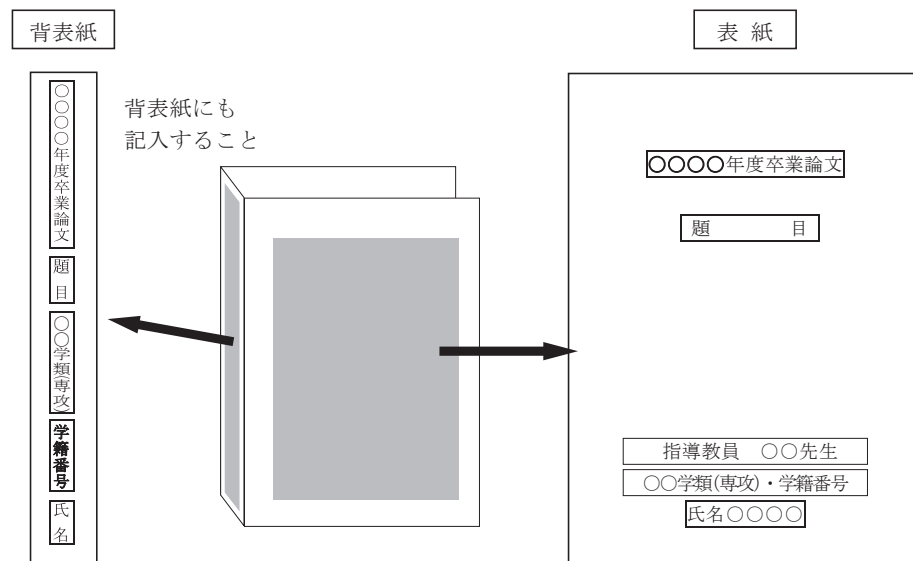
##### ②注の体裁

##### ③文献の記載方法

#### 5. 卒業論文・卒業研究（観光文化学類）の体裁

2冊とも同じ体裁になるよう、紙製2穴ファイルで綴じ、表紙に年度・題目・指導教員・所属学類（専攻）・学籍番号・氏名を、背表紙に指導教員以外を記してください。なお、手書きの場合1部はコピーでもかまいませんが、2冊とも同様に製本して提出してください。

※観光文化学類は、卒業論文を卒業研究と記入してください。



### 3. 卒業研究（住空間デザイン学類）の履修について

#### 日程および履修条件

卒業研究は最終学年通年で履修します。履修の条件は3年次終了時点で卒業に必要な単位の3/4（93単位）以上を修得済みであることとします。

#### 注意事項

1学年において履修できる単位数（46単位以下）に含まれるので注意してください。なお、単位不足で卒業できない場合は、単位修得も保留されます。

### 4. 学外実習について

#### I. 観光文化学類

(1) 本要項は、観光文化学類で実施される学外実習、いわゆるインターンシップの運用に関するものです。

#### (2) 目的

学外実習は、会社組織などにおける就業体験および社会活動を通して、社会性と職業意識とを涵養することを目的とします。

#### (3) 組織

観光文化学類の学類会が運営にあたります。

#### (4) 学外実習の単位

学外実習の単位は1単位または2単位、4単位とし、授業区分は「実習」とします。

#### (5) 実習の期間

1. 実習の期間は、1週間（40時間）を原則とします。

2. 実習は、原則として休暇期間中に実施します。

#### (6) 学外実習先

学外実習先は、学類会が決定します。

#### (7) 学外実習受講資格

学外実習生は以下の条件を充足することが求められます。

1. 学外実習オリエンテーションに出席すること。

2. 学外実習担当教員による事前面接を受け、実習の意義と目的を十分に理解すること。

3. 「ホスピタリティ概論」「ホスピタリティ・マネジメント」「旅行業実務論」「宿泊業・飲食業実務論」「航空・空港業実務論」「広告・メディア業実務論」「エンターテインメント業実務論」「ライフイベントデザイン実務論」のいずれかを修得済または履修中であること。

4. 学業成績が優秀であり、高度な社会性を身につける熱意があること。

5. 保証人の承諾を得ること。

なお、受講資格の詳細については別途定めます。また、実習希望者数が実習受け入れ可能な人数を上回った場合、選考を行います。

#### (8) 実習費用

学外実習費（金額は別途定める）が必要です。また、実習に要する交通費、食費などは自己負担とします。

## II. 心理学類

- (1) 本要項は、心理学類で実施される「心理実習」の運用に関するものです。
- (2) 目的  
心理実習は、学生が、5分野（保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働）における実習を通して、公認心理師としての知識と技能を養うことを目的とします。
- (3) 組織  
心理学類の学類会が運営にあたります。
- (4) 心理実習の単位  
心理実習は2単位とします。
- (5) 心理実習の時間と実習施設  
心理実習の時間は、80時間以上とします。実習先は、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の主要5分野に関する施設とします。
- (6) 実習の実施にあたって
  1. 実習先は、学類会が決定します。
  2. 心理実習の受講を希望する者は、担当教員による事前面接を受け、その評価を受けます。評価によって受講の可否を学類会が決定します。
  3. 心理実習を受講するには、次の事項が必要です。
    - ①保証人の承諾
    - ②大学が指定した保険への加入
- (7) 心理実習受講資格  
心理実習を受講する者は、心理実習の主旨・目的を理解し、実習生としての責任を自覚し、実学活動に対して意欲的に取り組む姿勢を持たねばならず、以下の条件を満たすことが必要です。
  - ①心理実習ガイダンスに遅刻なく出席すること。
  - ②2年次終了の時点で、教養教育科目および専門教育科目の必修科目が修得済みであること。
  - ③「心理演習」を取得見込であること。なお「心理演習」の履修にあたっては、3年次終了時に公認心理師に必要な60単位を含めた93単位を取得していること。また、卒業論文を履修すること。履修者が15名を超える場合は、公認心理師に必要な30科目のGPAにより選抜します。
- (8) 実習費用  
実習費（金額は別途定める）が必要です。また、実習に要する交通費、食費などは自己負担とします。



### Ⅲ. 住空間デザイン学類

- (1) 本要項は、住空間デザイン学類で実施される「インターンシップ実習」の運用に関するものです。
- (2) 目的  
インターンシップ実習は、学生が、会社組織などにおける社会活動を通して、社会性と職業意識を涵養することを目的とします。
- (3) 組織  
住空間デザイン学類の学類会が運営にあたります。
- (4) インターンシップ実習の単位  
インターンシップ実習は実習扱いとし、その単位は1単位とします。
- (5) インターンシップ実習の期間
  1. インターンシップ実習の期間は、2週間（80時間）を原則とします。
  2. 実習の実施は、原則として休暇期間とします。上記期間以外の実習は、当該学類会議の承認を経て決定します。
- (6) インターンシップ実習を受講するにあたって
  1. インターンシップ実習先は、当該学類会が決定します。
  2. インターンシップ実習を受講する者は、担当教員による事前面接を受け、その評価を受けます。評価によって受講の可否を学類会が決定します。
  3. インターンシップ実習を受講する者は、次の事項が必要です。
    - ①保証人の承諾
    - ②大学が指定した保険への加入
- (7) インターンシップ実習受講資格  
インターンシップ実習を受講する者は、インターンシップ実習の主旨・目的を理解し、実習生としての責任を自覚し、実学活動に対して意欲的に取り組む姿勢を持たねばならず、以下の条件を満たすことが必要です。
  - ①インターンシップ実習オリエンテーションに遅刻なく出席すること。
  - ②2年次終了の時点で、教養教育科目および専門教育科目の単位修得状況が良好であること。
  - ③2年次終了時点で、自学類専門教育科目の中で「可」が4科目以下であること。
- (8) 実習費用  
受講諸費用として、指定される金額（実習先謝礼など）が必要です。  
実習に要する交通費、食費などは自己負担とします。

## 5. 正課学外活動を含む科目の履修について

正課学外活動を含む科目とは、1. 履修内容をより深めるために1回から数回程度学外において授業を行う科目、2. 学外で実習を行うことがその科目の履修内容の中心となる科目です。

特に上記2. については、以下の①～⑥を了承したうえで、履修しなければなりません。

- ①正課学外活動を含む科目にかかる交通費・食費・宿泊費・入場料などの費用は、履修者がそれぞれ個人負担しなければなりません。
- ②正課学外活動を含む科目が旅行社などに委託して行われる場合は、大学が旅行社などと契約を結ぶものであり、個人が旅行社などと契約を結ぶ個人旅行とは異なります。
- ③正課学外活動を含む科目の履修取り消しは、履修登録変更期間以後は、緊急かつ止むを得ない理由を除いては認められません。
- ④正課学外活動を含む科目を止むを得ない事情で欠席した場合でも、旅行約款に基づくキャンセル料を支払う義務が生じる場合があります。
- ⑤履修登録をしても、授業や説明会への欠席が多い場合は、正課学外活動を伴う科目に参加できないことがあります。
- ⑥科目によってさらに異なる条件が課される場合もあるので、教員の指示に従ってください。  
ただし、住空間デザイン学類で開講している科目、「学外実習」を指す内容ではないので、混同しないように注意してください。

## 6. 留学について

### ●海外留学制度（6か月留学）について（人間文化学類英語コミュニケーション専攻のみ）

本制度による「6か月留学」を希望する者は、次の応募条件を満たしていることを確認のうえ、エントリー票を提出してください。エントリー票提出者に対して選考（書類審査、面接など）を行い、留学者を決定します。本学指定の留学先において、所定の期間学修し基準に達した者について審査を行い、単位を認定します。当該学生の留学期間中の本学授業料は免除されます。

応募条件：

- (1) 本学人間文化学類英語コミュニケーション専攻の2年次に在籍している者(本学への留学生は要確認)
- (2) 学業および人物ともに優秀である者
- (3) 留学期間において経済的に問題がない者
- (4) 留学中の不慮の事故・事件に対して、責任が取れる者
- (5) 保証人の同意書を提出した者
- (6) 出発までに学群・学類指定の必修科目についてすべて単位修得した者

その他、詳細については説明会で連絡します。

### ●海外留学制度（観光実務実習）について（観光文化学類のみ）

本制度による「海外留学（観光実務実習）」を希望する者は、以下の応募条件を満たしていることを確認し、応募書類を提出してください。提出者に対して選考を行い、留学者を決定します。留学希望者は前期の科目「海外留学（観光実務実習）準備」を履修して関連準備をします。その後、後期に留学先へ出発します。指定した留学先において、所定の期間学修し基準に達する者に対して審査を行い、単位を認定します。当該学生の留学期間中の本学授業料は免除されます。

応募要件：

- (1) 本学観光文化学類の2年次に在籍している者
- (2) 学業および人物ともに優秀である者
- (3) 留学期間において経済的に問題がない者
- (4) 留学中の不慮の事故・事件に対して責任が取れる者
- (5) 保証人の同意書を提出した者
- (6) 出発までに学群・学類指定の必修科目についてすべて単位習得した者

その他、詳細については説明会で連絡します。

### ●個人留学の単位認定

在学中の学生個人による留学において、一定期間・内容を修めた者について、単位を認定します。

- ①大学付属の語学学校およびそれに準ずる語学学校などにおいて、語学としての「英語」または英語に関連する科目を履修した場合、審査を行い卒業所要単位の中で上限4単位まで認定する。ただし、履修状況によって、認定単位数は異なることがある。
- ②認定科目名：「英会話」（Ⅰ～Ⅳのいずれか下位区分から）および英語関連科目（必修の英語を除く）
- ③申請方法：(1) 留学前に「事前面接申込書」を授業期間中の各月第2木曜日までに教務課に提出し、授業期間中の各月第3木曜日の所定の時間に英語担当教員による事前面接を行い、留学先の語学学校、勉強内容の確認を受ける。  
(2) 「個人留学単位認定申請書」とともに留学先語学学校などが発行する修了証、成績証明書、授業時間数のわかるカリキュラム表、時間割などを添付し、帰国後2週間以内に教務課に提出する。
- ④出発までに各学群・学類の履修すべき科目を単位修得していることが望ましい。
- ⑤認定方法：授業期間中の第3木曜日の所定の時間に、英語担当教員による単位認定の面接を受ける。

## 7. 資格について

### ●教育職員養成課程の履修

教育職員養成課程（以下教職課程）とは、教育職員免許法により授与される免許状を取得するために履修する課程です。

中学校および高等学校の教員となるためには、教育職員免許状を有していなければなりません。

#### (1) 本学において取得できる教育職員免許状の種類

本学を卒業し、教育職員免許法に定められている科目を履修し単位を修得した者には、本人の申請に基づいて、中学校教諭一種免許状および、高等学校教諭一種免許状が授与されます。

#### (2) 本学において取得できる免許状の教科

本学において取得できる免許状の教科は、以下のとおりです。

免許状の種類	免許教科	学類・専攻
中学校教諭一種免許状	国 語	人間文化学類 日本文化専攻
高等学校教諭一種免許状	英 語	人間文化学類 英語コミュニケーション専攻

#### (3) 免許状の申請

免許状の授与権者は、都道府県教育委員会です。大学は、免許状取得に必要な教職課程のすべての科目を修得し、卒業資格を有し、免許状取得に必要な教職課程すべての科目を修得した学生に対して、授与申請の事務を代行して卒業時に免許状が交付されるようにはからいます。

希望者は、定められた期日までに所定の手続きを完了しなければなりません。

#### (4) 教職課程の履修科目について

①教職課程における履修科目は以下のように区分され、それぞれの科目区分に応じて必修科目の他に所要最低単位を満たすように選択科目を履修しなければなりません。

- a) 「教科及び教科の指導法に関する科目」
- b) 「大学が独自に設定する科目」
- c) 「教育の基礎的理解に関する科目等」
- d) 「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目」

②教職に関する専門教育科目の履修開始は、1 年次からとします。

## ③免許状の種類と最低修得単位

免許状の種類	所有資格 基礎資格	大学における最低修得専門教育科目			
		a) 教科及び教科の指導法に関する科目	b) 大学が独自に設定する科目	c) 教育の基礎的理解に関する科目等	d) 施行規則第66条の6に定める科目
中学校教諭一種免許	学士の学位を有すること	28単位	4単位	30単位	8単位
高等学校教諭一種免許	学士の学位を有すること	24単位	12単位	26単位	8単位

(注) 教職課程で修得した単位には、卒業所要単位に含めることのできないものもあります。

## (5) 「教育実習」ならびに「介護等の体験」(中学校教諭一種免許取得希望者のみ) 参加資格について

本学においては幅広い知識や教養を持った教員養成を目指しています。そこで、上記に関しては、原則として以下の条件を満たさなければなりません。

- ①定められたオリエンテーションにすべて遅刻なく出席すること
- ②3年次終了時点で、以下に掲げる科目を履修済みであること
  - ・「教育実習」、「教職実践演習」以外の「教育の基礎的理解に関する科目等」を履修済みであること
  - ・「教科及び教科の指導法に関する科目」「大学が独自に設定する科目」「施行規則第66条の6に定める科目」の必修科目を履修済みであること
  - ・教養教育科目及び専門教育科目の必修科目を履修済みであること
- ③成績について
  - ・日本文化専攻においては1～3年次の「言語表現演習Ⅰ・Ⅱ」「日本語表現Ⅰ・Ⅱ」「日本語表現の実践Ⅰ・Ⅱ」が原則「良」以上の成績であること
  - ・英語コミュニケーション専攻においては1・2年次の「英語AⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「英語BⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「English WorkshopⅠ・Ⅱ」「キャリア・イングリッシュⅠ・Ⅱ」が原則「良」以上の成績であること

## (6) 教職課程を履修するために必要な諸費用(2024年度時点)

- ①「介護等の体験」費用(中学校教諭一種免許取得希望者のみ)
  - 社会福祉施設(5日間)参加費11,000円
  - 特別支援学校(2日間)
- ②「教育実習」費用
  - 実習校謝礼など18,000円
- ③「教育職員免許状」申請手数料(1免許)3,300円
- ④実習時の昼食費、交通費などの費用

## (7) 学校図書館司書教諭

本学では教職課程に、学校図書館司書教諭課程をおいています。これは、「学校図書館法」に定められた「司書教諭」の資格を取得するための課程です。学校の教諭として司書教諭の仕事をしたい者は、教職課程の履修と並行して、「学校図書館司書教諭科目」を履修しなければなりません。

学校図書館司書教諭申請手数料 700 円（授与証明書 400 円、単位取得証明書 300 円）（2023 年度の例）

## ●博物館学芸員養成課程の履修

### (1) 履修科目

博物館学芸員養成課程の科目は、省令必修科目、基礎選択必修科目、専攻選択必修科目の 3 群に分かれており、それぞれの科目区分に応じて定められた単位を満たすように履修しなければなりません（別表参照）。

### (2) 受講登録および受講料の徴収

博物館学芸員養成課程の資格を取得するためには、以下の登録手続きをしなければなりません。

#### ①登録

1 年次 4 月のガイダンス時に、所定の届出用紙に必要事項を記載し提出してください。また、1 年次 4 月の前期履修登録期間（確認・変更期間を除く）内に、「生涯学習論 I」「博物館概論」の登録を完了してください。

#### ②博物館実習受講料徴収

博物館実習 C（館園実習）の受講が認められた者は、定められた期間内に、受講料を納入してください。受講料は実習先によって異なりますが、おおむね 10,000 円程度必要となります。

また、定められた期間内に受講料が納入されない場合は、登録抹消となるので注意してください。

### (3) 博物館実習 C（館園実習）履修要件

博物館実習 C（館園実習）を受講するためには、以下の要件が満たされていなければなりません。

- ①博物館実習 C（館園実習）を除いた省令必修科目、基礎選択必修科目（6 単位以上）、専攻選択必修科目（6 単位以上）の単位がすべて修得済であること。
- ②博物館実習 C（館園実習）を除いた省令必修科目の GPA が 2.0 以上であること。
- ③学年ごとに開かれる計 4 回のガイダンスに、遅刻することなくすべて出席していること。なお、ガイダンスに一度でも遅刻・欠席した場合には、博物館学芸員養成課程の履修ができなくなるので注意すること。

### (4) 学芸員資格証明書の発行について

学芸員資格取得に必要な単位を修得した者には、本学より「学芸員資格証明書」が卒業時に授与されます。

## ●建築士受験資格取得のための履修

### (1) 履修科目

一級建築士試験、二級建築士試験、および木造建築士試験の受験資格を得るためには、指定科目の内それぞれの指定科目区分に応じて定められた単位を満たすように履修しなければなりません（別表参照）。

履修単位数により必要実務経験年数は異なります（別表参照）。

### (2) 履修要件

住空間デザイン学類のインテリアデザインコース・建築デザインコース、どちらのコースからも指定科目を履修することができます。

## ●公認心理師受験資格取得のための履修

公認心理師は、保健医療、福祉、教育その他の分野において、心理学に関する専門的知識および技術をもって心理支援などを行う国家資格（主務大臣は文部科学大臣及び厚生労働大臣）です。

心理学類では、公認心理師法施行規則第1条の2で定める科目（以降、施行規則第1条で定める科目）を開講しています。

### (1) 履修科目

施行規則第1条で定める科目に対応する32科目64単位および、卒業論文を修得しなければなりません（別表参照）。

### (2) 心理演習について（4年次前期科目）

心理演習を履修するには、公認心理師受験資格取得を希望し、かつ3年次終了時に、施行規則第1条で定める科目30科目60単位を含めた93単位を修得していなければなりません。なお、履修希望者が15名を超える場合は、上記30科目のGPAにより選抜します。

### (3) 心理実習について（4年次後期科目）

「4. 学外実習について」を参照してください。

### (4) 受験資格

公認心理師の受験資格を得るには、本学においては施行規則第1条で定める科目を修め、大学院において施行規則第2条で定める科目を修めることで受験資格を取得することが基本ルートです（公認心理師受験区分A）。

※なお、施行規則第1条で定める科目を修得したうえで、施行規則第5条で定める施設で、施行規則第6条で定める期間以上の実務経験を経て受験資格を取得することもできます（公認心理師受験区分B）。

## ●認定心理士について

認定心理士の認定申請は、大学を卒業した後で資格取得希望者が個人の資格で申し込むことを原則としています。4年制の大学を卒業し、その在学期間に取得した単位を認定単位として申請します。

### ●旅行業務取扱管理者について

「旅行業務取扱管理者」は、旅行会社などの営業所に必ず一人以上置く必要のある国家資格で、国内・海外旅行の両方を取り扱うことができる「総合旅行業務取扱管理者」と、国内旅行のみを取り扱うことができる「国内旅行業務取扱管理者」と、域内拠点の旅行業務のみを取り扱える「地域限定旅行業務取扱管理者」の3つがあります。国家試験は、年に1度しかありません。国内旅行業務取扱管理者試験と地域限定旅行業務取扱管理者試験は9月に、総合旅行業務取扱管理者試験は10月にあります。

「旅行業務取扱管理者試験」の対策科目は、1年次から「旅行法規Ⅰ」、「国内旅行実務論Ⅰ」を履修することが可能です。2年次からは「旅行法規Ⅱ」、「国内旅行実務論Ⅱ」、「海外旅行実務論Ⅰ」を、3年次からは「海外旅行実務論Ⅱ」を履修することが可能です。資格取得を後押しするために、夏季休暇中に「旅行業務取扱管理者試験特講」という直前対策講座もあります。

### ●社会福祉主事任用資格について

社会福祉主事は、社会福祉法第18条および第19条においてその資格が定義づけられている任用資格です。必要な単位をすべて修得し卒業要件を満たした場合に、卒業と同時に任用の資格を得ることができます。

本学の学生が社会福祉主事の任用の資格を得るためには、次頁の「指定科目」から3科目以上修得する必要があります。

例：人間総合学群の場合：法学、心理学Ⅰ・Ⅱ、社会学Ⅰ・Ⅱ

(注：社会福祉概論Ⅰ・Ⅱ、心理学Ⅰ・Ⅱ、社会学Ⅰ・Ⅱは、Ⅰ・Ⅱ両方を修得して1科目修得したことになるので、注意すること)



## 「社会福祉主事任用資格」に関する厚生労働大臣指定科目一覧

	指定科目名称	人間総合学群開講科目
1	社会福祉概論	社会福祉概論Ⅰ、社会福祉概論Ⅱ
2	社会福祉事業史	
3	社会福祉援助技術論	
4	社会福祉調査論	
5	社会福祉施設経営論	
6	社会福祉行政論	
7	社会保障論	
8	公的扶助論	
9	児童福祉論	
10	家庭福祉論	
11	保育理論	
12	身体障害者福祉論	
13	知的障害者福祉論	
14	精神障害者保健福祉論	
15	老人福祉論	
16	医療社会事業論	
17	地域福祉論	
18	法学	法学
19	民法	
20	行政法	
21	経済学	
22	社会政策	
23	経済政策	
24	心理学	心理学Ⅰ、心理学Ⅱ
25	社会学	社会学Ⅰ、社会学Ⅱ
26	教育学	
27	倫理学	倫理学
28	公衆衛生学	
29	医学一般	
30	リハビリテーション論	
31	看護学	
32	介護概論	
33	栄養学	
34	家政学	

(注意) 任用資格とは、公務員や企業で採用されたのち、特定の業務に任用されるときに必要な資格で、任用されて初めてその資格を名乗ることができます。したがって、本学の卒業によって自動的に得られる資格ではありません。社会福祉主事任用資格を示す証明書は発行していません。厚生労働省のホームページに記載のとおり「社会福祉主事任用資格」の証明については、修得済みの科目が記載された成績証明書により証明することができます。

## 8. 授業科目履修の手続き

### (1) 教務オリエンテーション

単位修得に関するオリエンテーションは各学年の始めに行います。オリエンテーションは学年・学類別に行い、履修方法や登録手続きなどについて具体的な説明をしますので、必ず出席してください。

### (2) 履修科目の登録

- ①その年度に履修しようとするすべての授業科目について、年2回前期・後期の「履修登録期間」内に、KOMAJO ポータルで履修科目の登録をしてください。そして、登録した内容が正しく表示されているか履修確認（履修確定科目公開）日に KOMAJO ポータルで確認してください。
- ②履修登録をしていない授業科目は受講することも試験を受験することもできません。
- ③同一時間内に2教科以上の授業科目を履修することはできません。
- ④一度単位を修得した授業科目を再び履修することはできません。
- ⑤単位を修得することができなかった必修科目は、次年度以降単位が修得できるまで、再度履修（再履修）する必要があります。

### (3) 履修科目の変更

定められた「履修登録確認期間」に履修科目を変更することができます。登録がもれていた科目を追加したり、登録の必要がなかった科目を削除することができます。

### (4) 履修科目の取り消し

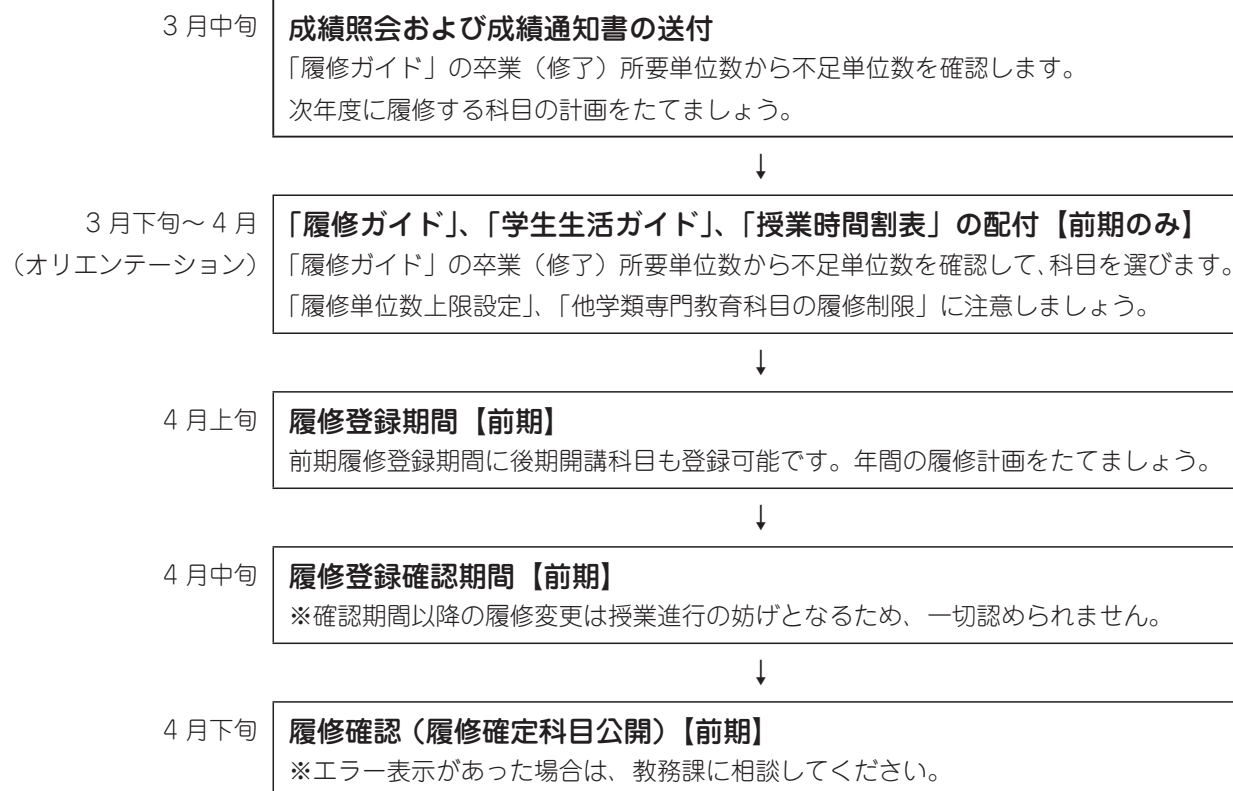
原則として、定められた「履修登録確認期間」以外に、一度登録した科目を取り消すことはできません。履修登録のみ行い、授業に出席しない場合は、半期ごとに郵送される「成績通知書」に「不可」が表示がされます。ただし「成績証明書」には、「不可」となった科目は掲載されません。

## 履修登録の流れについて

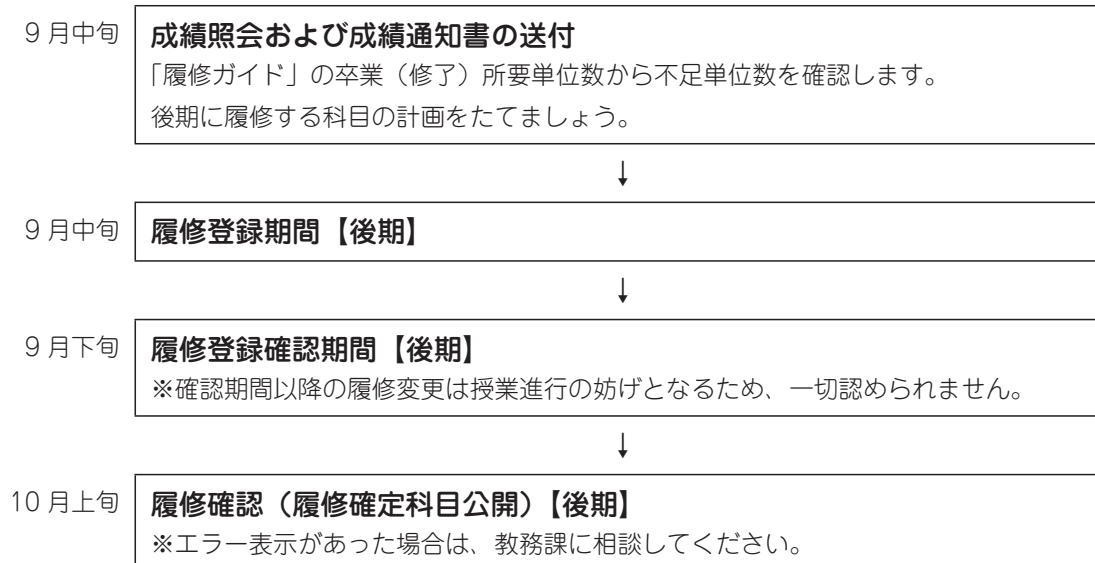
履修登録とは受講科目を各自が登録・決定することをいいます。

KOMAJO ポータルから履修登録しますので操作方法などは KOMAJO ポータルの「学生操作マニュアル」を参照してください。

### 【前期】履修登録スケジュール



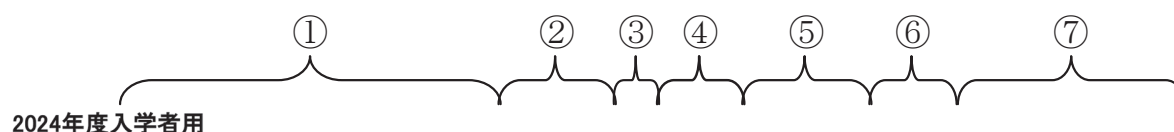
### 【後期】履修登録スケジュール





## 9. 科目一覧

### ① 科目一覧表の見方



2024年度入学者用

人間文化学類 日本文化専攻 専門教育科目(必修20単位 専門教育科目62単位以上)

	科目	授業区分	単位	配当年次	段階の科目 (前提科目)	他学類・ 他専攻履 修の可否	備考
日本文化専攻 専門教育科目	(基本科目)						
	日本語表現 I	講義	②	2			日本文化専攻のみ履修可
	日本語表現 II	講義	②	2			日本文化専攻のみ履修可
	日本語表現の実践 I	講義	②	3			日本文化専攻のみ履修可
	日本語表現の実践 II	講義	②	3			日本文化専攻のみ履修可
	日本の文化と歴史 I	講義	②	2			日本文化専攻のみ履修可
	日本の文化と歴史 II	講義	②	2			日本文化専攻のみ履修可
	日本の文化と歴史 III	講義	②	3			日本文化専攻のみ履修可
	日本の文化と歴史 IV	講義	②	3			日本文化専攻のみ履修可
	(言語の分野)						
	古典文学概論	講義	2	1・2		○	
	近代文学概論	講義	2	2		○	
	日本語学概論 I	講義	2	2		○	
	日本語学概論 II	講義	2	2		○	
	古典文学 I (上代・中古)	講義	2	2・3		○	
	古典文学 II (中世・近世)	講義	2	2・3		○	
	近現代文学 I (近代)	講義	2	2・3		○	
	近現代文学 II (現代)	講義	2	2・3		○	
	日本語学 I	講義	2	3		○	
日本語学 II	講義	2	3		○		
日本文学史 I	講義	2	2・3・4		○		
日本文学史 II	講義	2	2・3・4		○		
中国文学 I (漢文学)	講義	2	3		○		
中国文学 II (漢文学)	講義	2	3		○		

#### ①科目

科目名称が記載されています。

#### ②授業区分

区分が記載されています。

#### ③単位

その科目の単位を修得した際、認定される単位数です。

#### ④配当年次

その学年で学修することが最も効果的であると思われる学年が記載されています。

記載の学年より上の学年は、すべて履修することができます。

---

たとえば、配当年次「1」の科目は、原則として1年次に履修することが望ましい科目ですが、2年次以上の学生も履修することは可能です。配当年次「2・3」の科目は、2・3年次に履修することが望ましい科目のため1年次で履修することはできませんが、4年次では履修できるという意味です。

#### ⑤段階の科目

ある科目を履修するために、別の科目を履修することが前提となっている場合は、この科目を「段階の科目」といいます。この欄に記載がある科目は、記載された科目名称が、前提科目です。前提科目を修得済みまたは履修中でない場合、履修できないので注意してください。

#### ⑥他学類履修の可否

他学類開講科目の中で、履修が認められている科目に印がついています。

○……他学類が履修することができます。

△……学類・専攻によって履修できる場合とできない場合がある科目です。詳しくは、備考欄を参照してください。

空白……他学類・他専攻の履修が認められていません。

#### ⑦備考

その科目の特記事項が記載されています。

「××学類（専攻）のみ履修可」と記述されている場合には、以下のパターンがあるので、注意してください。

1. 学類によるカリキュラムの違いにより履修することができない場合。
2. 自学類の科目に、同一科目が存在する場合や、別の科目名で同一時間帯に開講されている科目が存在する場合。
3. 実習科目のため、他学類の学生は履修できない場合（履修可能人数の制限から）。

## ② 科目一覧表 目次

教養教育科目	……………P.64 ~ P.68
専門教育科目	●人間文化学類 日本文化専攻 ……………P.69 ~ P.70
	●人間文化学類 人間関係専攻 ……………P.71 ~ P.72
	●人間文化学類 英語コミュニケーション専攻 ……………P.73 ~ P.74
	●観光文化学類 ……………P.75 ~ P.76
	●心理学類 ……………P.77 ~ P.78
	●住空間デザイン学類 ……………P.79 ~ P.80
資格関連科目	●教育職員養成課程科目 ……………P.82 ~ P.84
	●学校図書館司書教諭課程科目 …………… P.84
	●博物館学芸員課程養成科目 …………… P.85
	●建築士受験資格取得のための指定科目 …………… P.86
	●公認心理師受験資格取得のための指定科目 …………… P.87

※ 他学類開講科目の履修の可否については、各表を参照してください。

## 2024年度入学者用

## 人間総合学群 教養教育科目 (必修20単位 選択必修16単位 計36単位)

		科目	授業区分	単位	配当年次	段階の科目 (前提科目)	備考	
教養教育科目	(初年次教育科目) (必修2単位科目)	基礎ゼミⅠ	演習・実習・実技	●①	1			
		基礎ゼミⅡ	演習・実習・実技	●①	1			
		〈建学の精神を学ぶ科目〉						
	建学の精神を学ぶ科目 (必修4単位)	仏教学Ⅰ	講義	●②	1			
		仏教学Ⅱ	講義	●②	1			
		仏教学Ⅲ	講義	②	2	2		
		仏教学Ⅳ	講義	②	2	2		
		駒沢女子大学入門	講義	②	1			
	入門科目(選択必修4単位)	〈入門科目〉						
		日本文化入門Ⅰ	講義	②	1			
		日本文化入門Ⅱ	講義	②	1			
		人間関係入門Ⅰ	講義	②	1		オムニバス	
		人間関係入門Ⅱ	講義	②	1		オムニバス	
		英語コミュニケーション入門Ⅰ	講義	②	1			
		英語コミュニケーション入門Ⅱ	講義	②	1			
		観光文化入門Ⅰ	講義	②	1			
		観光文化入門Ⅱ	講義	②	1			
		心理学入門(心理学概論)Ⅰ	講義	②	1			
		心理学入門(心理学概論)Ⅱ	講義	②	1			
		住空間デザイン入門Ⅰ	講義	②	1			
住空間デザイン入門Ⅱ		講義	②	1				

※単位：●数字の科目は必修科目です。

※単位：○数字の科目は選択必修科目です。



## 2024年度入学者用

## 人間総合学群 教養教育科目（必修20単位 選択必修16単位 計36単位）

		科目	授業区分	単位	配当年次	段階の科目 (前提科目)	備考	
教養教育科目	教養知 科目 (選 択 必 修 4 単 位)	〈人間を学ぶ科目〉						
		哲学	講義	②	1			
		人間と思想	講義	②	1			
		人間と文化Ⅰ	講義	②	1			
		人間と文化Ⅱ	講義	②	1			
		生命の科学	講義	②	1			
		倫理学	講義	②	1			
		人権の基礎	講義	②	1			
		女性の人権	講義	②	1			
		心理学Ⅰ	講義	②	1			
		心理学Ⅱ	講義	②	1			
		生涯学習論Ⅰ	講義	②	1			
		生涯学習論Ⅱ	講義	②	1			
		社会福祉概論Ⅰ	講義	②	1			
	社会福祉概論Ⅱ	講義	②	1				
	教養知 科目 (選 択 必 修 4 単 位)	〈文化と歴史を学ぶ科目〉						
		日本の歴史	講義	②	1			
		世界の歴史	講義	②	1			
		戦争と平和の歴史Ⅰ	講義	②	1			
		戦争と平和の歴史Ⅱ	講義	②	1			
		西洋文化史	講義	②	1			
		日本美術史	講義	②	1			
		比較文化	講義	②	1			
		日本の文化	講義	②	1			
		観光地理(日本)	講義	②	1			
	観光地理(世界)	講義	②	1				
	日本文学	講義	②	1				
	外国文学	講義	②	1				
	教養知 科目 (選 択 必 修 4 単 位)	〈社会と自然を学ぶ科目〉						
		日本の政治	講義	②	1			
		世界の政治	講義	②	1			
		政治と市民参加	講義	②	1			
		日本の経済	講義	②	1			
		世界の経済	講義	②	1			
		新聞と報道	講義	②	1			
		グローバル共生論	講義	②	1			
法学		講義	②	1				
法と社会		講義	②	1				
日本国憲法Ⅰ		講義	②	1				
日本国憲法Ⅱ		講義	②	1				
社会学Ⅰ		講義	②	1				
社会学Ⅱ		講義	②	1				
数学の世界		講義	②	1				
物理の世界		講義	②	1				
生物と生命	講義	②	1					
地球と宇宙	講義	②	1					
物質と化学	講義	②	1					
情報と科学	講義	②	1					
色彩と科学	講義	②	1					
統計の基礎	講義	②	1・2					
統計の応用	講義	②	1・2					

※単位：○数字の科目は選択必修科目です。

2024年度入学者用

人間総合学群 教養教育科目（必修20単位 選択必修16単位 計36単位）

		科目	授業区分	単位	配当年次	段階の科目 (前提科目)	備考	
教養教育科目	実践知科目 (必修2単位)	〈実習科目〉						
		ボランティア実習Ⅰ	演習・実習・実技	1	1集			
		ボランティア実習Ⅱ	演習・実習・実技	2	2集		ボランティア実習Ⅰ	
		海外英語研修Ⅰ	演習・実習・実技	2	1集			
		海外英語研修Ⅱ	演習・実習・実技	2	2集		海外英語研修Ⅰ	
		国際協力実習	演習・実習・実技	1	2集			
		〈就業力育成科目〉						
		進路設計	講義	●2	1			
		キャリアと教養演習A	演習・実習・実技	1	2・3			
		キャリアと教養演習B	演習・実習・実技	1	2・3			
		キャリアと教養演習C	演習・実習・実技	1	2・3			
		キャリアと教養演習D	演習・実習・実技	1	2・3			
		ビジネスとキャリア	講義	2	3			
		就業への知識と技能A	講義	2	2・3			
		就業への知識と技能B	講義	2	2・3			
		〈健康体育科目〉						
		女性と健康Ⅰ	講義	2	1			
		女性と健康Ⅱ	講義	2	1			
		スポーツⅠ	演習・実習・実技	1	1・2			
		スポーツⅡ	演習・実習・実技	1	1・2			

※単位： ●数字の科目は必修科目です。

## 2024年度入学者用

## 人間総合学群 教養教育科目 (必修20単位 選択必修16単位 計36単位)

	科目	授業区分	単位	配当年次	段階の科目 (前提科目)	備考	
教養教育科目	(必技法2知単科目)	〈日本語育成科目〉					
		言語表現演習Ⅰ	演習・実習・実技	●1	1		
		言語表現演習Ⅱ	演習・実習・実技	●1	1		
	技法知単科目(必修8単位)	〈外国語育成科目〉					
			英語AⅠ	演習・実習・実技	●1	1	
			英語AⅡ	演習・実習・実技	●1	1	
			英語AⅢ	演習・実習・実技	●1	2	注1
			英語AⅣ	演習・実習・実技	●1	2	
			英語BⅠ	演習・実習・実技	●1	1	
			英語BⅡ	演習・実習・実技	●1	1	
			英語BⅢ	演習・実習・実技	●1	2	注1
			英語BⅣ	演習・実習・実技	●1	2	
			英会話Ⅰ	演習・実習・実技	1	1	
			英会話Ⅱ	演習・実習・実技	1	1	
			英会話Ⅲ	演習・実習・実技	1	2	
			英会話Ⅳ	演習・実習・実技	1	2	
			Receptive EnglishⅠ	演習・実習・実技	1	1・2	
			Receptive EnglishⅡ	演習・実習・実技	1	1・2	
			Productive EnglishⅠ	演習・実習・実技	1	1・2	
			Productive EnglishⅡ	演習・実習・実技	1	1・2	
			English Summer Seminar	演習・実習・実技	1	2・3前集	
			フランス語Ⅰ	演習・実習・実技	1	1	
			フランス語Ⅱ	演習・実習・実技	1	1	注2
			フランス語Ⅲ	演習・実習・実技	1	2	
			フランス語Ⅳ	演習・実習・実技	1	2	
			ドイツ語Ⅰ	演習・実習・実技	1	1	
			ドイツ語Ⅱ	演習・実習・実技	1	1	注2
			ドイツ語Ⅲ	演習・実習・実技	1	2	
			ドイツ語Ⅳ	演習・実習・実技	1	2	
			スペイン語Ⅰ	演習・実習・実技	1	1	
			スペイン語Ⅱ	演習・実習・実技	1	1	注2
		スペイン語Ⅲ	演習・実習・実技	1	2		
		スペイン語Ⅳ	演習・実習・実技	1	2		
		中国語Ⅰ	演習・実習・実技	1	1		
		中国語Ⅱ	演習・実習・実技	1	1	注2	
		中国語Ⅲ	演習・実習・実技	1	2		
	中国語Ⅳ	演習・実習・実技	1	2			
(必技法2知単科目)	〈情報力育成科目〉						
		コンピュータ演習Ⅰ	演習・実習・実技	●1	1		
		コンピュータ演習Ⅱ	演習・実習・実技	●1	1		
		コンピュータ演習Ⅲ	演習・実習・実技	1	2		
		コンピュータ演習Ⅳ	演習・実習・実技	1	2		

※単位: ●数字の科目は必修科目です。

※注1: Ⅲの履修にはⅠを履修中または修得済であることが必要であり、Ⅳの履修にはⅡを履修中または修得済であることが必要です。

※注2: Ⅱの履修にはⅠを修得済であることが必要であり、Ⅲの履修にはⅠ・Ⅱを修得済であることが必要であり、Ⅳの履修にはⅠ・Ⅱ・Ⅲを修得済であることが必要です。

2024年度入学者用

人間総合学群 教養教育科目 (必修20単位 選択必修16単位 計36単位)

		科目	授業区分	単位	配当年次	段階の科目 (前提科目)	備考
教養教育科目	特設科目	<特設科目 留学生>					
		日本語A I	演習・実習・実技	①	1	注1	英語8単位に読替 留学生のみ必修
		日本語B I	演習・実習・実技	①	1		
		日本語A II	演習・実習・実技	①	1		
		日本語B II	演習・実習・実技	①	1		
		日本語A III	演習・実習・実技	①	2		
		日本語B III	演習・実習・実技	①	2		
		日本語A IV	演習・実習・実技	①	2		
		日本語B IV	演習・実習・実技	①	2		
		日本事情 I	講義	②	1	注2	教養教育科目(教養知) 選択必修8単位に読替 留学生のみ必修
		日本事情 II	講義	②	1		
		日本事情 III	講義	②	2		
		日本事情 IV	講義	②	2		

※単位： ●数字の科目は必修科目です。

※注1： IIIの履修には同一アルファベットの I を履修中または修得済であることが必要であり、IVの履修には同一アルファベットの II を履修中または修得済であることが必要です。

※注2： IIIの履修には I を履修中または修得済であることが必要であり、IVの履修には II を履修中または修得済であることが必要です。

## 2024年度入学者用

## 人間文化学類 日本文化専攻 専門教育科目(必修20単位 専門教育科目62単位以上)

		科目	授業区分	単位	配当年次	段階の科目 (前提科目)	他学類・ 他専攻履 修の可否	備考		
日本文化専攻 専門教育科目	基本科目 (必修16単位)	(基本科目)								
		日本語表現Ⅰ	講義	●	2			日本文化専攻のみ履修可		
		日本語表現Ⅱ	講義	●	2			日本文化専攻のみ履修可		
		日本語表現の実践Ⅰ	講義	●	3			日本文化専攻のみ履修可		
		日本語表現の実践Ⅱ	講義	●	3			日本文化専攻のみ履修可		
		日本の文化と歴史Ⅰ	講義	●	2			日本文化専攻のみ履修可		
		日本の文化と歴史Ⅱ	講義	●	2			日本文化専攻のみ履修可		
		日本の文化と歴史Ⅲ	講義	●	3			日本文化専攻のみ履修可		
	日本の文化と歴史Ⅳ	講義	●	3			日本文化専攻のみ履修可			
	主幹科目	(言語の分野)								
		古典文学概論	講義		2	1・2		○		
		近代文学概論	講義		2	2		○		
		日本語学概論Ⅰ	講義		2	2		○		
		日本語学概論Ⅱ	講義		2	2		○		
		古典文学Ⅰ(上代・中古)	講義		2	2・3		○		
		古典文学Ⅱ(中世・近世)	講義		2	2・3		○		
		近現代文学Ⅰ(近代)	講義		2	2・3		○		
		近現代文学Ⅱ(現代)	講義		2	2・3		○		
		日本語学Ⅰ	講義		2	3		○		
		日本語学Ⅱ	講義		2	3		○		
		日本文学史Ⅰ	講義		2	2・3・4		○		
		日本文学史Ⅱ	講義		2	2・3・4		○		
		中国文学Ⅰ(漢文学)	講義		2	3		○		
		中国文学Ⅱ(漢文学)	講義		2	3		○		
		(歴史の分野)								
		日本史Ⅰ(古代)	講義		2	2・3		○		
		日本史Ⅱ(中世)	講義		2	2・3		○		
		日本史Ⅲ(近世)	講義		2	2・3		○		
		日本史Ⅳ(近現代)	講義		2	2・3		○		
		日本文化史Ⅰ	講義		2	2		○		
		日本文化史Ⅱ	講義		2	2		○		
		地域文化概論	講義		2	1・2		○		
		歴史資料論	講義		2	2・3		○		
		民俗資料論	講義		2	2・3		○		
		歴史考古学	講義		2	2・3		○		
		歴史地理学	講義		2	2・3		○		
		(応用の分野)								
		仏教文学	講義		2	3・4		○		
		児童文学	講義		2	3・4		○		
		日本の詩歌	講義		2	3・4		○		
		国語教育概論Ⅰ	講義		2	2		○		
		国語教育概論Ⅱ	講義		2	2		○		
		書道実習Ⅰ	演習・実習・実技		1	3		○		
書道実習Ⅱ	演習・実習・実技		1	3		○				
日本の文化財Ⅰ	講義		2	2・3		○				
日本の文化財Ⅱ	講義		2	2・3		○				
文化交流史Ⅰ	講義		2	2・3		○				
文化交流史Ⅱ	講義		2	2・3		○				

※単位：●数字の科目は必修科目です。

2024年度入学者用

人間文化学類 日本文化専攻 専門教育科目(必修20単位 専門教育科目62単位以上)

		科目	授業区分	単位	配当年次	段階の科目 (前提科目)	他学類・ 他専攻履 修の可否	備考	
日本文化専攻 専門教育科目	(専門ゼミ科目) (必修4単位)	(専門ゼミ科目)							
		日本文化ゼミⅠ	演習・実習・実技	●1	3			日本文化専攻のみ履修可	
		日本文化ゼミⅡ	演習・実習・実技	●1	3			日本文化専攻のみ履修可	
		日本文化ゼミⅢ	演習・実習・実技	●1	4			日本文化専攻のみ履修可	
		日本文化ゼミⅣ	演習・実習・実技	●1	4			日本文化専攻のみ履修可	
		卒業論文	演習・実習・実技		4	4通			日本文化専攻のみ履修可
	学類共通科目	(学類共通科目)							
		日本文化実習	演習・実習・実技		1	3・4			人間文化学類のみ履修可
		仏教文化実習	演習・実習・実技		1	3・4			人間文化学類のみ履修可
		日本文化研修	演習・実習・実技		1	3・4			人間文化学類のみ履修可
		身体文化実習Ⅰ	演習・実習・実技		1	2・3			人間文化学類のみ履修可
		身体文化実習Ⅱ	演習・実習・実技		1	2・3			人間文化学類のみ履修可
		プレゼンテーション実習	演習・実習・実技		1	2・3			人間文化学類のみ履修可
		文法・使える英文法Ⅰ	講義		2	2			人間文化学類のみ履修可
文法・使える英文法Ⅱ	講義		2	2			人間文化学類のみ履修可		

※単位：●数字の科目は必修科目です。

## 2024年度入学者用

## 人間文化学類 人間関係専攻 専門教育科目 (必修18単位 専門教育科目62単位以上)

		科目	授業区分	単位	配当年次	段階の科目 (前提科目)	他学類・ 他専攻履 修の可否	備考	
人間 関係 専攻 専門 教育 科目	(必修 14 単位 基本 科目)	〈基本科目〉							
		人間関係の基礎	講義	●	2			人間関係専攻のみ履修可	
		化粧の文化史	講義	●	2・3			人間関係専攻のみ履修可	
		コミュニケーションの心理学	講義	●	2・3			人間関係専攻のみ履修可	
		コミュニケーションの社会学	講義	●	2・3			人間関係専攻のみ履修可	
		現代社会の論点	講義	●	2・3			人間関係専攻のみ履修可	
		国際社会の論点	講義	●	2・3			人間関係専攻のみ履修可	
		企画と表現	講義	●	2・3			人間関係専攻のみ履修可	
	主幹 科目	〈身体文化の分野〉							
		身体文化論Ⅰ	講義		2	2・3		○	
		身体文化論Ⅱ	講義		2	2・3		○	
		化粧文化論	講義		2	2・3		○	
		服装と文化Ⅰ	講義		2	2・3		○	
		服装と文化Ⅱ	講義		2	2・3		○	
		和装の文化Ⅰ	講義		2	2・3		○	
		和装の文化Ⅱ	講義		2	2・3	和装の文化Ⅰ	○	
		流行論	講義		2	2・3		○	
		ビューティービジネス	講義		2	3・4		○	
		〈コミュニケーションの分野〉							
		恋愛の心理学	講義		2	2・3		○	
		家族関係の心理学	講義		2	2・3		○	
		自己分析の心理学	講義		2	2・3			人間関係専攻のみ履修可
		ビジネスと心理学	講義		2	2・3		○	
		セルフプロデュース	講義		2	3・4		○	
		チームビルディング	講義		2	2・3		○	
		自己表現法Ⅰ	講義		2	2・3		○	
		自己表現法Ⅱ	講義		2	2・3		○	
		コミュニケーション実習Ⅰ	演習・実習・実技		1	2			人間関係専攻のみ履修可
		コミュニケーション実習Ⅱ	演習・実習・実技		1	2			人間関係専攻のみ履修可
		報道とメディア	講義		2	2・3		○	
		メディアと社会	講義		2	2・3			人間関係専攻のみ履修可
		広告の研究	講義		2	2・3		○	
		表現活動とメディア	講義		2	2・3		○	
		〈社会の分野〉							
		文化人類学	講義		2	2・3		○	
		社会学研究Ⅰ	講義		2	2・3		○	
		社会学研究Ⅱ	講義		2	2・3		○	
		家族と現代社会	講義		2	2・3		○	
		環境問題と市民	講義		2	2・3		○	
		国際社会論	講義		2	2・3		○	
		グローバリズム論	講義		2	2・3		○	
		社会学特論	講義		2	2・3		○	
職業の世界	講義		2	2・3		○			
組織マネジメント	講義		2	2・3		○			
経済とビジネスⅠ	講義		2	3・4		○			
経済とビジネスⅡ	講義		2	3・4		○			

※単位：●数字の科目は必修科目です。

2024年度入学者用

人間文化学類 人間関係専攻 専門教育科目 (必修18単位 専門教育科目62単位以上)

		科目	授業区分	単位	配当年次	段階の科目 (前提科目)	他学類・ 他専攻履 修の可否	備考	
人間 関係 専攻 専門 教育 科目	主 幹 科 目	〈総合科目〉							
		哲学と思想	講義	2	2・3		○		
		アンケート調査法	講義	2	2・3		○		
		フィールドワークの技法	講義	2	2・3		○		
		人間関係学実習Ⅰ	演習・実習・実技	1	2			人間関係専攻のみ履修可	
		人間関係学実習Ⅱ	演習・実習・実技	1	2			人間関係専攻のみ履修可	
		現代社会総合講座Ⅰ	講義	2	3		○	オムニバス	
		現代社会総合講座Ⅱ	講義	2	3		○	オムニバス	
	(必修 4 単 位)	〈専門ゼミ科目〉							
		人間関係ゼミⅠ	演習・実習・実技	●1	3			人間関係専攻のみ履修可	
		人間関係ゼミⅡ	演習・実習・実技	●1	3			人間関係専攻のみ履修可	
		人間関係ゼミⅢ	演習・実習・実技	●1	4			人間関係専攻のみ履修可	
		人間関係ゼミⅣ	演習・実習・実技	●1	4			人間関係専攻のみ履修可	
		卒業論文	演習・実習・実技	4	4通			人間関係専攻のみ履修可	
	学 類 共 通 科 目	〈学類共通科目〉							
		日本文化実習	演習・実習・実技	1	3・4			人間文化学類のみ履修可	
		仏教文化実習	演習・実習・実技	1	3・4			人間文化学類のみ履修可	
		日本文化研修	演習・実習・実技	1	3・4			人間文化学類のみ履修可	
		身体文化実習Ⅰ	演習・実習・実技	1	2・3			人間文化学類のみ履修可	
		身体文化実習Ⅱ	演習・実習・実技	1	2・3			人間文化学類のみ履修可	
		プレゼンテーション実習	演習・実習・実技	1	2・3			人間文化学類のみ履修可	
		グラマー・使える英文法Ⅰ	講義	2	2			人間文化学類のみ履修可	
		グラマー・使える英文法Ⅱ	講義	2	2			人間文化学類のみ履修可	

※単位：●数字の科目は必修科目です。



## 2024年度入学者用

## 人間文化学類 英語コミュニケーション専攻 専門教育科目（必修12単位 選択必修4単位 専門教育科目62単位以上）

	科目	授業区分	単位	配当年次	段階の科目 (前提科目)	他学類・ 他専攻履 修の可否	備考
英語コミュニケーション専攻 専門教育科目	基本科目 (必修 4単位)	English Workshop I	講義	②	2		(E) 英語コミュニケーション専攻のみ履修可
		English Workshop II	講義	②	2		(E) 英語コミュニケーション専攻のみ履修可
		English Workshop III	講義	2	3		(E) 英語コミュニケーション専攻のみ履修可
		English Workshop IV	講義	2	3		(E) 英語コミュニケーション専攻のみ履修可
		Academic Reading I	講義	2	2		○ (E)
		Academic Reading II	講義	2	2		○ (E)
		Academic Reading III	講義	2	2		○ (E)
		Academic Reading IV	講義	2	2		○ (E)
		Academic Speaking I	講義	2	2		(E) 英語コミュニケーション専攻のみ履修可
		Academic Speaking II	講義	2	2		(E) 英語コミュニケーション専攻のみ履修可
		Academic Speaking III	講義	2	3	Academic Speaking I・II	(E) 英語コミュニケーション専攻のみ履修可
		Academic Speaking IV	講義	2	3	Academic Speaking I・II	(E) 英語コミュニケーション専攻のみ履修可
		ライティング・使える英作文 I	講義	2	2		英語コミュニケーション専攻のみ履修可
		ライティング・使える英作文 II	講義	2	2		英語コミュニケーション専攻のみ履修可
	Academic Writing I	講義	2	3		(E) 英語コミュニケーション専攻のみ履修可	
	Academic Writing II	講義	2	3	Academic Writing I	(E) 英語コミュニケーション専攻のみ履修可	
	主幹科目 (選択必修 4単位)	英語コミュニケーション専攻研究A	講義	②	2		(E) 英語コミュニケーション専攻のみ履修可 ※注1
		英語コミュニケーション専攻研究B	講義	②	2		(E) 英語コミュニケーション専攻のみ履修可 ※注1
		英語コミュニケーション専攻研究C	講義	②	2		(E) 英語コミュニケーション専攻のみ履修可 ※注1
		英語コミュニケーション専攻研究D	講義	②	2		(E) 英語コミュニケーション専攻のみ履修可 ※注1
		英語コミュニケーション専攻研究E	講義	②	2		(E) 英語コミュニケーション専攻のみ履修可 ※注1
		英語コミュニケーション専攻研究F	講義	②	2		(E) 英語コミュニケーション専攻のみ履修可 ※注1
		英語コミュニケーション専攻研究G	講義	②	2		(E) 英語コミュニケーション専攻のみ履修可 ※注1
		英語コミュニケーション専攻研究H	講義	②	2		(E) 英語コミュニケーション専攻のみ履修可 ※注1
		イギリス文学 I	講義	2	2		○
		イギリス文学 II	講義	2	2		○
		アメリカ文学 I	講義	2	2		○
		アメリカ文学 II	講義	2	2		○
		英語学概論 I	講義	2	2		○
		英語学概論 II	講義	2	2		○
		英語教育学概論 I	講義	2	2		○
		英語教育学概論 II	講義	2	2		○
アメリカの文化と歴史 I		講義	2	2		○	
アメリカの文化と歴史 II		講義	2	2		○	
異文化理解 I		講義	2	2		○	
異文化理解 II		講義	2	2		○	
時事英語 I		講義	2	1		○	
時事英語 II		講義	2	1		○	
英語音声学 I		講義	2	2		○	
英語音声学 II		講義	2	2		○	
映画の英語 I		講義	2	1		○	
映画の英語 II		講義	2	1		○	
ことばの世界 I		講義	2	2		○	
ことばの世界 II		講義	2	2		○	
英語圏文化 I	講義	2	2		○		
英語圏文化 II	講義	2	2		○		
国際法 I	講義	2	2		○		
国際法 II	講義	2	2		○		

※単位：●数字の科目は必修科目です。

※注1：○数字の科目から2単位以上取得すること。

※備考(E)：英語で行われる科目。

※備考(EJ)：英語と日本語で行われる科目。

2024年度入学者用

人間文化学類 英語コミュニケーション専攻 専門教育科目（必修12単位 選択必修4単位 専門教育科目62単位以上）

		科目	授業区分	単位	配当年次	段階の科目 (前提科目)	他学類・ 他専攻履 修の可否	備考
英語コミュニケーション専攻 専門教育科目	主幹科目 (必修4単位)	キャリア・イングリッシュⅠ	講義	②	2			英語コミュニケーション専攻のみ履修可
		キャリア・イングリッシュⅡ	講義	②	2			英語コミュニケーション専攻のみ履修可
		キャリア・イングリッシュⅢ	講義	2	3			英語コミュニケーション専攻のみ履修可
		キャリア・イングリッシュⅣ	講義	2	3			英語コミュニケーション専攻のみ履修可
		通訳・ガイドⅠ	講義	2	2		○	
		通訳・ガイドⅡ	講義	2	2		○	
		日本紹介の英語	講義	2	2		○	(E)
		ボランティア英語	講義	2	2		○	
		Japan StudiesⅠ	講義	2	2			(E) 英語コミュニケーション専攻のみ履修可
		Japan StudiesⅡ	講義	2	2			(E) 英語コミュニケーション専攻のみ履修可
		海外留学準備	演習・実習・実技	1	2			6か月留学予定者のみ 英語コミュニケーション専攻のみ履修可
	6か月留学	演習・実習・実技	22	2	海外留学準備		英語コミュニケーション専攻のみ履修可	
		〈専門ゼミ科目〉						
		英語コミュニケーションゼミⅠ	演習・実習・実技	①	3			英語コミュニケーション専攻のみ履修可
		英語コミュニケーションゼミⅡ	演習・実習・実技	①	3			英語コミュニケーション専攻のみ履修可
		英語コミュニケーションゼミⅢ	演習・実習・実技	①	4			英語コミュニケーション専攻のみ履修可
		英語コミュニケーションゼミⅣ	演習・実習・実技	①	4			英語コミュニケーション専攻のみ履修可
		卒業論文	演習・実習・実技	4	4			
		〈学類共通科目〉						
		日本文化実習	演習・実習・実技	1	3・4			人間文化学類のみ履修可
		仏教文化実習	演習・実習・実技	1	3・4			人間文化学類のみ履修可
		日本文化研修	演習・実習・実技	1	3・4			人間文化学類のみ履修可
		身体文化実習Ⅰ	演習・実習・実技	1	2・3			人間文化学類のみ履修可
		身体文化実習Ⅱ	演習・実習・実技	1	2・3			人間文化学類のみ履修可
		プレゼンテーション実習	演習・実習・実技	1	2・3			人間文化学類のみ履修可
		グラマー・使える英文法Ⅰ	講義	2	2			人間文化学類のみ履修可
	グラマー・使える英文法Ⅱ	講義	2	2			人間文化学類のみ履修可	

※単位：●数字の科目は必修科目です。

※備考(E)：英語で行われる科目。

## 2024年度入学者用

## 観光文化学類 専門教育科目（必修7単位 選択必修12単位 専門教育科目62単位以上）

		科目	授業区分	単位	配当年次	段階の科目 (前提科目)	他学類履修の可否	備考	
観光文化学類 専門教育科目	基本科目 選択必修6単位 (必修2単位・ 選択必修2単位)	〈基本科目〉							
		観光学	講義	●②	2				
		観光政策論	講義	②	2				
		観光マーケティング論	講義	②	2				
		観光のPRとメディア	講義	②	2				
		ホスピタリティ概論	講義	②	2				
		ホスピタリティ・マネジメント	講義	②	2				
		観光社会学	講義	②	2				
	観光人類学	講義	②	2					
	観光実務関連科目 (選択必修2単位)	〈観光実務関連科目〉							
		旅行業実務論	講義	②	2・3			○	
		宿泊業・飲食業実務論	講義	②	2・3			○	
		航空・空港業実務論	講義	②	2・3			○	
		広告・メディア業実務論	講義	②	2・3			○	
		エンターテインメント業実務論	講義	②	2・3			○	
		ライブイベントデザイン実務論	講義	②	2・3			○	
		短期インターンシップ実習A	演習・実習・実技	1	2・3			○	
		短期インターンシップ実習B	演習・実習・実技	1	2・3			○	
		中期インターンシップ実習	演習・実習・実技	2	2・3			○	
		海外インターンシップ実習	演習・実習・実技	2	2・3			○	
		長期インターンシップ実習	演習・実習・実技	4	2・3			○	
		国内旅行研修	演習・実習・実技	1	2・3			○	
		海外旅行研修	演習・実習・実技	1	2・3			○	
	海外留学(観光実務実習)準備	講義	2	2				海外留学(観光実務実習)予定者のみ	
	海外留学(観光実務実習)	演習・実習・実技	20	2	海外留学(観光実務実習)準備				
	観光資源・文化関連科目 (選択必修4単位)	〈観光資源・文化関連科目〉							
		世界遺産研究	講義	②	2			○	
		地域観光資源研究	講義	②	2・3			○	
		国内観光資源研究A(東京・首都圏)	講義	②	2			○	
		国内観光資源研究B(東日本)	講義	②	2・3			○	
		国内観光資源研究C(西日本)	講義	②	2・3			○	
		海外観光資源研究A(ヨーロッパ1)	講義	②	3			○	
		海外観光資源研究B(ヨーロッパ2)	講義	②	3			○	
		海外観光資源研究C(アジア1)	講義	②	3			○	
		海外観光資源研究D(アジア2)	講義	②	3			○	
		海外観光資源研究E(アジア3)	講義	②	2・3			○	
ミュージアム研究		講義	2	2・3			○		
西洋美術の旅		講義	2	2・3			○		
異文化交流 I		講義	2	2・3			○		
異文化交流 II	講義	2	2・3			○			
文化交流論(日本とアメリカ)	講義	2	3			○			
世界の文化と国際接遇	講義	2	3			○			
イスラーム文化論	講義	2	2・3			○			
キリスト教文化論	講義	2	2・3			○			

※単位：●数字の科目は必修科目です。

※単位：○数字の科目は選択必修科目です。

2024年度入学者用

観光文化学類 専門教育科目（必修7単位 選択必修12単位 専門教育科目62単位以上）

		科目	授業区分	単位	配当年次	段階の科目 (前提科目)	他学類履修の可否	備考	
観光文化学類 専門教育科目	国家試験対策科目	〈国家試験対策科目〉						旅行業務取扱管理者試験関連科目	
		旅行法規Ⅰ	講義	2	1		○		
		旅行法規Ⅱ	講義	2	2		○		
		国内旅行実務論Ⅰ	講義	2	1		○		
		国内旅行実務論Ⅱ	講義	2	2		○		
		海外旅行実務論Ⅰ	講義	2	2		○		
		海外旅行実務論Ⅱ	講義	2	3	海外旅行実務論Ⅰ	○		
		旅行業務取扱管理者試験特講	講義	2	2・3集		○		
	観光の外国語科目 (必修1単位)	〈観光の外国語科目〉							
		観光の英語	演習・実習・実技	①	2				
		観光ガイドブック講読	演習・実習・実技	1	2				
		観光のフランス語	演習・実習・実技	1	2			○	
		観光のドイツ語	演習・実習・実技	1	2			○	
		観光のスペイン語	演習・実習・実技	1	2			○	
		観光の中国語	演習・実習・実技	1	2			○	
		観光の韓国語	演習・実習・実技	1	2			○	
		観光サービスの英語Ⅰ	演習・実習・実技	1	2・3			○	
		観光サービスの英語Ⅱ	演習・実習・実技	1	2・3			○	
	専門ゼミ科目 (必修4単位)	〈専門ゼミ科目〉							
		観光文化ゼミⅠ	演習・実習・実技	①	3				
観光文化ゼミⅡ		演習・実習・実技	①	3					
観光文化ゼミⅢ		演習・実習・実技	①	4					
観光文化ゼミⅣ		演習・実習・実技	①	4					
卒業研究	演習・実習・実技	4	4						

※単位：●数字の科目は必修科目です。

## 2024年度入学者用

## 心理学類 専門教育科目 (必修14単位 専門教育科目62単位以上)

		科目	授業区分	単位	配当年次	段階の科目 (前提科目)	他学類履 修の可否	備考	
心理学類 専門教育科目	基本科目 (必修10単位)	〈基本科目〉							
		心理学の基礎	講義	●2	2				
		心理学実験Ⅰ	演習・実習・実技	●2	2				
		心理学実験Ⅱ	演習・実習・実技	●2	2				
		心理学研究法Ⅰ	講義	●2	3				
		心理学研究法Ⅱ	講義	●2	3				
		臨床心理学概論	講義	2	2				
		心理学統計法	講義	2	2				
		心理データ解析法	講義	2	2				
	心理学英語講読	講義	2	3					
			〈基礎心理学〉						
			知覚・認知心理学	講義	2	2・3		○	
			学習・言語心理学	講義	2	2・3		○	
			感情・人格心理学	講義	2	2・3		○	
			神経・生理心理学	講義	2	2・3		○	
			社会・集団心理学(社会・集団・家族心理学Ⅰ)	講義	2	2・3		○	
			家族心理学(社会・集団・家族心理学Ⅱ)	講義	2	2・3		○	
			発達心理学Ⅰ	講義	2	2・3		○	
			発達心理学Ⅱ(高齢者心理学)	講義	2	2・3		○	
			障害者・障害児心理学	講義	2	2・3		○	
			比較行動学	講義	2	2・3		○	
			発達臨床	講義	2	2・3		○	
			対人関係論	講義	2	2・3		○	
			〈実践心理学A〉						
			心理的アセスメントⅠ	講義	2	3・4	心理学実験Ⅰ・Ⅱ		
			心理的アセスメントⅡ	講義	2	3・4	心理学実験Ⅰ・Ⅱ		
			心理学的支援法Ⅰ	講義	2	3・4		○	
			心理学的支援法Ⅱ	講義	2	3・4		○	
			心理療法論Ⅰ	講義	2	3・4		○	
			心理療法論Ⅱ	講義	2	3・4		○	
			心理学研究実践実習	演習・実習・実技	2	3			
			〈実践心理学B〉						
			健康・医療心理学	講義	2	2・3・4		○	
			福祉心理学	講義	2	2・3・4		○	
			教育・学校心理学	講義	2	2・3・4		○	
			司法・犯罪心理学	講義	2	2・3・4		○	
			産業・組織心理学	講義	2	2・3・4		○	
			消費者心理学	講義	2	2・3・4		○	
			コミュニティ心理学	講義	2	2・3・4		○	
			スポーツ心理学	講義	2	2・3・4		○	
			〈心理学関連科目〉						
			人体の構造と機能及び疾病	講義	2	2・3・4		○	
			精神疾患とその治療	講義	2	2・3・4		○	
		教育相談	講義	2	2・3・4				
		文芸と心理	講義	2	2・3・4		○		
		言葉と心理	講義	2	2・3・4		○		

※単位: ●数字の科目は必修科目です。

2024年度入学者用

心理学類 専門教育科目（必修14単位 専門教育科目62単位以上）

		科目	授業区分	単位	配当年次	段階の科目 (前提科目)	他学類履 修の可否	備考	
心理学類 専門教育科目	(必修 4単位) 専門ゼミ科目	<専門ゼミ科目>							
		心理学ゼミⅠ	演習・実習・実技	●1	3				
		心理学ゼミⅡ	演習・実習・実技	●1	3				
		心理学ゼミⅢ	演習・実習・実技	●1	4				
		心理学ゼミⅣ	演習・実習・実技	●1	4				
	卒業論文	演習・実習・実技		4	4				
	公認心理師 関連科目	<公認心理師関連科目>							
		公認心理師の職責	講義		2	3			
		関係行政論	講義		2	3			
		心理演習	演習・実習・実技		2	4	心理的アセス メントⅠ・Ⅱ		2コマ連続 3年次終了時に公認心理師に必要な60単 位を含めた93単位を取得していること。ま た、卒業論文を履修すること。履修者が15 名を超える場合は、公認心理師に必要な 30科目のGPAにより選抜
心理実習		演習・実習・実技		2	4	心理演習		心理演習を取得見込みであること	

※単位： ●数字の科目は必修科目です。

## 2024年度入学者用

## 住空間デザイン学類 専門教育科目（必修12単位 選択必修4単位 専門教育科目62単位以上）

	科目	授業区分	単位	配当年次	段階の科目 (前提科目)	他学類履修の可否	備考
住空間デザイン学類 専門教育科目	(基本科目)						△:1年次は、住空間デザイン学類希望者のみ、2年次以降は他学類の履修不可
	住空間デザインの基礎Ⅰ	講義	●	2			
	住空間デザインの基礎Ⅱ	講義	●	2			
	平面と立体表現の基礎	講義	●	1		△	
	製図の基礎	講義	●	1		△	
	図学と透視画の基礎	講義	●	1		△	
	建築・インテリアデザイン入門	講義	2	1		△	
	プロダクトデザイン入門	講義	2	1		△	
	設計製図Ⅰ	演習・実習・実技	2	2	建築・インテリアデザイン入門		
	設計製図Ⅱ	演習・実習・実技	2	2	設計製図Ⅰ		
	グラフィックデザイン	講義	2	2・3・4			
	福祉住環境デザイン	講義	2	2・3・4			
	環境デザイン	講義	2	2・3・4		○	
	色彩デザイン	講義	2	2・3・4			
	CADⅠ	演習・実習・実技	●	1		△	
	CADⅡ	演習・実習・実技	●	2	CADⅠ		
	CADⅢ	演習・実習・実技	1	2	CADⅡ		
	プレゼンテーション技法	演習・実習・実技	1	3	注1		
	インターンシップ入門	演習・実習・実技	1	3・4			
	インターンシップ実習	演習・実習・実技	1	3・4集			
フィールドワーク	演習・実習・実技	1	2・3・4集				

※単位：●数字の科目は必修科目です。

※注1：プレゼンテーション技法の履修には、CADⅡを履修中または修得済である必要があります。

2024年度入学者用

住空間デザイン学類 専門教育科目（必修12単位 選択必修4単位 専門教育科目62単位以上）

		科目	授業区分	単位	配当年次	段階の科目 (前提科目)	他学類履修の可否	備考
住空間デザイン学類 専門教育科目	コースA ・ インテリアデザイン 関連科目	<インテリアデザイン関連科目>						
		インテリアデザイン I	演習・実習・実技	2	3	注1		
		インテリアデザイン II	演習・実習・実技	2	3	設計製図 I インテリアデザイン I		
		インテリアデザイン論	講義	2	2			
		インテリアデザイン計画A	講義	2	2			
		インテリアデザイン計画B	講義	2	3			
		インテリアデザイン計画C	講義	2	3			
		家具デザイン I	演習・実習・実技	2	2			
		家具デザイン II	演習・実習・実技	2	2	家具デザイン I		
		家具デザイン III	演習・実習・実技	2	3	家具デザイン I		
		家具デザイン論	講義	2	2・3・4			
		陶芸デザイン入門	演習・実習・実技	2	2			
		陶芸デザインA	演習・実習・実技	2	2	陶芸デザイン入門		
		陶芸デザインB	演習・実習・実技	2	3	陶芸デザイン入門		
		テキスタイルデザイン入門	演習・実習・実技	2	2			
		テキスタイルデザインA	演習・実習・実技	2	2	テキスタイルデザイン入門		
		テキスタイルデザインB	演習・実習・実技	2	3	テキスタイルデザイン入門		
		インテリア・プレゼンテーション	演習・実習・実技	2	3			
		加工・材料学	講義	2	2・3・4			
		芸術論	講義	2	2・3・4			○
	工芸デザイン論	講義	2	2・3・4			○	
	インテリアプロダクト論	講義	2	2・3・4				
	デザインと心理	講義	2	2・3・4				
	グラフィック・コミュニケーション学	講義	2	2・3・4				
	インテリアの知識と技術 I	講義	2	2・3・4				
	インテリアの知識と技術 II	講義	2	3・4				
	<建築デザイン関連科目>							
	建築デザイン I	演習・実習・実技	2	3	注2			
	建築デザイン II	演習・実習・実技	2	3	設計製図 I 建築デザイン I			
	建築デザイン論	講義	2	2				
	建築計画A	講義	2	2				
	建築計画B	講義	2	3				
	建築計画C	講義	2	3				
	建築計画D	講義	2	4				
	構造力学 I	講義	2	2				
	構造力学 II	講義	2	2				
建築構造 I	講義	2	2					
建築構造 II	講義	2	2					
日本建築史	講義	2	2・3・4			○		
西洋建築史	講義	2	2・3・4			○		
ランドスケープ論	講義	2	2・3・4					
建築環境設備	講義	2	3					
環境工学	講義	2	3					
建築材料	講義	2	3					
建築生産	講義	2	3					
都市デザイン論	講義	2	3					
建築法規	講義	2	3・4					
<専門ゼミ科目>								
インテリアデザインスタジオ I	演習・実習・実技	①	3			コースAのみ		
インテリアデザインスタジオ II	演習・実習・実技	①	3			コースAのみ		
インテリアデザインスタジオ III	演習・実習・実技	①	4	注3、注4		コースAのみ		
インテリアデザインスタジオ IV	演習・実習・実技	①	4	注3、注4		コースAのみ		
建築デザインスタジオ I	演習・実習・実技	①	3			コースBのみ		
建築デザインスタジオ II	演習・実習・実技	①	3			コースBのみ		
建築デザインスタジオ III	演習・実習・実技	①	4	注3、注4		コースBのみ		
建築デザインスタジオ IV	演習・実習・実技	①	4	注3、注4		コースBのみ		
卒業研究	演習・実習・実技	4	4	注5				

※単位：○数字の科目は選択必修科目です。

※各コース専門科目：32単位以上選択（自コース専門ゼミ科目4単位および卒業研究4単位含む）

※注1：インテリアデザイン I の履修には、設計製図 I を履修中または修得済であることが必要です。

※注2：建築デザイン I の履修には、設計製図 I を履修中または修得済であることが必要です。

※注3：IIIの履修には I を履修中または修得済であることが必要であり、IVの履修には II を履修中または修得済であることが必要です。

※注4：IIIとIVは同一教員のスタジオを履修すること。

※注5：スタジオIII・IVと同一教員の卒業研究を履修すること。



---

## 資格関連科目

---

2024年度入学者用  
教育職員養成課程科目

		授業科目の名称	授業区分	単位	配当年次	卒業所要単位に含まれない科目	段階の科目(前提科目)	備考		
教科に関する専門的事項(国語)	日本文化専攻 中一種・高一種(国語)	国語学	日本語学概論Ⅰ	講義	②	2				
			日本語学概論Ⅱ	講義	②	2				
			日本語学Ⅰ	講義	2	3				
			日本語学Ⅱ	講義	2	3				
		国文学	古典文学概論	講義	②	2				
			近代文学概論	講義	②	2				
			古典文学Ⅰ(上代・中古)	講義	2	2・3				
			古典文学Ⅱ(中世・近世)	講義	2	2・3				
			日本文学史Ⅰ	講義	2	2・3・4				
			日本文学史Ⅱ	講義	2	2・3・4				
	漢文学	中国文学Ⅰ(漢文学)	講義	②	3					
		中国文学Ⅱ(漢文学)	講義	②	3					
	書道	書道実習Ⅰ	演習・実習・実技	①	3				中一種免必修	
		書道実習Ⅱ	演習・実習・実技	①	3				中一種免必修	
	各教科の指導技術(情報通信を含む)の活用	国語科教育法Ⅰ	講義	②	3	○				
		国語科教育法Ⅱ	講義	②	3	○	国語科教育法Ⅰ			
		国語科教育法Ⅲ	講義	②	3	○			中一種免(国語)必修	
		国語科教育法Ⅳ	講義	②	3	○	国語科教育法Ⅲ		中一種免(国語)必修	
	教科に関する専門的事項(英語)	英語学	英語学概論Ⅰ	講義	②	2・3				
			英語学概論Ⅱ	講義	②	2・3				
英語音声学Ⅰ			講義	②	2・3					
英語音声学Ⅱ			講義	②	2・3					
英語文学		アメリカ文学Ⅰ	講義	②	2・3					
		アメリカ文学Ⅱ	講義	②	2・3					
		イギリス文学Ⅰ	講義	②	2・3					
英語コミュニケーション専攻		イギリス文学Ⅱ	講義	②	2・3					
		日本紹介の英語	講義	②	2・3					
ニクエーション		Japan StudiesⅠ	講義	②	2・3					
		Japan StudiesⅡ	講義	②	2・3					
異文化理解		異文化理解Ⅰ	講義	②	2・3					
		異文化理解Ⅱ	講義	②	2・3					
		英語科教育法Ⅰ	講義	②	3	○				
		英語科教育法Ⅱ	講義	②	3	○	英語科教育法Ⅰ			
各教科の指導技術(情報通信を含む)の活用	英語科教育法Ⅲ	講義	②	3	○			中一種免(英語)必修		
	英語科教育法Ⅳ	講義	②	3	○	英語科教育法Ⅲ		中一種免(英語)必修		
大学が独自に設定する科目	中一種・日本文化専攻(国語)	国語教育概論Ⅰ	講義	②	2					
		国語教育概論Ⅱ	講義	②	2					
		児童文学	講義	2	3・4					
		日本の詩歌	講義	2	3・4					
		介護等の体験	講義	②	3	○			中一種免必修	
		視聴覚教育メディア論	講義	2	2・3	○				
		ボランティア実習Ⅰ	演習・実習・実技	1	1					
		ボランティア実習Ⅱ	演習・実習・実技	2	2		ボランティア実習Ⅰ			
		生涯学習論Ⅰ	講義	2	1					
		生涯学習論Ⅱ	講義	2	1					
		道德教育の指導法	講義	2	2・3	○			高一種免のみ	
		中一種・英語コミュニケーション専攻	英語教育学概論Ⅰ	講義	②	2				
			英語教育学概論Ⅱ	講義	②	2				
			英会話Ⅲ	演習・実習・実技	1	2				
	英会話Ⅳ		演習・実習・実技	1	2					
	アメリカの文化と歴史Ⅰ		講義	2	2・3					
	アメリカの文化と歴史Ⅱ		講義	2	2・3					
	介護等の体験		講義	②	3	○			中一種免必修	
	視聴覚教育メディア論		講義	2	2・3	○				
	ボランティア実習Ⅰ		演習・実習・実技	1	1					
	ボランティア実習Ⅱ		演習・実習・実技	2	2		ボランティア実習Ⅰ			
	生涯学習論Ⅰ		講義	2	1					
	生涯学習論Ⅱ		講義	2	1					
	道德教育の指導法		講義	2	2・3	○			高一種免のみ	

※単位：教育職員養成課程に関する●数字の科目は必修科目、○数字の科目は選択必修科目です。

※教科に関する専門的事項：28単位以上(中一種免)、24単位以上(高一種免)修得すること。

※大学が独自に設定する科目：4単位以上(中一種免)、12単位以上(高一種免)修得すること。

2024年度入学者用  
教育職員養成課程科目

		授業科目の名称	授業区分	単位	配当年次	卒業所要単位に含まれない科目	段階の科目(前提科目)	備考	
教育の基礎的理解に関する科目等 談等に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理	講義	②	1・2	○		
		教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職入門	講義	②	1	○		
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育制度論	講義	②	2	○		
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	発達心理学	講義	②	2・3	○		
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育概論	講義	①	2	○		
		教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	講義	②	2	○		
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談	道徳の理論及び指導法	道徳教育の指導法	講義	②	2・3	○		中一種免のみ必修
		総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習時間の指導法	講義	①	2	○		
		特別活動の指導法	特別活動の指導法	講義	②	2・3	○		
		教育の方法及び技術	教育方法・技術	講義	②	2・3	○		
		情報通信技術を活用した教育に関する理論及び方法	ICT活用の理論と方法	演習・実習・実技	①	1	○		
		生徒指導の理論及び方法	生徒指導論(進路指導を含む)	講義	②	2・3	○		
		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法							
		教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)	教育相談	講義	②	2・3	○		
	教育実践に関する科目	教育実習	教育実習指導	演習・実習・実技	①	3	○		
			教育実習 I (中学校)	演習・実習・実技	②	4	○		中一種免(国語・英語)必修
			教育実習 II (高等学校)	演習・実習・実技	②	4	○		
		教職実践演習	教職実践演習(中・高)	演習・実習・実技	②	4	○		

※単位：教育職員養成課程に関する●数字の科目は必修科目です。

※教育の基礎的理解に関する科目等：30単位以上(中一種免)、26単位以上(高一種免)修得すること。

2024年度入学者用  
教育職員養成課程科目

		授業科目の名称	授業区分	単位	配当年次	卒業所要単位に 含まれない科目	段階の科目 (前提科目)	備考
教育職員 免許法施行規則第 66条の6 に定める科目	日本国憲法	日本国憲法Ⅰ	講義	②	1			2単位以上選択
		日本国憲法Ⅱ	講義	②	1			
	体育	スポーツⅠ	演習・実習・実技	①	1・2			
		スポーツⅡ	演習・実習・実技	①	1・2			
	外国語 コミュニケーション	英会話Ⅰ	演習・実習・実技	①	1			
		英会話Ⅱ	演習・実習・実技	①	1			
	情報機器の操作	コンピュータ演習Ⅰ	演習・実習・実技	①	1			
		コンピュータ演習Ⅱ	演習・実習・実技	①	1			

		授業科目の名称	授業区分	単位	配当年次	卒業所要単位に 含まれない科目	段階の科目 (前提科目)	備考
学校図書館 司書教諭 課程科目	講義規定に定める科目	学校経営と学校図書館	講義	②	3・4	○		
		学校図書館メディアの構成	講義	②	3・4	○		
		読書と豊かな人間性	講義	②	3・4	○		
		学習指導と学校図書館	講義	②	3・4	○		
		情報メディアの活用	講義	②	3・4	○		

※単位：教育職員養成課程に関する●数字の科目は必修科目、○数字の科目は選択必修科目です。

※単位：教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目：8単位以上修得すること。

※単位：学校図書館司書教諭課程に関する●数字の科目は必修科目です。

注) 学校図書館司書教諭とは、教職科目を履修し、卒業時に教職資格を認められた者だけに資格申請の権利が与えられる資格です。  
教職課程科目の履修なく学校図書館司書教諭課程科目を履修しても、資格を取ることはできませんので注意してください。

## 2024年度入学者用

## 博物館学芸員養成課程科目

		科目	授業区分	単位	配当年次	卒業所要単位に 含まれない科目	段階の科目 (前提科目)	備考	
博物館学芸員養成課程科目	省令必修科目	生涯学習論Ⅰ	講義	②	1				
		博物館概論	講義	②	1	○			
		博物館資料論	講義	②	2	○			
		博物館展示論	講義	②	2	○			
		博物館資料保存論	講義	②	3	○			
		博物館経営論	講義	②	3	○			
		博物館教育論	講義	②	2・3	○			
		博物館情報・メディア論	講義	②	2・3	○			
		博物館実習A(見学実習)	演習・実習・実技	①	2	○			
		博物館実習B(実務実習)	演習・実習・実技	①	3	○			
		博物館実習C(館園実習)	演習・実習・実技	①	4	○			
	基礎選択必修科目	日本美術史	講義	②	1				
		日本文化史Ⅰ	講義	②	2				
		日本文化史Ⅱ	講義	②	2				
		地域文化概論	講義	②	1・2				
		世界遺産研究	講義	②	2				
		ミュージアム研究	講義	②	2・3				
		西洋美術の旅	講義	②	2・3				
		国内観光資源研究A(東京・首都圏)	講義	②	2				
		国内観光資源研究B(東日本)	講義	②	2・3				
	国内観光資源研究C(西日本)	講義	②	2・3					
	専攻選択必修科目	日本史Ⅰ(古代)	講義	②	2・3				
		日本史Ⅱ(中世)	講義	②	2・3				
		日本史Ⅲ(近世)	講義	②	2・3				
		日本史Ⅳ(近現代)	講義	②	2・3				
		日本の文化財Ⅰ	講義	②	2・3				
		日本の文化財Ⅱ	講義	②	2・3				
		歴史資料論	講義	②	2・3				
		民俗資料論	講義	②	2・3				
		歴史考古学	講義	②	2・3				
		歴史地理学	講義	②	2・3				
		文化交流史Ⅰ	講義	②	2・3				
文化交流史Ⅱ		講義	②	2・3					

※単位：博物館学芸員養成課程に関する●数字の科目は必修科目、○数字の科目は選択必修科目です。

※省令必修科目：19単位以上修得すること。

※基礎選択必修科目：6単位以上修得すること。

※専攻選択必修科目：6単位以上修得すること。

2024年度入学者用

建築士受験資格取得のための指定科目

科目	授業区分	単位	配当年次	段階の科目 (前提科目)	分類別必要最低単位数	
					一級	二級
製図の基礎	講義	②	1		①このなかから 7単位以上	①このなかから 3単位以上
CAD I	演習・実習・実技	①	1			
CAD II	演習・実習・実技	①	2	CAD I		
設計製図 I	演習・実習・実技	2	2	建築・インテリアデザイン入門		
設計製図 II	演習・実習・実技	2	2	設計製図 I		
建築デザイン I	演習・実習・実技	2	3	注1		
建築デザイン II	演習・実習・実技	2	3	設計製図 I 建築デザイン I		
建築・インテリアデザイン入門	講義	2	1		②このなかから 7単位以上	②～④から 2単位以上
建築デザイン論	講義	2	2			
建築計画A	講義	2	2			
建築計画B	講義	2	3			
建築計画C	講義	2	3			
建築計画D	講義	2	4			
日本建築史	講義	2	2・3・4			
西洋建築史	講義	2	2・3・4		③このなかから 2単位以上	
環境デザイン	講義	2	2・3・4			
環境工学	講義	2	3		④必須	
建築環境設備	講義	2	3		⑤必須	
構造力学 I	講義	2	2		⑥必須	⑤～⑦から 3単位以上
構造力学 II	講義	2	2			
建築構造 I	講義	2	2		⑦必須	
建築構造 II	講義	2	2		⑧必須	
建築材料	講義	2	3		⑨必須	
建築生産	講義	2	3		⑩必須	
建築法規	講義	2	3・4			
図学と透視画の基礎	講義	②	1		⑩適宜 ■一級建築士受験資格要件 1.①～⑩の合計60単位 2.①～⑩の合計50単位 3.①～⑩の合計40単位 ■一級建築士免許登録要件 1.①～⑩の合計60単位 +実務経験2年 2.①～⑩の合計50単位 +実務経験3年 3.①～⑩の合計40単位 +実務経験4年	⑩適宜 ■二級建築士受験資格要件 1.①～⑩の合計40単位 2.①～⑩の合計30単位 3.①～⑩の合計20単位 ■二級建築士免許登録要件 1.①～⑩の合計40単位 2.①～⑩の合計30単位 +実務経験1年 3.①～⑩の合計20単位 +実務経験2年
平面と立体表現の基礎	講義	②	1			
CAD III	演習・実習・実技	1	2	CAD II		
プレゼンテーション技法	演習・実習・実技	1	3	注2		
インテリアデザイン論	講義	2	2			
インテリアデザイン計画A	講義	2	2			
インテリアデザイン計画B	講義	2	3			
インテリアデザイン計画C	講義	2	3			
インテリアデザイン I	演習・実習・実技	2	3	注3		
インテリアデザイン II	演習・実習・実技	2	3	設計製図 I インテリアデザイン I		
インテリアプロダクト論	講義	2	2・3・4			
インテリアの知識と技術 I	講義	2	2・3・4			
インテリアの知識と技術 II	講義	2	3・4			
福祉住環境デザイン	講義	2	2・3・4			
ランドスケープ論	講義	2	2・3・4			
都市デザイン論	講義	2	3			

※単位：●数字の科目は必修科目です。

※注1： 建築デザイン I の履修には、設計製図 I を履修中または修得済である必要があります。

※注2： プレゼンテーション技法の履修には、CAD II を履修中または修得済である必要があります。

※注3： インテリアデザイン I の履修には、設計製図 I を履修中または修得済である必要があります。

## 2024年度入学者用

## 公認心理師受験資格取得のための指定科目

	授業科目の名称	授業区分	単位	配当年次	段階の科目 (前提科目)	備考	
公認心理師法施行規則第1条の2で定める大学における必要な科目	公認心理師の職責	公認心理師の職責	講義	②	3		
	心理学概論	心理学入門(心理学概論) I	講義	②	1		
		心理学入門(心理学概論) II	講義	②	1		
	臨床心理学概論	臨床心理学概論	講義	②	2		
	心理学研究法	心理学研究法 I	講義	②	3		
		心理学研究法 II	講義	②	3		
	心理学統計法	心理学統計法	講義	②	2		
	心理学実験	心理学実験 I	演習・実習・実技	②	2		
		心理学実験 II	演習・実習・実技	②	2		
	知覚・認知心理学	知覚・認知心理学	講義	②	2・3		
	学習・言語心理学	学習・言語心理学	講義	②	2・3		
	感情・人格心理学	感情・人格心理学	講義	②	2・3		
	神経・生理心理学	神経・生理心理学	講義	②	2・3		
	社会・集団・家族心理学	社会・集団心理学(社会・集団・家族心理学 I)	講義	②	2・3		
		家族心理学(社会・集団・家族心理学 II)	講義	②	2・3		
	発達心理学	発達心理学 I	講義	②	2・3		
		発達心理学 II(高齢者心理学)	講義	②	2・3		
	障害者・障害児心理学	障害者・障害児心理学	講義	②	2・3		
	心理的アセスメント	心理的アセスメント I	講義	②	3・4	心理学実験 I・II	
		心理的アセスメント II	講義	②	3・4	心理学実験 I・II	
	心理学的支援法	心理学的支援法 I	講義	②	3・4		
		心理学的支援法 II	講義	②	3・4		
	健康・医療心理学	健康・医療心理学	講義	②	2・3・4		
	福祉心理学	福祉心理学	講義	②	2・3・4		
	教育・学校心理学	教育・学校心理学	講義	②	2・3・4		
	司法・犯罪心理学	司法・犯罪心理学	講義	②	2・3・4		
	産業・組織心理学	産業・組織心理学	講義	②	2・3・4		
	人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病	講義	②	2・3・4		
精神疾患とその治療	精神疾患とその治療	講義	②	2・3・4			
関係行政論	関係行政論	講義	②	3			
心理演習	心理演習	演習・実習・実技	②	4	心理的アセスメント I・II		
心理実習	心理実習	演習・実習・実技	②	4	心理演習		
	卒業論文	演習・実習・実技	④	4			

※ 単位：公認心理師受験資格取得のため指定科目に関する●数字の科目は必修科目です。

※ 心理演習を履修するには、公認心理師受験資格取得を希望し、かつ3年次終了時に、施行規則第1条で定める科目30科目60単位を含めた93単位を修得していなければならない。なお、履修希望者が15名を超える場合は、上記30科目のGPAにより選抜する。

※ 卒業論文は、公認心理師法施行規則第1条の2で定める大学における必要な科目ではないが、本学大学院に進学し、公認心理師法施行規則第2条で定める大学院における必要な科目を修め受験資格取得を希望する場合(公認心理師受験区分A)は、必修科目とする。ただし、他大学大学院進学もしくは実務経験(公認心理師受験区分B)にて受験資格取得を希望するものは、その限りではない。

## 10. シラバスについて

シラバスは KOMAJO ポータルで確認することができます。

### ① 科目分類

科目分類は、各科目の概要を 8 桁の数字で示したものです。

① ② ③ - ④ ⑤ ⑥ - ⑦ ⑧

#### ① 1000000 の位【学部】

- 1 人間総合学群
- 2 人間健康学部
- 3 看護学部
- 4 大学院人文科学研究科

#### ② 100000 の位【学類・学科】

- 0 学類・学科にかかわらない（注：人間総合学群教養科目・大学院）
- 1 人間文化学類／健康栄養学科／看護学科
- 2 観光文化学類
- 3 心理学類
- 4 住空間デザイン学類

#### ③ 100000 の位【専攻・コース】

- 0 専攻・コースにかかわらない
- 1 日本文化専攻／コース A（住空間）／仏教文化専攻
- 2 人間関係専攻／コース B（住空間）／臨床心理学専攻
- 3 英語コミュニケーション専攻

（ハイフン）

#### ④ 10000 の位【種別】

- 1 教養教育科目
- 2 専門基礎科目
- 3 専門教育科目（注：人間総合）／専門科目（注：人間健康・看護。人間健康の「臨床心理関連科目」も）
- 4 資格科目（卒業所要単位に含まれない）
- 5 その他の科目（注：現状で実際には該当科目はない）

#### ⑤ 1000 の位【必・選】（卒業所要単位）

- 1 必修科目
- 2 選択必修科目
- 3 選択科目

#### ⑥ 100 の位【資格】

- 0 資格取得にはかかわらない
- 1 何らかの資格取得に関わる

（ハイフン）

#### ⑦ 10 の位【区分】

- 1 講義
- 2 演習・実習・実技（注：人間総合）／演習・実習・実験（注：人間健康）／演習（注：看護・大学院）
- 3 実習・実験（注：人間健康）／実習（注：看護学部・大学院）

#### ⑧ 1 の位【段階】

- 1 1 年次から履修可能
- 2 2 年次から履修可能
- 3 3 年次から履修可能
- 4 4 年次から履修可能



## 【科目分類の例】

- 100-110-11 人間総合学群・全・全—教養教育科目・必修科目・資格に関わらない—  
講義科目・1年次以降  
⇒基礎ゼミ・仏教学など
- 111-331-12 人間総合学群・人間文化学類・日本文化専攻—専門教育科目・選択科目・資格に関わる—  
講義科目・2年次以降  
⇒古典文学概論・日本語学概論Ⅰなど
- 130-331-13 人間総合学群・心理学類・専攻なし—専門教育科目・選択科目・資格に関わる—  
講義科目・3年次以降  
⇒公認心理師の職責など
- 210-211-32 人間健康学部・健康栄養学科・専攻なし—専門基礎科目・必修科目・資格に関わる—  
実験・実習科目・2年次以降  
⇒食品学実験Ⅰ・Ⅱなど
- 310-311-23 看護学部・看護学科・専攻なし—専門科目・必修科目・資格に関わる—  
演習科目・3年次以降  
⇒小児看護学方法論など

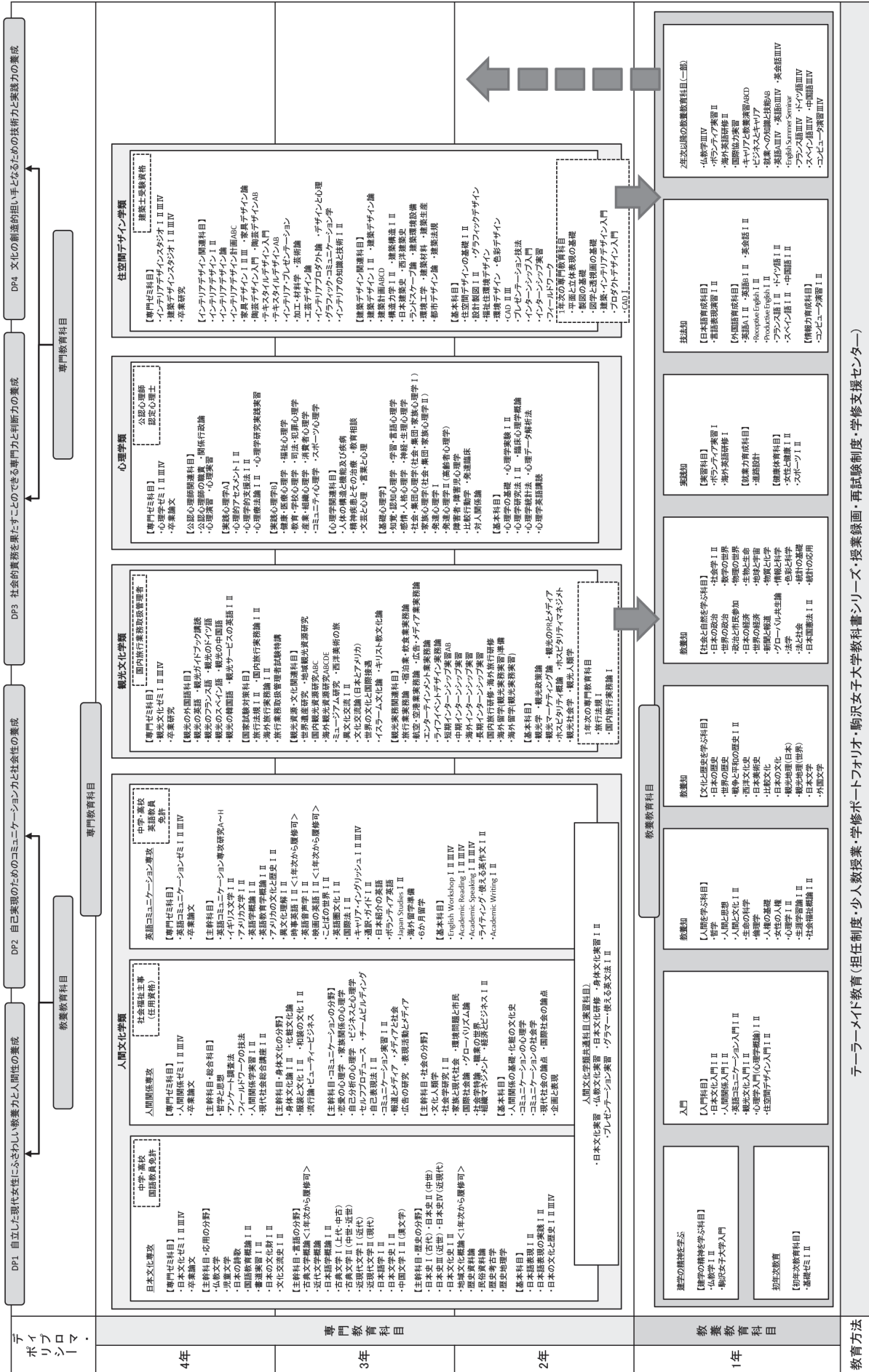
## ② 学修指針

学修指針は、本学のディプロマ・ポリシーに基づき設定されています。

この学修指針には2つの役割があります。1つは、各授業がどのような力を育成することを主な目的としているかを学生が判断するための指針という役割です。もう1つは、各学類のカリキュラムが学生の能力を偏りなく育成することができるように設定されているかを大学が検証するための指針という役割です。

履修科目の選択の判断材料として有意義に活用してください。

駒沢女子大学 人間総合学群 カリキュラムツリー



人間総合学群 教養教育科目 カリキュラムマップ

	ポリシー	全学 DP	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
		学群 DP	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性を身につける		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性を身につける		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力を身につける		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力を身につける	
学修指針・学修到達度	到達度 lv4	【関心・分析・探求・自立】 広く社会・自然・人間について多角的な知見を有し、論点を整理しながら、解を導き、解決に向けて探求し続けることができる。	【遵守・忠告・道徳・倫理】 社会的ルールを遵守しつつ、仏教をはじめと人間存在に関する深い洞察を学び、人間的な向上を目指すことができる。	【会話・弁論・論述・共感】 自らの考えを論理的に口頭で説明したり、高度な内容を、読者の反応を予想しつつ、効果的な表現を用いて文章化することができる。	【社会・参加・公共・責任】 現代社会の仕組みを深く理解し、自立した社会人としての責任感や、ボランティア活動など、社会をよりよくするための活動に参加することができる。	【基礎・応用・実践・自学】 専門分野に関する深い知識を有し、諸問題に適切に応用しつつ、新たな知見を求め、自ら学習活動を維持することができる。	【批判・論理・証拠・発展】 授業や書物等から得たい知識について、実証的に批判し、独自の考えをいくことができる。	【基礎・応用・実践・自学】 各専門分野に必要とされる高度な技術力や、それに見合う各種資格等を自ら身につけることができる。	【発見・模索・計画・解決】 自らすすんで眼前の問いや、自分なりの方法を駆使し、計画性を持って導くことができる。	
		到達度 lv3	【関心・分析・探求】 広く社会・自然・人間について、多くの情報を適切に選択し、問題意識を深めていくことができる。	【遵守・忠告・道徳】 多くの社会的価値観に触れ、柔軟な見方を身につけたうえで、社会のルールや人間性を気付けることができる。	【会話・弁論・論述】 自らの考えを論理的に口頭で説明したり、読者の反応を予想しつつ、的確な表現を選びながら文章にまとめることができる。	【社会・参加・公共】 現代社会の仕組みを理解し、よりよい社会を目指して市民活動に参加することができる。	【基礎・応用・実践】 専門分野に関する深い知識を有し、諸問題に適切に応用しつつ、自分の発見や見聞を目標とすることができる。	【批判・論理・証拠】 授業や書物等から得たい知識について、その反証例を挙げ、批判することができる。	【基礎・応用・実践】 専門分野の技能に習熟したうえで、各種資格を取得したり、等検定に合格し、活用することができる。	【発見・模索・計画】 自らすすんで眼前の問いや、解決法を考え、実行すべき手順を把握することができる。
		到達度 lv2	【関心・分析】 身の回りの事象について、複数の資料に目を通し、問題点を整理することができる。	【遵守・忠告】 自身の健康に気を配り、社会のマナーやルールを守り、自分の周囲の人々の行動にも配慮することができる。	【会話・弁論】 自らの考えをわかりやすく口頭で説明したり、簡潔な表現で文章にまとめることができる。	【社会・参加】 政治や経済など、現代社会の仕組みを理解し、自分なりに問題点を見出すことができる。	【基礎・応用】 専門分野に関する知識を備え、各種知識を自ら当面的に活用することができる。	【批判・論理】 授業や書物等から得たい知識について、矛盾点を見出し批判することができる。	【基礎・応用】 専門分野で必要とされる基本技術や、物事に対応することができる。	【発見・模索】 自らすすんで眼前の問いや、解決模索を求めていることができる。
		到達度 lv1	【関心】 身の回りのさまざまな事象について、関心を持つことができる。	【遵守】 自身の健康に気を配り、社会のマナーや集団でのルールを守ることができる。	【会話】 自らの考えを口頭で説明したり、メモにまとめたりすることができる。	【社会】 現代社会の仕組みに関する程度説明することができる。	【基礎】 専門分野に関する概念や専門用語が理解できる。	【批判】 授業や書物等から得たい知識について批判的に対することができる。	【基礎】 専門分野で必要とされる基本技術や、身につけることができる。	【発見】 眼前にある課題に対して、その問題点を把握することができる。
		学年	学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力
初年次 教育科目	1	基礎ゼミⅠ	○	○	◎	○				
	1	基礎ゼミⅡ	○	○	◎	○				
建学の精神を学ぶ科目	1	仏教学Ⅰ	◎	○		△			△	
	1	仏教学Ⅱ	◎	○		△			△	
	2	仏教学Ⅲ	◎	○		△			△	
	2	仏教学Ⅳ	◎	○		△			△	
	1	駒沢女子大学入門	◎	○		△			△	
入門科目	1	日本文化入門Ⅰ	◎	○	△					
	1	日本文化入門Ⅱ	◎	○	△					
	1	人間関係入門Ⅰ	○	△	○	○	◎			
	1	人間関係入門Ⅱ	○	△	○	○	◎			
	1	英語コミュニケーション入門Ⅰ	○		◎			△	○	
	1	英語コミュニケーション入門Ⅱ	○		◎			△	○	
	1	観光文化入門Ⅰ	○				◎		△	
1	観光文化入門Ⅱ	○				◎	△	○		

	学年	学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
	1	心理学入門 (心理学概論) I	◎	△	○		○	△		
	1	心理学入門 (心理学概論) II	◎	△	○		○			
	1	住空間デザイン入門 I	○	○	◎		△			
	1	住空間デザイン入門 II	○	○	◎		△			
教養知・人間を学ぶ科目	1	哲学	◎	○		△		○		
	1	人間と思想	◎	○		△		○		
	1	人間と文化 I	◎	○		△				
	1	人間と文化 II	◎	○		△				
	1	生命の科学	◎	○		△				
	1	倫理学	◎	○		△		○		
	1	人権の基礎	○	◎		△				
	1	女性の人権	○	◎		△				
	1	心理学 I	◎	○		△				
	1	心理学 II	◎	○		△				
	1	生涯学習論 I	◎				○	○		
	1	生涯学習論 II	◎				○	○		
	1	社会福祉概論 I	◎	△		△	○	○		
	1	社会福祉概論 II	◎	△		△	○	○		
教養知・文化と歴史を学ぶ科目	1	日本の歴史	◎	○		△				
	1	世界の歴史	◎	○		△				
	1	戦争と平和の歴史 I	◎	○		△				
	1	戦争と平和の歴史 II	◎	○		△				
	1	西洋文化史	◎	○						
	1	日本美術史	◎	○		△				
	1	比較文化	◎	△		○				
	1	日本の文化	◎	○						
	1	観光地理 (日本)	◎	○						
	1	観光地理 (世界)	◎	○						
	1	日本文学	◎	○						
	1	外国文学	◎	○						
教養知・社会と自然を学ぶ科目	1	日本の政治	◎	○		△				
	1	世界の政治	◎	○		△				
	1	政治と市民参加	◎	○		△				
	1	日本の経済	◎	○		△				
	1	世界の経済	◎	○		△				
	1	新聞と報道	◎	○		△				
	1	グローバル共生論	◎	○		△				
	1	法学	○	△		◎				
	1	法と社会	○	△		◎				
	1	日本国憲法 I	○	△		◎				
	1	日本国憲法 II	○	△		◎				
	1	社会学 I	◎	○		△				
	1	社会学 II	◎	○		△				
	1	数学の世界	◎	○						
	1	物理の世界	◎	○						
	1	生物と生命	◎	○						
	1	地球と宇宙	◎	○						
	1	物質と化学	◎	○						
	1	情報と科学	◎	○						
	1	色彩と科学	◎	○						
	1・2	統計の基礎	○				◎	○	○	△
	1・2	統計の応用	○				◎	○	○	△

	学年	学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
実践知・実習科目	1	ボランティア実習Ⅰ	△	○	△			△		○
	2	ボランティア実習Ⅱ	△	○	△			△		○
	1	海外英語研修Ⅰ			◎				△	○
	2	海外英語研修Ⅱ			◎				△	○
	2	国際協力実習	△	○	△			△		
実践知・就業力育成科目	1	進路設計	○		○	◎			○	
	2・3	キャリアと教養演習 A	◎		○	○			○	
	2・3	キャリアと教養演習 B	◎		○	○			○	
	2・3	キャリアと教養演習 C	◎		○	○			○	
	2・3	キャリアと教養演習 D	◎		○	○			○	
	3	ビジネスとキャリア	○		○	○			◎	
	2・3	就業への知識と技能 A	◎		○	○			○	
2・3	就業への知識と技能 B	◎		○	○			○		
健康実践知・ 体育科目	1	女性と健康Ⅰ	◎	○	△					
	1	女性と健康Ⅱ	◎	○	△					
	1・2	スポーツⅠ	○	○	○	○				
	1・2	スポーツⅡ	○	○	○	○				
育成科目 日本語	1	言語表現演習Ⅰ	○		◎				○	
	1	言語表現演習Ⅱ	○		◎				○	
技法知・外国語育成科目	1	英語 AⅠ	○		◎				△	○
	1	英語 AⅡ	○		◎				△	○
	2	英語 AⅢ	○		◎				△	○
	2	英語 AⅣ	○		◎				△	○
	1	英語 BⅠ	○		◎				△	○
	1	英語 BⅡ	○		◎				△	○
	2	英語 BⅢ	○		◎				△	○
	2	英語 BⅣ	○		◎				△	○
	1	英会話Ⅰ			◎				△	○
	1	英会話Ⅱ			◎				△	○
	2	英会話Ⅲ			◎				△	○
	2	英会話Ⅳ			◎				△	○
	1・2	Receptive EnglishⅠ	△		◎	○				
	1・2	Receptive EnglishⅡ	△		◎	○				
	1・2	Productive EnglishⅠ			◎	○				△
	1・2	Productive EnglishⅡ			◎	○				△
	2・3	English Summer Seminar			◎				△	○
	1	フランス語Ⅰ	○		◎	○			△	
	1	フランス語Ⅱ	○		◎	○			△	
	2	フランス語Ⅲ	○		◎	○			△	
	2	フランス語Ⅳ	○		◎	○			△	
	1	ドイツ語Ⅰ	○		◎	○			△	
	1	ドイツ語Ⅱ	○		◎	○			△	
	2	ドイツ語Ⅲ	○		◎	○			△	
	2	ドイツ語Ⅳ	○		◎	○			△	
	1	スペイン語Ⅰ	○		◎	○			△	
	1	スペイン語Ⅱ	○		◎	○			△	
	2	スペイン語Ⅲ	○		◎	○			△	
	2	スペイン語Ⅳ	○		◎	○			△	
	1	中国語Ⅰ	○		◎	○			△	
1	中国語Ⅱ	○		◎	○			△		
2	中国語Ⅲ	○		◎	○			△		
2	中国語Ⅳ	○		◎	○			△		

	学年	学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
技法知・情報力 育成科目	1	コンピュータ演習Ⅰ	○		◎				○	
	1	コンピュータ演習Ⅱ	○		◎				○	
	2	コンピュータ演習Ⅲ	○		◎				○	
	2	コンピュータ演習Ⅳ	○		◎				○	
特設科目・留学生	1	日本語 AⅠ	○		◎	○			△	
	1	日本語 BⅠ	○		◎	○			△	
	1	日本語 AⅡ	○		◎	○			△	
	1	日本語 BⅡ	○		◎	○			△	
	2	日本語 AⅢ	○		◎	○			△	
	2	日本語 BⅢ	○		◎	○			△	
	2	日本語 AⅣ	○		◎	○			△	
	2	日本語 BⅣ	○		◎	○			△	
	1	日本事情Ⅰ	○		○	◎				△
	1	日本事情Ⅱ	○		○	◎				△
	2	日本事情Ⅲ	○		○	◎				△
	2	日本事情Ⅳ	○		○	◎				△

人間総合学群 人間文化学類 日本文化専攻 専門教育科目 カリキュラムマップ

	ポリシー	学修指針・学修到達度		到達度						
		到達度 lv4	到達度 lv3	到達度 lv2	到達度 lv1	到達度 lv4	到達度 lv3	到達度 lv2	到達度 lv1	
	ディプロマ	<p>全学 DP</p> <p>自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成</p>	<p>自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成</p>	<p>社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成</p>	<p>文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成</p>					
		<p>専攻 DP</p> <p>日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成</p>	<p>社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成</p>	<p>日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成</p>	<p>日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成</p>					
		<p>日本の文化・歴史・文学・言語について、複数の情報を適切に整理し、問題解決に向けて多角性を広げようすることができる。</p>	<p>日本社会の秩序や慣習を踏まえ、人間存在の深い洞察を持ち、人格的向上を目指すことができる。</p>	<p>さまざまな知識に基づいた自らの考えを異なる意見を意識し、論理的に口頭で説明したり、適切に文章化したりすることができる。</p>	<p>現代の日本社会の仕組みを深く理解し、自立した社会人としての責任感を持ち、共同作業に貢献することができる。</p>	<p>日本文化に関する深い専門知識を持ち、さまざまな問題に適切に対応し、新たな知見を求めて自らすすんで学習活動を維持することができる。</p>	<p>授業や書物等から得た日本文化の知識について、実証的に批判し、独自の論理的な考えを育てていくことができる。</p>	<p>日本文化の諸分野について、独自の分析方法を確立し、情報等に優れた技術を用いて適切に課題解決をすることができる。</p>	<p>日本文化の問題に対して、積極的に向かい合い、独自の方法を駆使して、計画的に解決まで努力し続けることができる。</p>	
		<p>日本の文化・歴史・文学・言語について、複数の情報を捨選択しながら整理し、問題意識を深めていくことができる。</p>	<p>さまざまな日本の価値観を理解し、柔軟なものの見方を身に付け、日本社会の秩序や慣習を踏まえた人間性に気付くことができる。</p>	<p>自らの考えを論理的に口頭で説明したり、的確な表現を選びながらまとめることができる。</p>	<p>現代の日本社会の仕組みをよく理解し、他者とスムーズに共同作業をすることができる。</p>	<p>日本文化の専門知識を深く理解し、さまざまな問題に適切に対応し、自らの考えを持つことができる。</p>	<p>授業や書物等から得た日本文化の知識について、その根拠となる資料を挙げつつ、批判的に考察を深めることができる。</p>	<p>日本文化の諸分野について、さまざまな分析方法や、情報などの諸技術を用いて、的確に解決することができる。</p>	<p>日本文化の問題に対して、自ら進んで課題を解決できるように計画を立てて実行することができる。</p>	
		<p>日本文化の事象について、複数の情報を通し、問題点を見出すことができる。</p>	<p>日本の文化に裏付けられた価値観に触れ、自分の周囲の人々の行動にも配慮することができる。</p>	<p>自らの考えを効果的に口頭で説明したり、簡潔な表現でまとめることができる。</p>	<p>現代の日本社会の仕組みを理解し、自分なりに問題点を見出すことができる。</p>	<p>日本文化の専門知識を持ち、自ら関心を持つ問題に応用することができる。</p>	<p>授業や書物等から得た日本文化の知識について、問題点を見出し考察することができる。</p>	<p>日本文化の諸分野について、身につけた分析方法や、情報などのさまざまな技術を活用することができる。</p>	<p>日本文化の問題に対して、自らすすんで向かい合い、その解決を模索することができる。</p>	
		<p>日本文化のさまざまな事象について、関心をもちることができる。</p>	<p>日本の文化に裏付けられた秩序やさまざまな価値観に関心をもちることができる。</p>	<p>自らが理解したことを、正確に話したり、相手の話に聞き取ったりすることができる。</p>	<p>社会の仕組みに関心を持ち、他者と関わることができる。</p>	<p>日本文化に関する基本概念や専門用語を理解し、説明することができる。</p>	<p>授業や書物等から得た日本文化の知識について、問題点を見出すことができる。</p>	<p>日本文化の諸分野について、分析方法や、情報に関する技術を生かすことができる。</p>	<p>日本文化の問題に対して、その問題点に取り組もうとすることができる。</p>	
学年	学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力	
基本科目	2	日本語表現Ⅰ	○	◎				△		
	2	日本語表現Ⅱ	○	◎				△		
	3	日本語表現の実践Ⅰ	○	◎				△	○	
	3	日本語表現の実践Ⅱ	○	◎				△	○	
	2	日本の文化と歴史Ⅰ	○		○	◎			◎	
	2	日本の文化と歴史Ⅱ	○		○	◎			◎	
	3	日本の文化と歴史Ⅲ	○		○	◎			◎	
	3	日本の文化と歴史Ⅳ	○		○	◎			◎	
主幹科目・言語の分野	1・2	古典文学概論	○	◎		△	◎			
	2	近代文学概論	○	◎		△	◎			
	2	日本語学概論Ⅰ	○	◎		△	◎			
	2	日本語学概論Ⅱ	○	◎		△	◎			
	2・3	古典文学Ⅰ（上代・中古）		◎			◎	○		
	2・3	古典文学Ⅱ（中世・近世）		◎			◎	○		
	2・3	近現代文学Ⅰ（近代）		◎			◎	○		
	2・3	近現代文学Ⅱ（現代）		◎			◎	○		
3	日本語学Ⅰ		◎			◎	○			

	学年	学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
	3	日本語学Ⅱ		◎			◎	○		
	2・3・4	日本文学史Ⅰ		◎			◎	○	○	
	2・3・4	日本文学史Ⅱ		◎			◎	○	○	
	3	中国文学Ⅰ(漢文学)		◎			◎		○	
	3	中国文学Ⅱ(漢文学)		◎			◎		○	
主幹科目・歴史の分野	2・3	日本史Ⅰ(古代)		○			◎	◎		
	2・3	日本史Ⅱ(中世)		○			◎	◎		
	2・3	日本史Ⅲ(近世)		○			◎	◎		
	2・3	日本史Ⅳ(近現代)		○			◎	◎		
	2	日本文化史Ⅰ		○			◎	◎	○	
	2	日本文化史Ⅱ		○			◎	◎	○	
	1・2	地域文化概論	○	○		○	◎	◎		
	2・3	歴史資料論		○			◎	◎	○	
	2・3	民俗資料論		○			◎	◎	○	
	2・3	歴史考古学		○			◎	◎	○	
2・3	歴史地理学		○			◎	◎	○		
主幹科目・応用の分野	3・4	仏教文学	○	◎			◎			
	3・4	児童文学	○	◎			◎			
	3・4	日本の詩歌	○	◎			◎		△	
	2	国語教育概論Ⅰ	○	◎			◎		○	
	2	国語教育概論Ⅱ	○	◎			◎		○	
	3	書道実習Ⅰ		○			△		◎	
	3	書道実習Ⅱ		○			△		◎	
	2・3	日本の文化財Ⅰ		◎		○	◎	○		
	2・3	日本の文化財Ⅱ		◎		○	◎	○		
	2・3	文化交流史Ⅰ		◎			◎	○		
2・3	文化交流史Ⅱ		◎			◎	○			
専門ゼミ科目	3	日本文化ゼミⅠ			○		○		◎	◎
	3	日本文化ゼミⅡ			○		○		◎	◎
	4	日本文化ゼミⅢ			○		○		◎	◎
	4	日本文化ゼミⅣ			○		○		◎	◎
	4	卒業論文					○	◎	○	◎
学類共通科目・実習科目	3・4	日本文化実習	◎			○		△		◎
	3・4	仏教文化実習	◎			○		△		◎
	3・4	日本文化研修	◎			○			△	◎
	2・3	身体文化実習Ⅰ			△	○			◎	
	2・3	身体文化実習Ⅱ			△	○			◎	
	2・3	プレゼンテーション実習			△	△			◎	○
	2	グラマー・使える英文法Ⅰ			○		△		◎	○
	2	グラマー・使える英文法Ⅱ			○		△		◎	○



## 人間総合学群 人間文化学類 人間関係専攻 専門教育科目 カリキュラムマップ

	ディプロマポリシー	全学 DP	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
		専攻 DP	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針・学修到達度	到達度 lv4	人間関係に関する十分な基礎的な教養を有し、さらにそれを自分で高めていくことができる。	自立した人間としての思考力を有し、自身を自己の価値観・世界観を確立している。	他人に共感し理解できる力を有する。また多様な価値観に応じて柔軟に自分自身を主張・発信することができる。	積極的に多様な集団や社会とかができ、自己の役割をえ貢献できるような努力を達成する力がある。	専攻するテーマを中心に、人間関係に関する専門的な知識を有し、それを高める方法を知っている。	人間や社会に関して直面する諸問題について課題を発見し、自分なりの解決策を見つけていることができる。	社会と文化に関して学んだ知識・技術を自分の生活に取り込む適応力があり、さらにそれを高めることができる。	生活するなかで起きる多様な問題に積極的に行動力と、解決できる力を実力を有する。	
	到達度 lv3	人間関係に関する基礎的な知識を有し、それを高める方法を知っている。	自立した思考の必要性を理解し、自分自身の価値観を構築しようとしている。	他者の存在を認識し、それに対して理解し共感しながら自分の意見を発信できる。	グループワークなど集団作業において目標を自覚し、自分の役割を考え達成しようとする努力ができる。	専攻するテーマについて、多角的に情報を整理し、自分で根拠を示し、考察することができる。	人間や社会に存在する多様な問題について自己の視点から分析し、自分の言葉で論じることができる。	社会と文化に関して学んだ知識や技術を自己の生活に生かそうとする力がある。	生活するなかで起きる多様な問題に自分なりに取り組む行動力と解決できる実行力がある。	
	到達度 lv2	自分自身の人間関係に関する基礎的な知識で、足りない部分を認識できる。	自分自身について客観的に見つけることができるようになる。	他者の存在を公平に認識し、それに対して理解し共感することができる。	チームワークを理解し、その一員として積極的ににかかわろうとする意欲があり、実行ができる。	専攻するテーマについて、多角的に情報を整理することができる。	人間や社会におけるさまざまな問題を自己の関心に即して具体的に挙げるることができる。	社会と文化に関する知識や技術と、自分の生活との関連性を認識できる。	生活するなかで起きる多様な問題に自分なりに取り組む行動力がある。	
	到達度 lv1	人間関係について、自分の知っていることを述べるができる。	自分らしさとは何かをよ考えるようになる。	他者の存在を認めることができ、それぞれの価値観があることを理解している。	集団活動のメンバーとして何が求められているか、必要な要素を知ることができる。	専攻するテーマについて、情報を集めることができる。	人間や社会にさまざまな問題があることを理解する力がある。	社会と文化に関する知識や技術を自分のものにしていく。	生活するなかで起きる多様な問題に自分なりに取り組もうと努力する。	
	学年	学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
基本科目	2	人間関係の基礎	◎	○	○	△				
	2・3	化粧の文化史		○			◎	△		
	2・3	コミュニケーションの心理学	○	△	◎		○			
	2・3	コミュニケーションの社会学	○		◎		○	△		
	2・3	現代社会の論点	○			○		◎	△	
	2・3	国際社会の論点	○			○		◎		
	2・3	企画と表現				○		△	◎	
主幹科目・身体文化の分野	2・3	身体文化論Ⅰ	○			○		◎		
	2・3	身体文化論Ⅱ	○			○		◎		
	2・3	化粧文化論	◎					○		
	2・3	服装と文化Ⅰ	○					◎		
	2・3	服装と文化Ⅱ	○					◎		
	2・3	和装の文化Ⅰ	○					◎	△	
	2・3	和装の文化Ⅱ	○					◎	△	
	2・3	流行論	○					◎	○	
	3・4	ビューティービジネス	○					◎	○	

	学年	学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
主幹科目・コミュニケーションの分野	2・3	恋愛の心理学	○	△	○		◎			
	2・3	家族関係の心理学	○	△	○		◎			○
	2・3	自己分析の心理学		○			◎			○
	2・3	ビジネスと心理学				○	◎			○
	3・4	セルフプロデュース		◎	○		△		○	
	2・3	チームビルディング				○			◎	○
	2・3	自己表現法Ⅰ		◎	○	△				
	2・3	自己表現法Ⅱ		◎	○	△				
	2	コミュニケーション実習Ⅰ			◎	○			○	
	2	コミュニケーション実習Ⅱ			◎	○			○	
	2・3	報道とメディア	○				○	◎		
	2・3	メディアと社会	◎				○	○		
	2・3	広告の研究	○				◎	○		
	2・3	表現活動とメディア			△	○	◎		○	
主幹科目・社会の分野	2・3	文化人類学	◎		○		○			
	2・3	社会学研究Ⅰ	○				◎	○		
	2・3	社会学研究Ⅱ		○			◎	○		
	2・3	家族と現代社会	○				◎	○		
	2・3	環境問題と市民	○				◎	○		
	2・3	国際社会論	○				◎	△		
	2・3	グローバリズム論	○			○	◎			
	2・3	社会学特論		○			◎	○		
	2・3	職業の世界		○		◎			○	
	2・3	組織マネジメント				○			◎	○
	3・4	経済とビジネスⅠ				○	◎	△	○	
	3・4	経済とビジネスⅡ				○	◎	△	○	
主幹科目・総合科目	2・3	哲学と思想	◎	○			○	○		
	2・3	アンケート調査法					◎	○	○	
	2・3	フィールドワークの技法					◎	○	○	
	2	人間関係学実習Ⅰ			○	○			◎	
	2	人間関係学実習Ⅱ			○	○			◎	
	3	現代社会総合講座Ⅰ	○				◎	○		
3	現代社会総合講座Ⅱ	○				◎	○			
専門ゼミ科目	3	人間関係ゼミⅠ				△	○	◎		○
	3	人間関係ゼミⅡ				△	○	◎		○
	4	人間関係ゼミⅢ				△	○	◎		○
	4	人間関係ゼミⅣ				△	○	◎		○
	4	卒業論文				△	○	◎		○
学類共通科目・実習科目	3・4	日本文化実習	◎			○		△		◎
	3・4	仏教文化実習	◎			○		△		◎
	3・4	日本文化研修	◎			○			△	◎
	2・3	身体文化実習Ⅰ			△	○			◎	
	2・3	身体文化実習Ⅱ			△	○			◎	
	2・3	プレゼンテーション実習			△	△			◎	○
	2	グラマー・使える英文法Ⅰ			○		△		◎	○
	2	グラマー・使える英文法Ⅱ			○		△		◎	○

## 人間総合学群 人間文化学類 英語コミュニケーション専攻 専門教育科目 カリキュラムマップ

ポリシー	全学 DP	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成		
	専攻 DP	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成		
学修指針・学修到達度	到達度 lv4	英語および英語圏の社会と文化に関する知識を体系化し、高度な文化的交流を実践することができる。	世界の言語（英語）・社会・文化に人間存在の普遍性を見出し、世界市民として行動することができる。	幅広い話題についての相手の意図を理解し、自分の考えを英語や日本語で正確に表現しながら議論することができる。	自らの社会的責任を自覚的に活動に全うすることができる。	専門領域の先行研究と関連分野の情報を収集し、知識を体系化して活用することができる。	研究領域の先行研究を批判的に分析し、独自の主張を論理的に展開することができる。	研究を日本語や英語を使って論理的で説得力のあるレポートやプレゼンテーションにまとめ、質疑応答ができる。	問題を自ら発見し、主体的・計画的な取り組みを通して、課題を導くことができる。	
	到達度 lv3	英語および英語圏の社会と文化に関する幅広い知識があり、一般的な文化的交流を実践することができる。	世界の言語（英語）・社会・文化に人間存在の普遍性を見出し、世界市民としての自覚を持つことができる。	一般的な話題について相手の意図を理解し、自分の考えを英語や日本語で主張することができる。	自らの社会的責任を自覚的に活動に取り組むことができる。	専門領域の先行研究と関連分野の情報を収集し、知識を整理して活用することができる。	研究領域の先行研究を批判的に分析し、反証をあげながら評価することができる。	研究を日本語や英語を使って論理的で説得力のあるレポートやプレゼンテーションにまとめ、発表することができる。	問題を自ら発見し、主体的・計画的な取り組みを通して、解決策を考えることができる。	
	到達度 lv2	英語および英語圏の社会と文化に関する基礎的な知識があり、文化的交流の意義を理解して、自発的に参加することができる。	世界の言語（英語）・社会・文化に人間存在の普遍性を見出し、世界市民としての規範を守ることができる。	自分の専門分野の話題について相手の意図を理解し、自分の考えを英語や日本語で述べながら議論することができる。	自らの社会的責任を合理的な活動において、役割を全うすることができる。	専門領域の先行研究を中心に、様々な情報を収集し、整理することができる。	研究領域の先行研究を分析し、論理的な矛盾点を見出すことができる。	研究や調査を統一的な手法で日本語や英語を使ってレポートやプレゼンテーションにまとめ、発表することができる。	所与の問題に主体的に取り組み、様々な解決策を検討し、提示することができる。	
	到達度 lv1	英語および英語圏の社会と文化に関する基礎的な知識があり、文化的交流の重要性を理解することができる。	世界の言語（英語）・社会・文化に人間存在の普遍性を見出し、世界市民としての規範を理解することができる。	自分に関わる話題について相手の意図を理解し、自分の考えを英語や日本語で述べながら意見交換することができる。	自らの社会的責任を合理的な活動において、役割を担うことができる。	専門領域の先行研究を中心に、様々な方法を活用して情報を収集することができる。	研究領域の先行研究を分析し、主観を冷静に評価することができる。	研究に関する情報を収集し、日本語や英語を使って統一的な手法でレポートやプレゼンテーションにまとめることができる。	所与の問題に取り組み、様々な解決策を検討することができる。	
学年	学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力	
基本科目	2	English Workshop I		◎				△	○	
	2	English Workshop II		◎				△	○	
	3	English Workshop III		◎				△	○	
	3	English Workshop IV		◎				△	○	
	2	Academic Reading I	◎			○		△		
	2	Academic Reading II	◎			○		△		
	2	Academic Reading III	◎			○			△	
	2	Academic Reading IV	◎			○			△	
	2	Academic Speaking I		◎			△	△	○	
	2	Academic Speaking II		◎			△	△	○	
	3	Academic Speaking III		◎			△	△	○	
	3	Academic Speaking IV		◎			△	△	○	
	2	ライティング・使える英作文 I			○		△		◎	○
	2	ライティング・使える英作文 II			○		△		◎	○
3	Academic Writing I			○		△		◎		
3	Academic Writing II			○		△		◎		

	学年	学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
主幹科目	2	英語コミュニケーション専攻研究 A	◎			○	◎	△		
	2	英語コミュニケーション専攻研究 B	◎			○	◎	△		
	2	英語コミュニケーション専攻研究 C	◎			○	◎	△		
	2	英語コミュニケーション専攻研究 D	◎			○	◎	△		
	2	英語コミュニケーション専攻研究 E	◎			○	◎	△		
	2	英語コミュニケーション専攻研究 F	◎			○	◎	△		
	2	英語コミュニケーション専攻研究 G	◎			○	◎	△		
	2	英語コミュニケーション専攻研究 H	◎			○	◎	△		
	2	イギリス文学 I	◎	△			○			
	2	イギリス文学 II	◎	△			○			
	2	アメリカ文学 I	◎	△			○			
	2	アメリカ文学 II	◎	△			○			
	2	英語学概論 I	◎				○			△
	2	英語学概論 II	◎				○			△
	2	英語教育学概論 I	◎				○			△
	2	英語教育学概論 II	◎				○			△
	2	アメリカの文化と歴史 I	◎				○	△		
	2	アメリカの文化と歴史 II	◎				○	△		
	2	異文化理解 I	◎	○			△			
	2	異文化理解 II	◎	○			△			
	1	時事英語 I	◎				△	○		
	1	時事英語 II	◎				△	○		
	2	英語音声学 I	◎					○		△
	2	英語音声学 II	◎					○		△
	1	映画の英語 I	△						◎	○
	1	映画の英語 II	△						◎	○
	2	ことばの世界 I		○	△	○	◎			
	2	ことばの世界 II		○	△	○	◎			
	2	英語圏文化 I	◎	○		△	○			
	2	英語圏文化 II	◎	○		△	○			
	2	国際法 I	◎				○		△	
	2	国際法 II	◎				○		△	
	2	キャリア・イングリッシュ I				○			△	◎
	2	キャリア・イングリッシュ II				○			△	◎
	3	キャリア・イングリッシュ III				○			△	◎
	3	キャリア・イングリッシュ IV				○			△	◎
	2	通訳・ガイド I				◎		○	○	△
	2	通訳・ガイド II				◎		○	○	△
	2	日本紹介の英語	○			◎			△	
	2	ボランティア英語				◎			△	○
2	Japan Studies I	◎			○		△			
2	Japan Studies II	◎			○		△			
2	海外留学準備	◎						△	○	
2	6か月留学	◎						△	○	

	学年	学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
専門ゼミ科目	3	英語コミュニケーションゼミⅠ	○				◎		○	△
	3	英語コミュニケーションゼミⅡ	○				◎		○	△
	4	英語コミュニケーションゼミⅢ	○				◎		○	△
	4	英語コミュニケーションゼミⅣ	○				◎		○	△
	4	卒業論文								
学類共通科目・実習科目	3・4	日本文化実習	◎			○		△		◎
	3・4	仏教文化実習	◎			○		△		◎
	3・4	日本文化研修	◎			○			△	◎
	2・3	身体文化実習Ⅰ			△	○			◎	
	2・3	身体文化実習Ⅱ			△	○			◎	
	2・3	プレゼンテーション実習			△	△			◎	○
	2	文法・使える英文法Ⅰ			○		△		◎	○
2	文法・使える英文法Ⅱ			○		△		◎	○	

人間総合学群 観光文化学類 専門教育科目 カリキュラムマップ

	ポリシー	全学 DP	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
		学類 DP	観光・文化に関する学際的な教養と、多様な文化や価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしいコミュニケーション力と、目標達成に向けて他者と良好な関係を築きながら活動できる社会性の養成		地域や社会の抱える課題に貢献できる専門性と、観光・文化に関する様々な問題に対する判断力の養成		多様な文化の発展に寄与できる創造性に富む技術力と、着想を計画的に実行できる実践力の養成	
学修指針・学修到達度	到達度	到達度 lv4	観光・文化に関する知識を他の分野の知識と関連付け、さまざまな状況で活用することができる。	文化的背景の異なる人たちの視点を理解し、相手を尊重することができる。	相手の立場に配慮した言葉や態度で、自信をもって意見を述べ、質疑応答ができる。	グループ全体に目を配り、消極的なメンバーの参加を促しながら、活動を円滑に進めることができる。	分析に基づき、地域や社会の課題解決に向けた現実的な提案を行うことができる。	観光・文化に関する問題について、データや資料を批判的に分析しながら、独自の考えを論理的に展開することができる。	自ら問いを立て、テーマを設定して、レポートを作成し、説得力のあるプレゼンテーションができる。	学外での学びや取得資格を職業・業界分析や自らの進路決定に活かすことができる。
		到達度 lv3	観光・文化に関する知識を他の分野の知識と関連付けて、特定の状況で活用することができる。	文化的背景の異なる人たちと積極的に交流し、相手を受け入れることができる。	相手の立場を理解し、自分の意見を述べ、質疑応答ができる。	グループの発言を促し、出された意見や論点を整理し、活動に貢献することができる。	地域や社会の課題解決のため、収集した情報を評価し、的確に分析することができる。	観光・文化に関する問題について、データや資料を分析し、反証を挙げながら、考えをまとめることができる。	提示されたテーマや問いに新たな視点を加えながら、レポートを作成し、プレゼンテーションを行うことができる。	さまざまな学外的な学びに積極的に参加するとともに、複数の資格取得に取り組むことができる。
		到達度 lv2	観光・文化に関する知識と他の分野の知識を関連付けることができる。	文化的背景の異なる人たちとの交流に参加し、異なる価値観に気づくことができる。	相手に質問し、相手からの質問に答えることができる。	グループにおける自分の役割を見出し、活動に参加することができる。	地域や社会の課題解決のために必要な情報を様々な方法で収集することができる。	観光・文化に関する問題について、データや資料の矛盾点を見出し指摘することができる。	提示されたテーマや問いについてのレポートを作成し、プレゼンテーションを行うことができる。	学外での実践的な学びに参加するとともに、資格取得に取り組むことができる。
		到達度 lv1	観光・文化に関する知識を自らの経験と関連付けることができる。	文化的背景の異なる人たちに対して関心を持つことができる。	相手の意見を聞き、自分の考えを伝えることができる。	自らの社会的な使命グループでの活動に参加することができる。	地域や社会の課題に関心を持ち、情報を収集することができる。	観光・文化に関する問題について、データや資料に基づいて考えることができる。	提示されたテーマや問いについて、何を調査すべきか理解できる。	学外での実践的な学びや資格取得に関心を持つことができる。
		到達度								
学年	学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力	
基本科目	2	観光学	○				◎		△	
	2	観光政策論					◎	○	△	
	2	観光マーケティング論					◎	○	△	
	2	観光のPRとメディア	○				◎	△		
	2	ホスピタリティ概論	○				◎		△	
	2	ホスピタリティ・マネジメント					◎	△	○	
	2	観光社会学	○			△	◎			
	2	観光人類学	○			△	◎			
観光実務関連科目	2・3	旅行業実務論					◎		△	○
	2・3	宿泊業・飲食業実務論					◎		△	○
	2・3	航空・空港業実務論					◎		△	○
	2・3	広告・メディア業実務論					◎		△	○
	2・3	エンターテインメント業実務論					◎		△	○
	2・3	ライフイベントデザイン実務論					◎		△	○
	2・3	短期インターンシップ実習 A				△	○			◎
	2・3	短期インターンシップ実習 B				△	○			◎
	2・3	中期インターンシップ実習				△	○			◎
	2・3	海外インターンシップ実習				△	○			◎
2・3	長期インターンシップ実習				△	○			◎	

	学年	学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
	2:3	国内旅行研修				○		△		◎
	2:3	海外旅行研修				○		△		◎
	2	海外留学（観光実務実習）準備		△	◎					○
	2	海外留学（観光実務実習）		○	△					◎
観光資源・文化関連科目	2	世界遺産研究	○				△		◎	
	2:3	地域観光資源研究	○			△	◎			
	2	国内観光資源研究 A（東京・首都圏）	○			△	◎			
	2:3	国内観光資源研究 B（東日本）	○			△	◎			
	2:3	国内観光資源研究 C（西日本）	○			△	◎			
	3	海外観光資源研究 A（ヨーロッパ1）	○			△	◎			
	3	海外観光資源研究 B（ヨーロッパ2）	○			△	◎			
	3	海外観光資源研究 C（アジア1）	○			△	◎			
	3	海外観光資源研究 D（アジア2）	○			△	◎			
	2:3	海外観光資源研究 E（アジア3）	○			△	◎			
	2:3	ミュージアム研究	○			△	◎			
	2:3	西洋美術の旅	○			△	◎			
	2:3	異文化交流 I	◎	○		△				
	2:3	異文化交流 II	◎	○		△				
	3	文化交流論（日本とアメリカ）	◎	○		△				
	3	世界の文化と国際接遇	○	◎			△			
	2:3	イスラーム文化論	○	◎					△	
2:3	キリスト教文化論	○	◎					△		
国家試験対策科目	1	旅行法規 I					◎	△		○
	2	旅行法規 II					◎	△		○
	1	国内旅行実務論 I					◎	△		○
	2	国内旅行実務論 II					◎	△		○
	2	海外旅行実務論 I					◎	△		○
	3	海外旅行実務論 II					◎	△		○
	2:3	旅行業務取扱管理者試験特講					◎	△		○
観光の外国語科目	2	観光の英語		○	◎					△
	2	観光ガイドブック講読	○	△	◎					
	2	観光のフランス語		△	◎					○
	2	観光のドイツ語		△	◎					○
	2	観光のスペイン語		△	◎					○
	2	観光の中国語		△	◎					○
	2	観光の韓国語	△		◎					○
	2:3	観光サービスの英語 I		◎	○					△
	2:3	観光サービスの英語 II		◎	○					△
専門ゼミ科目	3	観光文化ゼミ I			○			◎	△	
	3	観光文化ゼミ II			○			◎	△	
	4	観光文化ゼミ III			○			◎	△	
	4	観光文化ゼミ IV			○			◎	△	
	4	卒業研究					△	◎	○	

人間総合学群 心理学類 専門教育科目 カリキュラムマップ

	ディプロマポリシー	全学 DP		自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
		学類 DP		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人との織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針・学修到達度	到達度 lv4	自己や他者、他者との関係性、社会との関係性から、社会的問題や精神病理について、考えられる。	自己、他者、社会について心理学を基礎に深く考察し、積極的に自己実践できる。	自己実現のためのコミュニケーションと社会性を獲得し、自己達成感をもつことができる。	現代社会の仕組みを把握し、自立した社会人にふさわしい責任感を持って共同作業に従事することができる。	先行研究や情報を批判的に吟味し、そこから独自の問題提起とその解決法を示すことができる。	先行研究について論理的に批判し、その批判から新しい独自の考えを育てていくことができる。	専攻する研究対象について、適切な分析方法を用いて得力のある結論を発表することができる。	心理学的な知見を用いて、現代における文化的・社会的な現象について考察することができる。		
		自己や他者、他者との関係性、さらには社会との関係性について問題意識を深められる。	自己、他者、社会について心理学を基礎に考察し、積極的な自己実現を目指して努力できる。	対人場面や集団内での役割や行動の理解ができ、かつ自己を保ちながら前向きな集団行動ができる。	現代社会の仕組みを説明することができ、他者とスムーズに共同作業をすることができる。	与えられた専門的テーマについて、情報を適切に分析した上で、根拠を示しつつ考察することができる。	先行研究について、その反証となる実例を挙げつつ、論理的に批判することができる。	専攻する研究対象について、適切な分析方法を用いて果をまとめることができる。	心理学の理論や知見と、日常的な出来事との関連性を意識することができる。		
		自己や他者、そして他者との関係性についての心理学的問題を整理できる。	自己、他者、社会について、心理学を基礎に考察し、自己の生き方を考える姿勢を身につけている。	自己理解ができ他者への肯定的な関心で、交流や会話での脈を汲み共感できる。	現代社会の仕組みを一通り説明することができ、共同作業に加わることができる。	日常の体験を心理学の専門用語を用いて説明することができる。	先行研究について、論理的に矛盾点を指摘し批判することができる。	専攻する研究対象について、一つの分析方法を用いて果をまとめることができる。	心理学の理論や知見を導いているロジックを正確に理解することができる。		
		自己や他者、そして他者との関係性に関する心理について、関心をもつことができる。	自己、他者、社会について、心理学を基礎に考察することに、興味をもつことができる。	人や他者への関心をもち、人と関わる基本的な心理をもち、あいさつ、要求、説明などができる。	現代社会の仕組みに関する程度説明することができる。	心理学的事象について関心を持ち、自分なりの考えを述べることができる。	先行研究について批判的に対処することができる。	専攻する研究対象について、一つの分析方法を持つことができる。	心理学という学問領域の基礎的な知見に興味をもつことができる。		
		学年	学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
基本科目	2	心理学の基礎		△	◎	○					
	2	心理学実験Ⅰ			△		◎		○		
	2	心理学実験Ⅱ			△		◎		○		
	3	心理学研究法Ⅰ					◎	△	○		
	3	心理学研究法Ⅱ					◎	△	○		
	2	臨床心理学概論			△		◎	○			
	2	心理学統計法			○		○		◎		
	2	心理データ解析法			○		○		◎		
3	心理学英語講読			○		△					
基礎心理学	2・3	知覚・認知心理学			○		◎	○			
	2・3	学習・言語心理学			○		◎	○			
	2・3	感情・人格心理学			○		◎	○			
	2・3	神経・生理心理学			○		◎	○			
	2・3	社会・集団心理学（社会・集団・家族心理学Ⅰ）			○	△	◎	○			
	2・3	家族心理学（社会・集団・家族心理学Ⅱ）			○	△	◎	○			
	2・3	発達心理学Ⅰ			△		◎	○			



	学年	学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
	2・3	発達心理学Ⅱ (高齢者心理学)				○	◎	○		
	2・3	障害者・障害児 心理学			◎	○	○			
	2・3	比較行動学			○		◎	○		
	2・3	発達臨床			○		◎	○		
	2・3	対人関係論			○	△	◎	○		
実践心理学A	3・4	心理的アセスメントⅠ					◎	○	△	
	3・4	心理的アセスメントⅡ					◎	○	△	
	3・4	心理学的支援法Ⅰ			◎	○			△	
	3・4	心理学的支援法Ⅱ			◎	○			△	
	3・4	心理療法論Ⅰ			△		◎	○		
	3・4	心理療法論Ⅱ			△		◎	○		
	3	心理学研究実践実習			◎	○				○
実践心理学B	2・3・4	健康・医療心理学				○	◎	○		
	2・3・4	福祉心理学				○	◎	○		
	2・3・4	教育・学校心理学				○	◎	○		
	2・3・4	司法・犯罪心理学				○	◎	○		
	2・3・4	産業・組織心理学				○	◎	○		
	2・3・4	消費者心理学				○	◎	○		
	2・3・4	コミュニティ心理学				○	◎	○		
	2・3・4	スポーツ心理学			○		◎	○		
心理学関連科目	2・3・4	人体の構造と 機能及び疾病					◎	○	△	
	2・3・4	精神疾患とその治療					◎	○	△	
	2・3・4	教育相談					◎	○		△
	2・3・4	文芸と心理	◎		○			○		
	2・3・4	言葉と心理	◎		○			○		
専門ゼミ科目	3	心理学ゼミⅠ					◎	○	○	△
	3	心理学ゼミⅡ					◎	○	○	△
	4	心理学ゼミⅢ					◎	○	○	△
	4	心理学ゼミⅣ					◎	○	○	△
	4	卒業論文					◎	○	○	△
公認心理師 関連科目	3	公認心理師の職責				△	◎	○		
	3	関係行政論				△	◎	○		
	4	心理演習				△		○	◎	○
	4	心理実習				△		○	○	◎

人間総合学群 住空間デザイン学類 専門教育科目 カリキュラムマップ

ポリシー	全学 DP	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
	学類 DP	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針・学修到達度	到達度 lv4	くらしの環境に関する多角的な知識を有し、より良いくらしの環境の創造を目指すことができる。	くらしの環境のあり方を踏まえて広く人間存在について考察し、より良い住空間の実現することができる。	相手の立場を理解し、論理的で説得力のあるが口頭発表ができ、明晰な文章を書くことができる。	住まいとくらしの問題を把握し、自立した社会人にふさわしい責任感を持って共同作業に従事することができる。	住まいとくらしに関するテーマについて論理的に批判し、その批判から新しい独自の考えを育てていくことができる。	住まいとくらしに関する事例について論理的に批判し、その批判から新しい独自の考えを育てていくことができる。	住空間デザインに関する多様な技術力を有し、幅広い視点から問題に向き合い、実践することができる。	自らすすんで問題を見つけ、解決計画を立て、実践することができる。
	到達度 lv3	くらしの環境に関する基礎的な知識を有し、自らの問題として考えることができる。	くらしの環境のあり方について問題点を指摘し、より良い住空間を実現するために努力することができる。	相手の立場を理解し、形式に沿った口頭発表ができ、わかりやすい文章を書くことができる。	住まいとくらしの問題について説明することができ、他者とスムーズに共同作業をすることができる。	住まいとくらしに関するテーマについて、多角的に情報を整理した上で根拠を示しつつ考察することができる。	住まいとくらしに関する事例について、その反証となる実例を挙げつつ、論理的に批判することができる。	住空間デザインに関する多様な技術力を有し、課題に応じて実践することができる。	自らすすんで問題を見つけたに向けた計画を立てることができる。
	到達度 lv2	くらしの環境に関する基礎的な知識を有し、問題点を指摘することができる。	くらしの環境のあり方について自分なりのポリシーを持ち、自己を表現することができる。	相手の意図を理解し、自らの考えをわかりやすく説明することができる。	住まいとくらしの問題について一通り説明することができ、共同作業に加わることができる。	住まいとくらしに関するテーマについて、多角的に情報を整理し、処理することができる。	住まいとくらしに関する事例について、論理的に問題点を見出し考察することができる。	住空間デザインに関する基礎的な技術力を有し、自分なりに応用しながら実践することができる。	与えられた問題に対して、解決に向けた計画を立て、実践することができる。
	到達度 lv1	くらしの環境について、自分の知っていることを述べることができる。	くらしの環境のあり方に沿ったルールやマナーを尊重することができる。	相手の意図を理解し、自分の考えを述べるることができる。	住まいとくらしの問題について説明することができ、他者と関わることができる。	住まいとくらしに関するテーマについて、情報を集め、処理することができる。	住まいとくらしに関する事例について問題点を見出すことができる。	住空間デザインに関する基礎的な技術力を有し、実践することができる。	与えられた問題に対して、解決に向けた計画を立てることができる。
学年	学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
基本科目	2	住空間デザインの基礎 I		○	○	◎	○		
	2	住空間デザインの基礎 II		○	○	◎	○		
	1	平面と立体表現の基礎			○		◎	△	
	1	製図の基礎					◎	△	
	1	図学と透視画の基礎					◎	△	
	1	建築・インテリアデザイン入門	○		○		◎	△	
	1	プロダクトデザイン入門	○		○		◎	△	
	2	設計製図 I			○		◎	△	○
	2	設計製図 II			○		◎	△	○
	2・3・4	グラフィックデザイン	○		○		◎		
	2・3・4	福祉住環境デザイン	○	○			◎		
	2・3・4	環境デザイン	○	○			◎		
	2・3・4	色彩デザイン	○				◎		
	1	CAD I					◎		△
	2	CAD II					◎		○
2	CAD III			○		◎		○	

	学年	学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
	3	プレゼンテーション技法			○		◎		○	
	3・4	インターンシップ入門		○	○	◎		○		
	3・4	インターンシップ実習		○	○	◎		○		
	2・3・4	フィールドワーク	○		○	◎				
インテリアデザイン関連科目	3	インテリアデザインⅠ			△		○		◎	○
	3	インテリアデザインⅡ			△		○		◎	○
	2	インテリアデザイン論	○				◎	○		
	2	インテリアデザイン計画A	○				◎	○		
	3	インテリアデザイン計画B	○				◎	○		
	3	インテリアデザイン計画C	○				◎	○		
	2	家具デザインⅠ					◎	○	○	
	2	家具デザインⅡ					◎	○	○	
	3	家具デザインⅢ			○		○	○	◎	
	2・3・4	家具デザイン論	○				◎			
	2	陶芸デザイン入門					◎	○	○	
	2	陶芸デザインA					◎	○	○	
	3	陶芸デザインB					○	○	◎	
	2	テキスタイルデザイン入門					◎	○	○	
	2	テキスタイルデザインA					◎	○	○	
	3	テキスタイルデザインB					○	○	◎	
	3	インテリア・プレゼンテーション			○		○		◎	△
	2・3・4	加工・材料学	○				○	◎		
	2・3・4	芸術論	○					◎	○	
	2・3・4	工芸デザイン論	○					◎	○	
	2・3・4	インテリアプロダクト論	◎	○				○		
	2・3・4	デザインと心理		○	○			◎		
	2・3・4	グラフィック・コミュニケーション学			○	○		◎		
2・3・4	インテリアの知識と技術Ⅰ	○					◎	○		
3・4	インテリアの知識と技術Ⅱ	○					◎	○		
建築デザイン関連科目	3	建築デザインⅠ			△		○		◎	○
	3	建築デザインⅡ			△		○		◎	○
	2	建築デザイン論	○				◎	○		
	2	建築計画A	○				◎	○		
	3	建築計画B	○				◎	○		
	3	建築計画C	○				◎	○		
	4	建築計画D	○				◎	○		
	2	構造力学Ⅰ	○				◎			
	2	構造力学Ⅱ	○				◎			
	2	建築構造Ⅰ					◎	○		
	2	建築構造Ⅱ					◎	○		
	2・3・4	日本建築史	○				◎	○		
	2・3・4	西洋建築史	○				◎	○		
	2・3・4	ランドスケープ論					◎	○		
	3	建築環境設備					◎	○		

	学年	学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
	3	環境工学					◎	○		
	3	建築材料					◎	○		
	3	建築生産					◎	○		
	3	都市デザイン論	○				◎	○		
	3・4	建築法規					◎	○		
専門ゼミ科目	3	インテリアデザインスタジオⅠ				○	○		◎	○
	3	インテリアデザインスタジオⅡ				○	○		◎	○
	4	インテリアデザインスタジオⅢ				○	○		○	◎
	4	インテリアデザインスタジオⅣ				○	○		○	◎
	3	建築デザインスタジオⅠ				○	○		◎	○
	3	建築デザインスタジオⅡ				○	○		◎	○
	4	建築デザインスタジオⅢ				○	○		○	◎
	4	建築デザインスタジオⅣ				○	○		○	◎
	4	卒業研究	○	○	◎	○	○	○	○	◎

人間総合学群 人間文化学類 日本文化専攻・英語コミュニケーション専攻 教職に関する科目

	ディプロマポリシー	全学DP		自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成	自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成	社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成	文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成			
学修指針・学修到達度	到達度 lv4	【関心・分析・探求・自立】 広く社会・自然・人間について多角的な知見を有し、論点を整理しながら、解決へ向けて確実に探求し続けることができる。	【遵守・忠告・道徳・倫理】 社会的ルールを遵守しつつ、仏教をはじめとして、人間存在に関する深い洞察を学び、人間的な向上を目指すことができる。	【会話・弁論・論述・共感】 自らの考えを論理的に口頭で説明したり、高度な内容を、読者の反応を予想しつつ的確で効果的な表現を用いつつ文章化することができる。	【社会・参加・公共・責任】 現代社会の仕組みを深く理解し、自立した社会人としての責任感をもつ。ボランティア活動など、社会をよりよくするための活動に参加することができる。	【基礎・応用・実践・自学】 専門分野に関する深い知識を有し、諸問題に適切に応用しつつ、新たな知見を求め、自らすすんで学習活動を維持することができる。	【批判・論理・証拠・発展】 授業や書物等から得たい知識について、論理的に批判し、かたがたに新しい考えをいくとすることができる。	【基礎・応用・実践・自学】 各専門分野に必要とされる高度な技術力を修得し、それに見合う各種資格等を自らに磨きつけることができる。	【発見・模索・計画・解決】 自らすすんで問題に向かい合い、自分なりの方法を駆使して、計画的に解決に導くことができる。	
	到達度 lv3	【関心・分析・探求】 広く社会・自然・人間について、多くの情報を適切に取捨選択しながら整理し、問題意識を深めていくことができる。	【遵守・忠告・道徳】 多くの社会的価値観に触れ、柔軟なものを身につけたうえで、社会の基となる人間性に気付くことができる。	【会話・弁論・論述】 自らの考えを論理的に口頭で説明したり、読者の反応を予想しつつ、的確な表現を選びながら文章にまとめたりすることができる。	【社会・参加・公共】 現代社会の仕組みを理解し、よりよい社会を目指して市民活動に参加し、社会加わりすることができる。	【基礎・応用・実践】 専門分野に関する深い知識を有し、諸問題に適切に応用しつつ、自分なりの発見を目指すことができる。	【批判・論理・証拠】 授業や書物等から得たい知識について、その反証となる実例を挙げつつ、論理的に批判することができる。	【基礎・応用・実践】 専門分野の技能に習熟したうえで、各種資格を取得したり、各種検定等に合格したりすることができる。	【発見・模索・計画】 自らすすんで問題に向かい合い、解決法を考え、実行すべき手順を把握することができる。	
	到達度 lv2	【関心・分析】 身の回りの事象について、複数の資料に目を通し、問題点を整理することができる。	【遵守・忠告】 自身の健康に気を配り、社会のマナーやルールを守り、自分の周囲の人々の行動にも配慮することができる。	【会話・弁論】 自らの考えをわかりやすく口頭で説明したり、簡潔な表現で文章にまとめたりすることができる。	【社会・参加】 現代社会の仕組みを理解し、自分なりに社会活動に参加しようとするすることができる。	【基礎・応用】 専門分野に関する知識を備え、各種知識を自らが当面に適用することができる。	【批判・論理】 授業や書物等から得たい知識について、論理的に矛盾点を見出し批判することができる。	【基礎・応用】 専門分野で必要とされる基本技術を応用し、物事に対応することができる。	【発見・模索】 自らすすんで問題に向かい合い、解決を求めて模索することができる。	
	到達度 lv1	【関心】 身の回りのさまざまな事象について、関心を持つことができる。	【遵守】 自身の健康に気を配り、社会のマナーや集団でのルールを守ることができる。	【会話】 自らの考えを口頭で説明したり、メモにまとめたりすることができる。	【社会】 現代社会の仕組みに関心をもち、周囲の人びとと協調することができる。	【基礎】 専門分野に関する概念や専門用語が理解できる。	【批判】 授業や書物等から得たい知識について批判的に対することができる。	【基礎】 専門分野で必要とされる基本技術を身につけることができる。	【発見】 眼前にある課題に対して、その問題点を把握することができる。	
	学年	学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
教科の指導法に関する科目 教科及び	3	国語科教育法Ⅰ					○	○	○	○
	3	国語科教育法Ⅱ					○	○	○	○
	3	国語科教育法Ⅲ					○	○	○	○
	3	国語科教育法Ⅳ					○	○	○	○
	3	英語科教育法Ⅰ					○	○	○	○
	3	英語科教育法Ⅱ					○	○	○	○
	3	英語科教育法Ⅲ					○	○	○	○
	3	英語科教育法Ⅳ					○	○	○	○
教育の基礎的理解等に関する科目	1・2	教育原理	○	△			○	○		
	1	教職入門	○	△	◎		○			
	2	教育制度論	○	△		○	○			
	2・3	発達心理学	○	△			○	○		
	2	特別支援教育概論		○			○	○	○	

	学年	学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
教育の基礎的理解等に関する科目	2	教育課程論	○	△		○	◎			
	2・3	道德教育の指導法 (中一種免のみ)		○			◎	○	○	
	2	総合的な学習の時間の指導法		○			◎	○	○	
	2・3	特別活動の指導法		○			◎		○	△
	2・3	教育方法・技術					◎	○	○	△
	1	ICT活用の理論と方法					◎	△	◎	○
	2・3	生徒指導論 (進路指導を含む)			○		◎	○	○	
	2・3	教育相談	○		◎		◎	○		△
	3	教育実習指導			○		○		◎	△
	4	教育実習Ⅰ(中学校)			○		○		○	◎
	4	教育実習Ⅱ (高等学校)			○		○		○	◎
大学が独自に 設定する科目	4	教職実践演習 (中・高)		△	○				◎	○
	3	介護等の体験		△	○				○	◎
学校図書館司書 教諭課程科目	2・3	視聴覚教育メディア論					◎	○	○	
	2・3	道德教育の指導法 (高一種免のみ)		○			◎	○	○	
	3・4	学校経営と学校図書館					◎	○	○	
	3・4	学校図書館メディア の構成					◎	○	○	
	3・4	読書と豊かな人間性		△			◎	○	○	
	3・4	学習指導と学校図書館					◎	○	○	
	3・4	情報メディアの活用					◎	○	○	

人間総合学群 人間文化学類 博物館学芸員養成課程科目

ディプロマポリシー	全学 DP	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
学修指針・学修到達度	到達度 lv4	【関心・分析・探求・自立】 広く社会・自然・人間について多角的な知見を有し、論点を整理しながら、解決へ向けて確実に探求し続けることができる。	【遵守・忠告・道徳・倫理】 社会的ルールを遵守しつつ、仏教をはじめとして、人間存在に関する深い洞察を学び、人格的向上を目指すことができる。	【会話・弁論・論述・共感】 自らの考えを論理的に口頭で説明したり、高度な内容を、読者の反応を予想しつつ的確な表現を用いつつ文章化したることができる。	【社会・参加・公共・責任】 現代社会の深く理解し、自立した社会人としての責任感をもつ。ボランティア活動など、社会をよりよくするための活動に参加することができる。	【基礎・応用・実践・自学】 専門分野に関する深い知識を有し、諸問題に適切に応用しつつ、新たな知見を求め自らすすんで学習活動を維持することができる。	【批判・論理・証拠・発展】 授業や書物等から得たい知識について、実証的に批判し、かたがた独自の考えをいくことができる。	【基礎・応用・実践・自学】 各専門分野に高度な技術力を修得し、それに見合う各種資格等を自ら磨きつづけることができる。	【発見・模索・計画・解決】 自らすすんで眼前の問題と向かい合い、自分なりの方法を駆使して、計画的に解決に導くことができる。
	到達度 lv3	【関心・分析・探求】 広く社会・自然・人間について、多くの情報を適切に選択しながら整理し、問題意識を深めていくことができる。	【遵守・忠告・道徳】 多くの社会的価値観に触れ、柔軟なものを見方を身につけたうえで、社会の基となる人間性に気付くことができる。	【会話・弁論・論述】 自らの考えを論理的に口頭で説明したり、読者の反応を予想しつつ、的確な表現を選びながら文章にまとめることができる。	【社会・参加・公共】 現代社会の仕組みを理解したうえで、よりよい社会を指して一市民として参加し、社会活動に参画することができる。	【基礎・応用・実践】 専門分野に関する深い知識を有し、諸問題に適切に応用しつつ、自分の発見を目指すことができる。	【批判・論理・証拠】 授業や書物等から得たい知識について、その反証例を挙げ、論理的に批判することができる。	【基礎・応用・実践】 専門分野の技能に習熟したうえで、各種資格等取得したり、各種検定したりすることができる。	【発見・模索・計画】 自らすすんで眼前の問題と向かい合い、解決に向けて実行すべき手順を把握することができる。
	到達度 lv2	【関心・分析】 身の回りの事象について、複数の資料に目を通し、問題を整理することができる。	【遵守・忠告】 自身の健康に気を配り、社会のマナーやルールを守り、自分の周囲の人々の行動にも配慮することができる。	【会話・弁論】 自らの考えをわかりやすく口頭で説明したり、簡潔な表現で文章にまとめることができる。	【社会・参加】 政治や経済など、現代社会の仕組みを理解し、自分なりに問題点を見出すことができる。	【基礎・応用】 専門分野に関する知識を備え、各種知識を自らが当面に直面する問題に活用することができる。	【批判・論理】 授業や書物等から得たい知識について、論理的に矛盾点を見出し批判することができる。	【基礎・応用】 専門分野で必要とされる基本技術を応用し、物事に対応することができる。	【発見・模索】 自らすすんで眼前の問題と向かい合い、解決模索することができる。
	到達度 lv1	【関心】 身の回りのさまざまな事象について、関心を持つことができる。	【遵守】 自身の健康に気を配り、社会のマナーや集団でのルールを守ることができる。	【会話】 自らの考えを口頭で説明したり、メモにまとめることができる。	【社会】 現代社会の仕組みに關する程度説明することができる。	【基礎】 専門分野に関する概念や専門用語が理解できる。	【批判】 授業や書物等から得たい知識について批判的に対することができる。	【基礎】 専門分野で必要とされる基本技術を身につけることができる。	【発見】 眼前にある課題に対して、その問題点を把握することができる。
学年	学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
省令必修科目	1	博物館概論	△			◎	○	◎	
	2	博物館資料論				◎	○	◎	△
	2	博物館展示論				◎	○	◎	△
	3	博物館資料保存論				◎		◎	△
	3	博物館経営論				◎		◎	△
	2・3	博物館教育論				◎	○	◎	△
	2・3	博物館情報・メディア論				◎	○	◎	△
	2	博物館実習 A (見学実習)			△			◎	◎
	3	博物館実習 B (実務実習)			△			◎	◎
4	博物館実習 C (館園実習)			△			◎	◎	







学 則



## 学 則

## 駒沢女子大学 学則

## 第 1 章 総 則

## (目 的)

第1条 本学は、教育基本法（平成18年法律第120号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づき、道元禅師の禅を建学の精神とする伝統をふまえ、国際化・情報化の進展、女性の社会参加の拡大など、急速な社会構造の変化にのぞみ、十分に自己を実現し、新しい文化の創造的担い手となる人間性豊かな現代女性を養成することを目的とする。

第1条の2 本学は、前条の目的を達成するために、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 前項の点検及び評価、実施体制、実施方法等に関する規程は、別に定める。

## (教育目標)

第1条の3 第1条に規定する目的を達成するための教育目標は、次の各号に定めるものとする。

- (1) 自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成
- (2) 自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成
- (3) 社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成
- (4) 文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成

2 前項を踏まえた学群・学類及び学部・学科の教育目標は別に定める。

3 本条に規定する教育目標の達成方法及び評価方法は別に定める。

## (位 置)

第2条 本学は、東京都稲城市坂浜238番地に置く。

## (名 称)

第3条 本学は、駒沢女子大学と称する。

## 第 2 章 組 織

## (学群学類・学部学科の構成及び目的)

第4条 本学に、人間総合学群、人間健康学部及び看護学部を置く。

2 人間総合学群には、人間文化学類、観光文化学類、心理学類、住空間デザイン学類を置き、人間健康学部には、健康栄養学科を置き、看護学部には、看護学科を置く。

3 前項の学群学類、及び学部学科の教育上の目的を以下のように定める。

- (1) 人間総合学群は、人間諸科学の知と手法を基礎として、幅の広い教養及び実践的な技能を教授し、自分の力で考え判断できる能力を具えた、人間性豊かな女性を養成することを目的とする。
- (2) 人間文化学類は、文化や社会に対する理解と、実践的なコミュニケーション能力の双方を身に付けることで、グローバルな時代の変化に対応でき、現代社会に参加し貢献していく資質を有する人材の育成を目的とする。
- (3) 観光文化学類は、国際人としての教養、観光の専門家となるための知識と技能を習得し、国際的な交流及び協力に貢献できる人材の育成を目的とする。
- (4) 削除
- (4)の2 心理学類は、心理学の専門的知識及び技能を学修し、現代社会の多様化する心の問題に主体的に取り組み、社会に貢献できる人材の育成を目的とする。
- (5) 住空間デザイン学類は、生活空間の演出を学修することにより、人が暮らしやすい社会の実現に貢献できる人材の育成を目的とする。
- (6) 削除
- (7) 人間健康学部は、幅広い視点から専門的知識及び技能を教授することにより、質の高い健康生活の実現と、生涯にわたる健康な生活への援助ができる人材を養成することを目的とする。
- (8) 健康栄養学科は、豊かな人間性を備えた栄養の専門家を育成することを目的とする。
- (9) 削除
- (10) 看護学部看護学科は、人間性豊かな質の高い看護実践能力を備えた看護実践者の育成を目的とする。

(定員)

第5条 前条の学群学類、学部学科の定員は次のとおりとする。

学群・学部	学類・学科	入学定員	編入学定員	収容定員
人間総合学群	人間文化学類	170名	20名	720名
	観光文化学類	60名	10名	260名
	心理学類	80名	—	320名
	住空間デザイン学類	60名	—	240名
	(計)	(370名)	—	(1,540名)
人間健康学部	健康栄養学科	80名	—	320名
	(計)	(80名)	—	(320名)
看護学部	看護学科	80名	—	320名
	(計)	(80名)	—	(320名)
総計		530名	30名	2,180名

人間文化学類に専攻を置く。専攻の人数は次のとおりとする。

学類	専攻	人数	編入学人数	収容人数
人間文化学類	日本文化専攻	60名	5名	250名
	人間関係専攻	60名	5名	250名
	英語コミュニケーション専攻	50名	10名	220名
総計		170名	20名	720名

第5条の2 本学に、大学院を置く。  
2 大学院に関する規程は、別に定める。

(図書館)

第6条 本学に、図書館を置く。  
2 図書館に関する規程は、別に定める。

(駒沢女子大学日本文化研究所)

第6条の2 本学に、駒沢女子大学日本文化研究所（以下「文化研究所」という。）を置く。  
2 文化研究所に関する規程は、別に定める。

(駒沢女子大学博物館学実習館)

第6条の3 本学に、駒沢女子大学博物館学実習館（以下「実習館」という。）を置く。  
2 実習館に関する規程は、別に定める。

(学修支援センター)

第6条の4 本学に、学修支援センター（以下「支援センター」という。）を置く。  
2 支援センターに関する規程は、別に定める。

(駒沢女子大学健康栄養相談室)

第6条の5 本学に、駒沢女子大学健康栄養相談室（以下「健康栄養相談室」という。）を置く。  
2 健康栄養相談室に関する規程は、別に定める。

(教育研究推進センター)

第6条の6 本学に、教育研究推進センター（以下、「推進センター」という。）を置く。  
2 推進センターに関する規程は、別に定める。

(部の設置)

第7条 本学に学務部及び学生部を置く。

### 第3章 職員組織

(学長・副学長)

第8条 本学に学長を置く。  
2 学長は、本学の全般に関する事項をつかさどり、本学を代表する。  
3 学長は必要に応じ、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる副学長を置くことができる。  
4 学長・副学長に関する事項は、別に定める。

(職員)

第8条の2 本学に、専任の教授、准教授、講師、助教、助手、その他必要な職員を置く。  
2 本学に、前項のほか、必要に応じ非常勤の教員及び臨時の職員を置く。

## (役職)

- 第8条の3 図書館に図書館長を置く。  
 2 文化研究所に文化研究所長を置く。  
 3 学務部に学務部長、学生部に学生部長を置く。  
 4 学群に学群長、各学部で学部長を置く。  
 5 前2項に関する事項は、別に定める。

## (外国人教員)

- 第9条 (削除)

## (客員教授)

- 第10条 本学に、客員教授を置くことができる。  
 2 客員教授に関する事項は、別に定める。

## (名誉教授)

- 第11条 本学は、教員であった者に対し、名誉教授の称号を授与することができる。  
 2 名誉教授に関する事項は、別に定める。

## (教授会)

- 第12条 本学人間総合学群、人間健康学部及び看護学部に、教授会を置く。  
 2 教授会は、学長、学群長、学部長、学務部長、学生部長、教授、准教授、講師、及び助教をもって組織する。  
 3 教授会の運営等に関する事項は、別に定める。

## (教授会取り扱い事項)

- 第13条 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当り意見を述べることができる。  
 (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了  
 (2) 学位の授与  
 (3) 前2号に掲げる事項のほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことを必要として学長が定める事項  
 2 教授会は、前項に規定する事項のほか、学長及び学群長、学部長その他教授会が置かれる組織の長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関わる事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

## (教学協議会)

- 第13条の2 (削除)

**第 4 章 学年、学期及び休業日**

## (学 年)

- 第14条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。  
 2 本学における1年間の授業期間は、37週を原則とする。

## (学 期)

- 第15条 学年を次の二学期に分ける。  
 第一学期は、4月1日から9月19日まで  
 第二学期は、9月20日から翌年3月31日まで

## (休業日)

- 第16条 休業日は次の各号のとおりとする。  
 (1) 日曜日  
 (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する日  
 (3) 春季休業は、3月11日から3月31日まで  
 (4) 夏季休業は、8月11日から9月19日まで  
 (5) 冬季休業は、12月27日から翌年1月4日まで  
 2 必要がある場合、学長は、前項の休業日を変更し、臨時の休業日又は臨時の授業日を定めることができる。

**第 5 章 修 業 年 限**

## (修業年限)

- 第17条 本学の修業年数は、4年とする。

## (在学年限)

- 第18条 学生は、8年を超えて在学することができない。  
 2 第21条第1項の規定により入学した学生は、同条第2項により定められる在学すべき年数の2倍に相当する年数を超えて在学することはできない。

## 第 6 章 入 学

(入学の時期)

第19条 本学の入学の時期は、学年の始めとする。

(入学資格)

第20条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する女子とする。

- (1) 高等学校又は中等教育学校の全課程を修了した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育課程を修了した者
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(4)の2 専修学校の高等課程（修業年限が三年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
- (7) 相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力有りと、本学において認められた者

(編入学)

第21条 次の各号の一に該当する女子で、本学への入学を志願する者があるとき、3年次編入学に該当する者は編入学定員の枠内で、選考のうえ3年次に、それ以外の者は欠員のある場合に限り、選考のうえ相当年次に、教授会の議を経て、学長は入学を許可することができる。

- (1) 大学を卒業した者又は退学した者
- (2) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者
- (3) 前2号と同等以上の資格がある者

2 前項の規定により入学を許可された者が既に履修した授業科目、単位数の取扱い及び在籍すべき年数については、教授会の議を経て、学長が決定する。ただし、3年次編入学の場合、在籍すべき年数は2年とする。

(転学群・転学類・転学部・転学科)

第21条の2 本学に在籍する1年次および2年次の者で、他学群・他学類・他学部・他学科への移籍を希望する者があるとき、該当学群・学類・学部・学科に欠員のある場合に限り、選考のうえ相当年次での移籍を教授会の議を経て、学長は許可することができる。

2 前項の規定により転学群・転学類・転学部・転学科を許可された者が既に履修した授業科目、単位数の取扱いおよび在籍すべき年数については、教授会の議を経て、学長が決定する。

(入学志願)

第22条 本学への入学を志願する者は、入学願書、所定の入学検定料及び出身学校長から提出される調査書を添えて、提出しなければならない。

2 前項の入学志願者については、別に定める駒沢女子大学入学者選抜規程により選抜を行う。

(入学手続)

第23条 前条の選抜の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに、別に定めるところに従い、手続を完了しなければならない。

2 学長は、前項の手続を完了した者に、入学を許可する。

## 第 7 章 教育課程及び履修方法

(授 業)

第24条 本学における授業科目は、必修科目、選択必修科目、選択科目とし、卒業に必要な単位は次のとおりとする。

人間総合学群人間文化学類日本文化専攻

授業科目群		必修	選択必修	選択	合計
教養教育科目	初年次教育科目	2単位		26単位 以上	124単位 以上
	建学の精神を学ぶ科目	4単位			
	入門科目		4単位		
	教養知科目		12単位		
	実践知科目	2単位			
	技法知科目	12単位			
	特設科目				
専門教育科目	日本文化専攻専門教育科目	20単位	42単位		
他専攻・他学類・他学科・他学部・他大学科目					

選択必修として必要な単位数を超えて修得した単位は、選択科目の単位数に算入される。

人間総合学群人間文化学類人間関係専攻

授業科目群		必修	選択必修	選択	合計
教養教育科目	初年次教育科目	2単位		26単位 以上	124単位 以上
	建学の精神を学ぶ科目	4単位			
	入門科目		4単位		
	教養知科目		12単位		
	実践知科目	2単位			
	技法知科目	12単位			
	特設科目				
専門教育科目	人間関係専攻専門教育科目	18単位	44単位		
他専攻・他学類・他学科・他学部・他大学科目					

選択必修として必要な単位数を超えて修得した単位は、選択科目の単位数に算入される。

人間総合学群人間文化学類英語コミュニケーション専攻

授業科目群		必修	選択必修	選択	合計
教養教育科目	初年次教育科目	2単位		26単位 以上	124単位 以上
	建学の精神を学ぶ科目	4単位			
	入門科目		4単位		
	教養知科目		12単位		
	実践知科目	2単位			
	技法知科目	12単位			
	特設科目				
専門教育科目	英語コミュニケーション専攻専門教育科目	12単位	50単位		
他専攻・他学類・他学科・他学部・他大学科目					

選択必修として必要な単位数を超えて修得した単位は、選択科目の単位数に算入される。

人間総合学群観光文化学類

授業科目群		必修	選択必修	選択	合計
教養教育科目	初年次教育科目	2単位		26単位 以上	124単位 以上
	建学の精神を学ぶ科目	4単位			
	入門科目		4単位		
	教養知科目		12単位		
	実践知科目	2単位			
	技法知科目	12単位			
	特設科目				
専門教育科目	観光文化学類専門教育科目	7単位	55単位		
他専攻・他学類・他学科・他学部・他大学科目					

専門教育科目の選択必修科目中、基本科目から6単位以上、観光実務関連科目から2単位以上、観光資源・文化関連科目から4単位以上修得すること。

選択必修として必要な単位数を超えて修得した単位は、選択科目の単位数に算入される。

人間総合学群心理学類

授業科目群		必修	選択必修	選択	合計
教養教育科目	初年次教育科目	2単位		26単位 以上	124単位 以上
	建学の精神を学ぶ科目	4単位			
	入門科目		4単位		
	教養知科目		12単位		
	実践知科目	2単位			
	技法知科目	12単位			
	特設科目				
専門教育科目	心理学類専門教育科目	14単位	48単位		
他専攻・他学類・他学科・他学部・他大学科目					

選択必修として必要な単位数を超えて修得した単位は、選択科目の単位数に算入される。

人間総合学群住空間デザイン学類

授業科目群		必修	選択必修	選択	合計
教養教育科目	初年次教育科目	2単位		26単位 以上	124単位 以上
	建学の精神を学ぶ科目	4単位			
	入門科目		4単位		
	教養知科目		12単位		
	実践知科目	2単位			
	技法知科目	12単位			
特設科目					
専門教育科目	住空間デザイン学類専門教育科目	12単位	50単位		
他専攻・他学類・他学科・他学部・他大学科目					

専門教育科目の選択必修科目中、コースの必要とする32単位以上修得すること。

選択必修として必要な単位数を超えて修得した単位は、選択科目の単位数に算入される。

人間健康学部健康栄養学科

授業科目群		必修	選択	合計
教養教育科目	教養科目	12単位	7単位以上	124単位 以上
	情報科学科目	1単位		
	外国語科目	4単位		
	言語力育成科目			
	体育科目	2単位		
	基礎ゼミ科目	2単位		
専門教育科目	専門基礎科目・専門科目	96単位		
他専攻・他学類・他学群・他学科・他学部・他大学科目				

看護学部看護学科

授業科目群		必修	選択	小計	合計
教養教育科目	人間の理解	4単位	4単位以上	必修10単位 選択8単位以上	126単位 以上
	社会の理解	—			
	言語と文化の理解	4単位	2単位以上		
	情報と科学の理解	2単位	2単位以上		
専門基礎科目	健康と医療	19単位	4単位以上	必修26単位 選択4単位以上	
	健康の支援	7単位			
専門科目	看護の基礎	16単位	6単位以上	必修72単位 選択6単位以上	
	看護の実践	42単位			
	公衆衛生看護	3単位			
	看護の統合	11単位			
他専攻・他学類・他学群・他学科・他学部・他大学科目					

(履修科目数)

第24条の2 1学年において履修できる単位数の上限は、46単位とするが、看護学部においては、48単位とする。

2 (削除)

(授業科目)

第25条 前条の授業科目の名称、単位数、年次配当、及び履修方法は、別表第1に掲げるとおりとする。

(履修手続き)

第26条 学生は、毎学年の始めに、学費を納入し、その学年で履修しようとする授業科目について、指定された期限までに履修届を提出のうえ、履修しなければならない。

(単位取得)

第27条 履修した科目の試験に合格した者は、当該科目の履修を修了したと認められ、所定の単位が与えられる。

2 各授業科目に対する単位数は、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算する。ただし、出席しなければならない時間数の3分の1を超える欠席をした者は、単位を取得できないことがある。

- (1) 講義及び演習については、毎週1時間15週の授業をもって1単位とする。ただし、演習科目によっては、毎週2時間15週の授業をもって1単位とすることができる。
- (2) 実験、実習及び実技については、毎週2時間15週の授業をもって1単位とする。ただし、授業科目によっては、毎週3時間15週の授業をもって1単位とすることができる。



- (3) 講義及び演習並びに実験、実習及び実技の併用により行う授業については、毎週2時間15週の授業をもって1単位とする。
- (4) 外国語科目については、毎週2時間15週の授業をもって1単位とする。

(教職に関する専門科目)

第27条の2 教育職員の免許を取得しようとする者は、教職に関する専門教育科目及び必要な授業科目を履修しなければならない。

- 2 前項の履修により、本大学において取得できる教育職員免許状の種類及び教科は、次表のとおりとする。

学群	学類	専攻	免許状の種類・教科
人間総合学群	人間文化学類	日本文化専攻	中学校教諭一種免許状(国語) 高等学校教諭一種免許状(国語)
		英語コミュニケーション専攻	中学校教諭一種免許状(英語) 高等学校教諭一種免許状(英語)

- 3 教育職員の免許を取得するために必要な授業科目及び単位数は、別表第1の2のとおりとする。

(学校図書館司書教諭免許)

第27条の3 学校図書館司書教諭の免許を取得しようとする者は、前条の教職に関する専門教育科目及び必要な授業科目を履修したうえで、学校図書館司書教諭講習規程に定める科目を履修しなければならない。

- 2 学校図書館司書教諭の免許を取得するために必要な授業科目及び単位数は、別表第1の3のとおりとする。

(博物館学芸員養成課程)

第27条の4 博物館学芸員の資格を取得しようとする者は、博物館学芸員養成課程に関する科目を履修しなければならない。

- 2 博物館学芸員の資格を取得するために必要な授業科目及び単位数は、別表第1の4のとおりとする。

(栄養士の資格及び管理栄養士受験資格)

第27条の4の2 栄養士の資格を得ようとする者は、人間健康学部健康栄養学科の卒業に必要な単位のほかに、栄養士法、同法施行規則に定める所定の科目を履修し単位を修得しなければならない。

- 2 管理栄養士国家試験の受験資格を得ようとする者は、前項によるほか、管理栄養士学校指定規則に定める所定の科目を履修し単位を修得しなければならない。

(建築士受験資格)

第27条の4の3 建築士試験の受験資格を得ようとする者は、人間総合学群住空間デザイン学類の卒業に必要な単位のほかに、建築士法に定める所定の科目を履修し単位を修得しなければならない。

(看護師受験資格)

第27条の4の4 看護師国家試験の受験資格を得ようとする者は、看護学部看護学科の卒業に必要な単位を修得しなければならない。

(保健師受験資格)

第27条の4の5 保健師国家試験の受験資格を得ようとする者は、看護学部看護学科の卒業に必要な単位のほかに、「保健師助産師看護師学校指定規則別表1」に定める所定の科目を履修し単位を修得しなければならない。

(養護教諭二種免許)

第27条の4の6 養護教諭二種の免許を得ようとする者は、「保健師助産師看護師学校指定規則別表1」に定める所定の科目を履修し単位を修得するとともに、別表第1の2の「教育職員免許法施行規則第66条の6」で定める科目を履修し単位を修得しなければならない。

(公認心理師受験資格)

第27条の4の7 公認心理師の受験資格を得ようとする者は、人間総合学群心理学類の卒業に必要な単位のほかに、公認心理師法、同法施行規則に定める所定の科目を履修し、単位を修得しなければならない。

(他大学における履修単位の認定)

第27条の5 本学は、教育上有益と認めるときは、学生が他の大学の授業科目を履修することを許可することができる。許可を受け履修した授業科目において修得した単位は、30単位を超えない範囲で、本学において修得したものと認定する。

(海外留学における履修単位の認定)

第27条の6 本学は、教育上有益と認めるときは、学生が海外留学により授業科目を履修することを許可することができる。許可を受け履修した授業科目において修得した単位は、30単位を超えない範囲で、本学において修得したものと認定する。

- 2 駒沢女子大学海外留学制度により留学した期間は、半年を限度として第17条に定める修業年数に含めることができる。
- 3 前項の、駒沢女子大学海外留学制度に関しては、別に定める。

## 第 8 章 試験及び成績

### (試 験)

第28条 試験は、筆記又は口述によるものとする。ただし、論文の提出その他の方法によることもできる。

### (試験の期日)

第29条 試験は、学期末又は学年末において行う。ただし、必要があると認めるときは、その他の時期においても行うことができる。

### (受験の条件)

- 第30条 試験は、履修した授業科目でなければ、受けることができない。
- 2 学費及び必要な手数料を納入していない者は、試験を受けることができない。
  - 3 休学又は停学の期間中は、試験を受けることができない。

### (成績の表示)

第31条 成績は、秀 (100～90)、優 (89～80)、良 (79～70)、可 (69～60)、不可 (59以下) とし、秀、優、良及び可を合格とし、不可を不合格とする。

### (成績の通知)

第31条の2 試験の成績の発表は各学期末とし、書類をもって学生に通知する。

## 第 9 章 卒業及び学位

### (卒業に必要な単位)

第32条 卒業に必要な単位は、人間総合学群及び人間健康学部が124単位以上、看護学部が126単位以上とする。

### (卒業の要件)

- 第33条 卒業の要件は、次の各号に定めるとおりとする。
- (1) 4年以上在学すること。ただし、第21条第1項により入学した者については、同条第2項により定められた在学すべき年数以上在学すること。
  - (2) 卒業に必要な単位を修得していること。

### (学位の授与)

第34条 前条の規定により、卒業証書を授与された者は、人間総合学群については、学士（日本文化・人間関係・英語コミュニケーション・観光文化・心理学・住空間デザイン）の学位、人間健康学部については、学士（健康栄養）の学位、看護学部については、学士（看護学）の学位を授与する。

## 第 10 章 休学、退学及び除籍

### (休 学)

- 第35条 病気その他やむを得ない事由により2ヶ月以上修学することができない者は、その理由を付して、保証人と連署の休学願を提出し、教授会の議を経て、学長の許可を受け、学期の終わりまで休学することができる。
- 2 休学の事由が消滅しない者は、許可を受けて引き続き1学期休学することができる。
  - 3 休学の期間は、通算して4年を超えることはできない。休学期間は、在学年数に算入しない。
  - 4 第18条の規定は、休学した者にも適用する。
  - 5 休学した者は、休学の事由が消滅したときは、保証人と連署の復学願を提出し、教授会の議を経て、学年又は学期の始めに復学することができる。

### (退学等)

第36条 退学しようとする者及び転学を希望する者は、その理由を付して、保証人と連署の退学願を提出し、教授会の議を経て、学長の許可を受けなければならない。

### (再入学)

- 第37条 一旦退学した者が再入学しようとする場合は、選考のうえ教授会の議を経て、学長は許可することがある。
- 2 再入学の出願資格、手続等については、別に定める。

### (除 籍)

- 第38条 次の各号の一に該当する者は、教授会の議を経て、学長が除籍する。
- (1) 新入生で、指定された期間までに履修届を提出しない者、その他本学において修学する意思がないと認められる者
  - (2) 督促を受けた滞納学費を、指定された期日までに納入しない者
  - (3) 第18条の規定による在学できる年数を超える者
  - (4) (削除)

## 第 11 章 賞 罰

### (褒 賞)

第39条 本学の学生として褒賞に値する行為があった者に対して、学長は、教授会の議を経て、褒賞することができる。

### (懲 戒)

第40条 本学の規定に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者に対して、学長は、教授会の議を経て、訓告、停学又は退学の処分をすることができる。

- 2 前項の処分は、行為の軽重、教育上の必要を考慮してなさなければならない。
- 3 第1項の退学処分は、次の各号のいずれかに該当する者に対してでなければ行うことができない。
  - (1) 性行不良にして改善の見込みがないと認められる者
  - (2) 学業を怠り修業の見込みがないと認められる者
  - (3) 正当の理由がなくて出席の常でない者
  - (4) 本学の秩序を乱し、本学則に反し、学生の本分に反する行為をした者

## 第 12 章 学 費 等

### (選抜料)

第41条 本学への入学を志望する者は、別表第2に掲げる入学検定料を納めなければならない。

### (学 資)

第42条 本学の入学金及び学費は、次のとおりとし、その納入額は別表第2、第3に掲げるとおりとする。

- (1) 入学金
- (2) 学費
  - 授業料
  - 維持費
  - 実習費

### (授業料)

第43条 授業料は、4月20日までに納めなければならない。ただし、次の二期に分け分納することもできる。

- 第一期は、4月20日まで
- 第二期は、9月20日まで

### (学 費)

第44条 学費は出席の有無にかかわらず学籍のある間は、これを納めなければならない。ただし、理事長が必要と認めた場合には、学費の全部又は一部を減免することができる。

- 2 休学期間中の授業料・実習費は免除する。ただし、維持費は納めなければならない。

### (授業料等の不返還)

第45条 納入した授業料等は、原則として返還しない。ただし、入学手続きを完了した者で所定の期日内に入学辞退届を提出し、本学が受理した者に限り入学金を除く納付金を返還する。

### (手数料)

第46条 手数料の種類及び納入額については、別に定める。

## 第 13 章 外国人留学生及び帰国生徒

### (外国人留学生)

第47条 外国人留学生とは、本学入学を目的として入国許可を受けて入国し、本学に入学、編入学又は学士入学した者をいう。

### (帰国生徒)

第48条 帰国生徒とは、外国人留学生以外の学生で、外国において相当期間の中等教育を受けた者をいう。

### (委 任)

第49条 前2条に規定する者の修学については、特設科目及び履修方法等、別に定めるところによる。

## 第 14 章 科目等履修生及び公開講座

(科目等履修生)

- 第50条 本学は、正規の授業を妨げない限りにおいて、教授会の議を経て、科目等履修生の登録を許可することがある。  
2 科目等履修生の登録資格等については、別に定める。

(公開講座)

- 第51条 本学においては、公開講座を開設することがある。

## 第 15 章 改正

(改正)

- 第52条 この学則の改正は、教授会の意見を聴き、学長が理事会の承認を得なければならない。

- 附則 この学則は、平成5年4月1日から施行する。  
附則 この学則は、平成7年4月1日から施行する。  
附則 この学則は、平成9年4月1日から施行する。  
附則 この学則は、平成10年4月1日から施行する。  
附則 この学則は、平成12年4月1日から施行する。  
附則 この学則は、平成13年4月1日から施行する。  
附則 この学則は、平成14年4月1日から施行する。  
附則 この学則は、平成15年4月1日から施行する。  
附則 この学則は、平成16年4月1日から施行する。  
附則 この学則は、平成17年4月1日から施行する。  
附則 この学則は、平成17年12月1日から施行する。  
附則 この学則は、平成18年4月1日から施行する。  
附則 この学則は、平成19年4月1日から施行する。  
附則 この学則は、平成20年4月1日から施行する。  
附則 この学則は、平成21年4月1日から施行する。  
附則 この学則は、平成22年4月1日から施行する。  
附則 この学則は、平成23年4月1日から施行する。  
附則 この学則は、平成24年4月1日から施行する。  
附則 この学則は、平成25年4月1日から施行する。  
附則 この学則は、平成26年4月1日から施行する。  
附則 この学則は、平成26年6月12日に改正し、平成26年7月1日から施行する。  
附則 この学則は、平成27年4月1日から施行する。  
附則 この学則は、平成28年4月1日から施行する。ただし、平成27年度以前に入学した者については従前のおりとする。  
附則 この学則は、平成28年5月19日に改正し、平成28年7月1日から施行する。  
附則 この学則は、平成29年3月31日に改正し、平成30年4月1日から施行する。ただし、平成29年度以前に入学した者については従前の通りとする。人文学部は、平成30年度から学生募集を停止し、対象となる学生が在籍しなくなったときに廃止する。  
附則 この学則は、平成30年7月24日から施行する。  
附則 この学則は、平成31年4月1日から施行する。  
附則 この学則は、令和2年12月19日から施行する。  
附則 この学則は、令和3年6月1日から施行する。  
附則 この学則は、令和4年4月1日から施行する。  
附則 この学則は、令和5年4月1日から施行する。ただし、看護学部は、令和4年度入学者にも適用する。  
附則 この学則は、令和6年4月1日から施行する。ただし、令和6年度入学者から適用する。

学則第41条及び第42条 別表第2 入学検定料・入学金

人間総合学群、人間健康学部、看護学部

入学検定料

一般選抜、学校推薦型選抜、総合型選抜、特別入学者選抜

30,000円	学校推薦型選抜(指定校制)、学校推薦型選抜(公募制)、総合型選抜、一般選抜、特別入学者選抜
15,000円	大学入学共通テスト利用選抜

※ インターネット出願を利用し、一般選抜、大学入学共通テスト利用選抜を複数回出願する場合は、2回目以降 5,000円割引

※ 推薦系入学者選抜(学校推薦型選抜(指定校制)、学校推薦型選抜(公募制)、総合型選抜など)に合格し、入学手続を完了した者が、スカラシップ制度(新入生)の選抜試験に出願する場合、10,000円とする。

入学金

300,000円
----------

本短期大学から3年次編入する者の入学金を免除する。

本短期大学卒業後1年以上経過した者が3年次編入する場合、または、本大学を卒業した者が再度入学する場合の入学金を2分の1とする。

一旦退学した者が再入学する場合の入学金を2分の1とする。

卒業生子女入学特典制度、大学・短期大学姉妹入学特典制度、寺院関係者入学特典制度、併設校(駒沢学園女子高等学校)対象入学特典制度について、以下のように定める。ただし、重複して特典を受けることはできない。

また、同時に姉妹が入学する場合はいずれかを減額とする。

	入学特典制度	対象の入学者選抜	特典内容
1	卒業生子女入学特典制度	学校推薦型/総合型/一般/ 大学入学共通テスト利用選抜 での合格・入学者	入学金の3分の1を減額
2	大学・短期大学 姉妹入学 特典制度		
3	寺院関係者入学特典制度		
4	併設校(駒沢学園女子高等学 校)対象入学特典制度※	本学が専願型として実施する 学校推薦型選抜(併設校専願 型)の合格・入学者	入学金の2分の1を減額
		本学が専願型として実施する 学校推薦型選抜(公募制) の合格・入学者	
		本学が専願型として実施する 総合型選抜(専願型) の合格・入学者	
		本学が実施する 専願型ではない入学者選抜 の合格・入学者	入学金の3分の1を減額

※現役生のみ

学則第42条 別表第3 学費

人間総合学群

授業料	800,000 円	1期	400,000 円
		2期	400,000 円
維持費	200,000 円	1期	100,000 円
		2期	100,000 円

人間文化学類・観光文化学類(2年次以降)

実習費	36,000 円	1期	18,000 円
		2期	18,000 円

心理学類・住空間デザイン学類(2年次以降)

実習費	66,000 円	1期	33,000 円
		2期	33,000 円

※人間総合学群の1年次実習費は一律36,000円とする。

人間健康学部

授業料	800,000 円	1期	400,000 円
		2期	400,000 円
維持費	250,000 円	1期	125,000 円
		2期	125,000 円

実習費	100,000 円	1期	50,000 円
		2期	50,000 円

看護学部

授業料	1,050,000 円	1期	525,000 円
		2期	525,000 円
維持費	300,000 円	1期	150,000 円
		2期	150,000 円

実習費	1、2年次	225,000 円	1期	112,500 円
			2期	112,500 円
	3、4年次	300,000 円	1期	150,000 円
			2期	150,000 円

看護学部において、保健師教育課程の履修費を別に定めるところにより徴収する。





Komajo